

(變換前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

2 前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

3 宅地又ハ鑛泉地ニ變換スル土地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ地目變換減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ地目變換著手ノ日ヨリ三十日内ニ、地目變換減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第四十八條 地目變換減租期中ニ於テ其ノ原地又ハ變換地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セズ

2 地目變換減租期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期ハ消滅ス

第四十九條 地目變換減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第五十條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ(地目變換減租期中ナルト否トフ問ハズ)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第五十一條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

2 地目變換減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙地目變換セザル土地ニ付テハ地目變換シタルトキ直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

第五十二條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ賃賃價格ヲ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第五十三條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ地目又ハ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五節 荒地免租

第五十四條 本法ニ於テ荒地ト稱スルハ災害ニ因リ地形ヲ變ジ又ハ作土ヲ損傷シタル土地ヲ謂フ

第五十五條 荒地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ荒地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ十五年内ノ荒地免租年期ヲ許可ス

2 前項ノ年期滿了スルモ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノニ付テハ更ニ十五年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

3 海、湖又ハ河川ノ狀況ト爲リタル荒地ニ付テハ前項ノ延長年期ハ二十年内トス其ノ年期滿了スルモ尙海、湖又ハ河川ノ狀況ニ在ルモノハ本法ノ適用ニ付テハ海、湖又

ハ河川下爲リタルモノト看做ス

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ稅務署長ニ申請スベシ

2 荒地免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第五十七條 荒地免租年期地ニ付テハ免租年期許可ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セズ

第五十八條 荒地免租年期中ノ土地ガ再ビ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ノ年期ハ消滅ス

第五十九條 開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期中ノ土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル年ヨリ荒地免租年期滿了ニ至ル迄ハ開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ハ其ノ進行ヲ止ム

2 前項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 荒地免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第六十一條 荒地免租年期地ニ付テハ納稅義務者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第六十二條 荒地免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

第六十三條 荒地免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第六十四條 荒地免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シタル土地ニ付テハ其ノ設定ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第三章 災害地免租

第六十五條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ互ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年分地租ハ之ヲ免除ス

第六十六條 地目變換若ハ開墾成功ノ申告アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ賃貸價格配賦ノ申出アリタル土地ニシテ未ダ土地臺帳ヲ更正セザルモノニ付テハ其ノ成功地目ガ田畑ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十七條 前二條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ稅務署長ニ申請スベシ

第六十八條 前條ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六十九條 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セズ

第四章 自作農地免租

第七十條 田畑地租ノ納期開始ノ時ニ於テ納稅義務者(法人ヲ除ク)ノ住所地市町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃賃價格ノ合計金額ガ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納期分地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス但シ小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

2 民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ住所地市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スベシ
2 前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期

開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五章 地租徵收

第七十二條 稅務署長ハ土地ノ異動其ノ他地租徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スベシ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ賃賃價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃賃價格ノ合計金額ガ一圓ニ滿タザルトキハ地租ヲ徵收セズ

2 田、畑、宅地以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃賃價格及地租ノ總額竝ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スベシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

2 前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第七十五條 市町村ハ第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ノ賃賃價格ノ總額ヲ前條ノ例ニ準ジ稅務署長ニ報告スベシ

第七十六條 大藏大臣ハ稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ隨時市町村ニ於ケル國稅徵收

ニ關スル事務ヲ監督セシムベシ

第六章 雜 則

第七十七條 他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ヲ免除シタル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十七條及第六十條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 稅務署長土地ノ異動ニ因リ地番、地目、地積又ハ賃貸價格ヲ土地臺帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ土地所有者及納稅義務者ニ通知スベシ

第七十九條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村內ニ現住セザルトキハ地租ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ市町村內ニ現住スル者ニ就キ納稅管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スベシ

第八十條 土地所有者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者ガ爲スベカリシ申告ハ所有者ノ變更アリタル日ヨリ三十日內ニ新所有者ヨリ之ヲ爲スベシ

第八十一條 本法ニ依リ土地所有者ヨリ爲スベキ申告又ハ申請ハ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ登錄セラレタル質權者又ハ地上權者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

2 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第八十三條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地租ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ地租ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

2 前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第八十四條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サズ仍テ地租ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス

第八十五條 前二條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ニ拘ラズ當該土地一筆毎ニ其ノ地租ヲ算出ス

第八十六條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又ハ土地ノ所有者、質權者、地上權者其ノ他利害關係人ニ對シ必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得

2 前項ノ場合ニ於テ土地ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

2 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第八十八條 本法ハ國有地ニ之ヲ適用セズ

第五類 土地及公園 地租法

第八十九條 府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セザル土地ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ所有者以外ノ者同條第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其ノ土地ニ付使用者ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

第九十條 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限リ第十條ノ規定中百分ノ三・八トアルハ百分ノ四、第十一條ノ規定中宅地租第一期其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年九月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年三月一日ヨリ三十一日限、第七十一條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

第九十一條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

地租條例
災害地租免除法
宅地地價修正法

明治七年第二百二十號布告地所名稱區別

明治三十四年法律第三十號

明治三十七年法律第三十一號

明治三十七年法律第十二號

明治三十七年法律第十六號

大正十五年法律第四十七號

第九十二條 土地賃貸價格調査法ニ依リ賃貸價格ノ調査ヲ爲シタル土地ニ付テハ同法ニ依リ調査シタル賃貸價格ヲ以テ本法施行ノ際ニ於ケル賃貸價格トス但シ其ノ賃貸價格ニ依リ算出シタル本法ノ地租額ガ從前ノ地價ニ依リ算出シタル舊法ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地ニ在リテハ舊法ノ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第九十三條 大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル土地(免租年期又ハ低價年期ノ滿了ニ因リ原地價ニ復シタルモノヲ含ム)ニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ賃貸價格ヲ定ム

2 大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ分筆又ハ合筆ヲ爲シタル土地ニ付テハ第十三條ノ例ニ準ジ前條ノ賃貸價格ヲ配分又ハ合算シテ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十四條 舊法ニ依リ低價年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ原地價ニ復セザルモノニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十五條 前三條ノ規定ニ依リ賃賃價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ本法ニ依リ地租ヲ徵收ス

第九十六條 本法施行前ニ於ケル土地ノ異動中本法施行ノ際未ダ舊法ニ依リ地價ノ設定又ハ修正其ノ他ノ處分ヲ爲サザルモノニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノニ關シテハ本法ヲ適用ス但シ第九十一條但書ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第九十七條 舊法ニ依ル届出又ハ申請ニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依ル申請又ハ申請ト看做ス

第九十八條 舊法ニ依リ開墾ノ届出アリタル土地ニシテ本法施行ノ際開墾著手後未ダ二十年ヲ經過セザルモノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年租ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十九條 舊法ニ依リ免租年租、減下年租又ハ地價据置年租ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ年租ノ滿了セザルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ免租年租又ハ減租年租ヲ許可セラレタルモノト看做ス

- 一 地租條例第十六條第三項ノ減下年租ハ第三十六條第二項ノ開墾減租年租トス
- 二 地租條例第十六條第四項ノ減下年租ハ第十九條第一項ノ開墾減租年租トス
- 三 地租條例第十六條第五項ノ新開免租年租ハ第二十條第一項ノ埋立免租年租トス
- 四 地租條例第十六條第六項ノ地價据置年租ハ第四十六條第一項ノ地目變換減租年租トス

期トス

五 明治三十四年法律第三十號ノ年租延長ハ前各號ノ例ニ準ジ第十九條第二項、第二十二條第二項、第三十六條第三項又ハ第四十六條第二項ノ年租延長トス

六 地租條例第二十條ノ荒地免租年租ハ第五十五條第一項ノ荒地免租年租トス

七 地租條例第二十三條又ハ第二十四條ノ免租繼年租ハ荒地ノ種類ニ從ヒ第五十五條第二項又ハ第三項ノ年租延長トス

2 前項ノ年租ハ舊法ニ依リ許可セラレタル年租ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス

第百條

地積ハ第七條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

- 一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ六尺平方坪、坪ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勾トシテ之ヲ定メ勾未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
- 二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハ六尺平方歩、三十歩ヲ畝、十畝ヲ段、十段ヲ町トシテ之ヲ定メ歩未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一步未滿ナルモノニ付テハ歩ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勾トシテ之ヲ定メ勾未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第百一條

舊法ノ土地臺帳ハ之ヲ本法ノ土地臺帳ト看做ス

第百二條

小笠原島及伊豆七島ノ地租ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

地租法施行規則

(昭和六年四月一日 勅令第四七號)

第一章 總 則

第一條

地租法第二條第一號及第二號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、北海道地方費

二 市町村學校組合、町村學校組合、學區

第二條

水利組合、水利組合聯合、北海道土功組合

第三條

土地ノ所有權、質權又ハ地上權ノ得喪變更ニ關スル事項ハ登記所ヨリ通知アルニ非ザレハ土地臺帳ニ之ヲ登録セズ但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第一

新ニ土地臺帳ニ登録スベキ土地ヲ生ジタルトキ

第二

未登記ノ土地ガ土地臺帳ニ登録ヲ要セザル土地ト爲リタルトキ

第三

未登記ノ土地ガ收用セラレタルトキ

第四條

土地臺帳謄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ土地一筆ニ付十錢ノ手数料ヲ納メ稅

務署長ニ之ヲ請求スベシ

2 前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムベシ

3 謄本ハ送付ニ要スル郵便切手ヲ提供シテ之ガ郵送ヲ求ムルコトヲ得

4 國有地又ハ御料地ノ拂下又ハ讓與ニ係ル土地ニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ズ

5 土地臺帳謄本ノ書式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條

北海道、鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ於ケル地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

北海道

一 宅地

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

二 其他

第一期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

鹿兒島縣

第二期 翌年五月一日ヨリ三十一日限

鹿兒島縣

鹿兒島縣大島郡十島村 翌年五月一日ヨリ八月三十一日限

鹿兒島縣

鹿兒島縣大島郡(十島村ヲ除ク) 翌年五月一日ヨリ三十一日限

第五類

土地及公園 地租法施行規則

第五類 土地及公園 地租法施行規則

沖繩縣那霸市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡
一 宅地租及田租

二 其ノ他 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限 年額全部

沖繩縣宮古郡平良村字鹽川、仲筋、水納、八重山郡八重山村字波照間、與那國

沖繩縣宮古郡(平良村字鹽川、仲筋、水納ヲ除ク)、八重山郡(八重山村字波照間、與那國ヲ除ク)

一 宅地租

二 田租

三 其ノ他 翌年三月一日ヨリ三十一日限 年額全部
其ノ年七月一日ヨリ三十一年限 年額全部
翌年五月一日ヨリ三十一日限 年額全部

第六條

土地ノ異動ニ關スル申告書(年期限滿了申告書ヲ含ム)ニハ異動ノ種類ヲ表示シ

第二章 土地ノ異動

2 前項ノ申告書中新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ニ關スル申告書又ハ分筆ノ申告書ニハ地積ノ測量圖ヲ添付スベシ其ノ他ノ申告書ニシテ之ニ記載シタル異動地ノ地積方其ノ原地ノ地積ト同一ナラザルモノニ付亦同ジ

第七條

地目、地積及賃貸價格(無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク)ヲ記載シ尙左ノ事項ヲ附記スベシ

一 開拓減租年期又ハ埋立免租年期ニ付テハ有租地ト爲リタル事由

二 二十年ノ開墾減租年期ニ付テハ開墾ノ豫定地目及著手ノ日

三 四十年ノ開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ニ付テハ開墾又ハ變換ノ豫定地目著手ノ日及事業計畫

四 荒地免租年期ニ付テハ荒地ト爲リタル事由、被害ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期

五 前各號ノ年期ノ延長ニ付テハ土地ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期

第八條 開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニ付開墾若ハ變換ノ豫定地目ヲ變更シ又ハ開墾若ハ變換ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク稅務署長ニ之ヲ申告スベシ

第五類 土地及公園 地租法施行規則

第三章 災害地免租

第九條 災害地免租ノ申請書ニハ收穫皆無ニ歸シタル事由、被害ノ狀況、土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載スベシ

第十條 災害地免租ノ申請ヲ爲ス者ハ稅務署長ノ承認ヲ受クル迄收穫皆無ノ事實ヲ證スルニ足ルベキ作毛ヲ存置スベシ

第十一條 地租法第六十六條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル
一 地目變換地又ハ開墾地ニ在リテハ原地(變換又ハ開墾前ノ土地)ノ地租ヲ免除ス
二 耕地整理地ニ在リテハ收穫皆無ニ歸シタル換地ニ相當スル從前ノ土地ノ地租ヲ免除ス

第四章 自作農地免租

第十二條 地租法第七十條第二項ニ規定スル永小作權者ニシテ同條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ左ノ事項ヲ田畑所在ノ市町村長ニ申告スベシ

- 一 永小作權ノ目的タル田畑ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格
- 二 田畑所有者ノ住所及氏名
- 三 永小作權設定ノ年月日

2 前項ノ申告期間經過後新ニ地租法第七十條第一項ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申告ヲ爲スコトヲ得

第十三條 市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申告ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證スベキ證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 第十二條ノ申告ヲ爲シタル永小作權者ハ地租法第七十條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ當該田畑ノ所有者ト看做ス

第十五條 地租法第七十一條ノ規定ニ依ル地租免除ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番及地目ヲ記載スベシ但シ申請者ガ其ノ住所及隣接市町村内ニ於ケル自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第十六條 市町村ハ其ノ市町村内ニ於ケル田畑ニ付地租ヲ納ムベキ者(地租法第七十條第二項ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル永小作權者ヲ含ム)ノ住所ガ隣接市町村内ニ在ルトキハ各人別田畑ノ賃貸價格合計金額ヲ毎年三月中ニ其ノ住所市町村ニ通知スベシ

2 前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始迄ニ通知事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ之ヲ住所市町村ニ通知スベシ

第十七條 市町村ハ隣接市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ申請者ノ住所市町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃貸價格ノ合計金額ガ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ其ノ旨ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知ス

2 前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始ノ時迄ニ通知事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ之ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スベシ

第五章 地租徴收

第十八條 市町村ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ同法第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ヲ調査シ同法第七十五條ノ報告ヲ爲スベシ

第十九條 市町村ハ其ノ市町村内ノ土地ニ付土地臺帳ノ副本及地租名寄帳ヲ設備スベシ

2 地租名寄帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六章 雜 則

第二十條 地租法以外ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除スル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 地租法第七十八條ノ規定ニ依ル通知及減租又ハ免租ノ申請ニ對スル許否ノ通知ハ土地所在ノ市町村ヲ經由スベシ

第二十二條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市ニ關スル規定ハ

區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス
2 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附 則

1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限り第五條ノ規定中北海道宅地租第一期其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第一期其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣那霸市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡宅地租及田租其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣宮古郡(平良村字鹽川、仲筋、水納ヲ除ク)八重山郡(八重山村字波照間、與那國ヲ除ク)田租其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、第十六條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

2 地租條例施行規則、土地臺帳規則、明治三十八年勅令第五百五十九號及明治四十四年勅令第九十二號ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

地租法施行細則 (昭和六年四月一日) (大藏省令第六號)

- 第一條 土地臺帳ハ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ
- 第二條 土地臺帳ノ謄本ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ
- 第三條 地租名寄帳ハ第三號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ
- 第四條 地租法第七十四條及第七十五條ノ規定ニ依ル報告書ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スベシ

附 則

- 1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 土地臺帳規則施行細則、大正三年大藏省令第五號、明治二十二年大藏省訓令第四十九號ハ之ヲ廢止ス
- 3 土地臺帳(副本ヲ含ム)及地租名寄帳ノ書式ニ付テハ當分ノ内從前ノ例ニ準ズルコトヲ得
- 4 明治三十八年大藏省令第五十號中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ改ム

(書式略)

國有財産法 (大正十年四月八日) (法律第四三號)

- 第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ
- 第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス
 - 一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 二 公共財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ
- 第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ
- 第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得
 - 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ
 - 二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ

第五類 土地及公園 國有財産法

之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財產ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財產ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財產ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財產ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財產ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財產引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財產ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

2 隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

2 前項ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知トキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財產ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財產ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

2 貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財產ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財產ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財產ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其契約ヲ解除スルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財產ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財產ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財產ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財產ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財產ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ每會計年度間ニ於ケル國有財產増減總計算書及每五年三月三十一日現在ノ國有財產現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財產増減總計算書ニハ各省ノ國有財產増減報告書ヲ、國有財產現在額總

計算書ニハ各省ノ國有財產現在額報告書ヲ添附スヘシ

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年勅令第六一號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財產ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財產増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財產現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

國有財產法施行令 (大正十一年一月二十八日) 改(昭和二年三月三十一日) 勅令 第一一五號 正(勅令 第四二二號)

第一章 總 則

第一條 左ニ掲クル動產及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財產法第一條ノ國有財產トス

一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠

二 不動產又ハ前號ニ掲クル動產ノ從物

三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四 地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利

五 株式及出資ニ因ル權利

2 前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

2 前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財產タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財產ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定

第五類 土地及公園 國有財產法施行令

第五類 土地及公園 國有財產法施行令

セラレタルモノ及帝國鐵道會計、製鐵所特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス (昭和二年三月勅令第四二號改正)

第三條 各省大臣國有財產ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一 公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ

二 公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三 雜種財產ヲ公用財產又ハ營林財產ト爲サムトスルトキ

四 營林財產ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財產法施行地外ニ在ル財產及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財產ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財產ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財產ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルトコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルトコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財產ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルトコトヲ得但シ財產ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財產中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルトコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財產ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ
2 評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第五類 土地及公園 國有財產法施行令

第五類 土地及公園 國有財産法施行令

五九八

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途竝之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

2 前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得
2 前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

2 隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徵スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル

第五類 土地及公園 國有財産法施行令

五九九

契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一 土地又ハ水面ノ所在及面積

二 事業ノ目的

三 事業施行ノ方法及順序

四 成功豫定期間

五 收支豫算

六 計畫圖

2 事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

2 前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

2 天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定

ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ

2 前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條 國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

2 前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章 臺帳

第三十條 國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産

第五類 土地及公園 國有財産法施行令

第五類 土地及公園 國有財産法施行令

ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條 國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一 種目
二 所在又ハ所屬

三 數量

四 價格
五 得喪變更ノ年月日及事由

六 其ノ他必要ナル事項

第三十二條 國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額

二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格

三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費製造費又ハ見込價格

四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂

込金額又ハ出資金額

第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

2 前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

3 前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條 作業會計若ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ又ハ製鐵所特別會計ノ固定財産ノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格又ハ財産價格ニ依ルヘシ
(昭和二年三月勅令第四二號改正)

第六章 計算書及報告書

第三十五條 各省大臣ハ會計檢査院ニ證明ノ爲國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

2 前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第五類 土地及公園 國有財産法施行令

第五類 土地及公園 國有財産法施行令

第三十六條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

2 大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十七條 各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

2 大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜 則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及送附期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必

要ナル特例ヲ設クヘシ

附 則

第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十一年四月一日)

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ滄壘等修繕改築ニ關スル件

明治八年第四百六十六號達

明治八年第九百九十八號達

明治九年第四十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ滄壘外岸接近ノ官有地へ家屋等建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有財産管理規則

第五類 土地及公園 國有財産法施行令

第五類 土地及公園 國有財産法施行令

官有地取扱規則

- 明治二十四年勅令第十五號
- 明治二十七年勅令第九十二號
- 明治三十六年勅令第九十六號
- 明治三十九年勅令第二百二十號
- 明治四十一年勅令第一百十九號
- 明治四十二年勅令第七十號
- 大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附 則 (昭和二年三月勅令第四二號)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎國有財産法施行規則

(大正十一年二月八日大藏省令第一四號)

改正(大正十一年十二月大藏省令第六一號、昭和二年三月同第五號、七年八月同第一七號)

第一條 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、監獄、學校、官舎、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射擊場、飛行場、牧場、農場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財産法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接觸スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國有財産ノ臺帳ハ第一號様式ニ據ル但シ帝國鐵道會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ竝ニ製鐵所特別會計ノ固定財産ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ様式ヲ定ムルコトヲ得 (昭和二年三月大藏令第五號改正)

第五類 土地及公園 國有財産法施行令 國有財産法施行規則

第五類 土地及公園 國有財産法施行規則

2 國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財産ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得

第三條 臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於ケル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號様式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財産ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條 國有財産現在額報告書及國有財産増減報告書ハ第二號及第三號様式ニ據ル

附 則

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十一年四月一日)

附 則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス (昭和二年三月三十一日) (大藏省令第五號)

附 則

本令ハ昭和七年八月二十三日 (昭和七年八月二十三日) (大藏省令第一七號)

本令ハ昭和七年度ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和七年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ハ改正様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ (様式省略)

◎雜種財産取扱規程 (大正十五年六月三十日) (改(昭和四年七月大藏省訓令第九) 大藏省訓令第一二號) 正(昭和八年七月同第一〇號)

第一條 雜種財産ノ管理及處分ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ稅務監督局長之ヲ取扱フヘシ

2 稅務署長ハ前項ノ事務ニ付稅務監督局長ヲ補助スヘシ

第二條 稅務監督局長ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメラレタル事務ノ一部ヲ大藏大臣ノ認可ヲ經テ稅務署長ニ委任スルコトヲ得

第三條 稅務監督局長ハ常ニ所轄内ニ於ケル雜種財産ノ狀況ニ注意シ尙臺帳登錄漏又ハ引繼漏ノモノナキヤヲ調査スヘシ

第四條 各省部局長ヨリ雜種財産ノ引繼ヲ受クル場合ニ於テハ成ルヘク實地調査ノ上之ヲ爲スヘシ

第五條 雜種財産ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一 臺帳記載事項

二 賣拂價格ニ關スル調書

三 代金納付ノ方法及時期

四 指名競争契約ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ラムトスルモノニ付テハ其ノ事由

五 隨意契約ニ依リ特定ノ者ニ賣拂ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ其ノ相手方

六 賣拂ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件

第五類 土地及公園 雜種財産取扱規程

第五類 土地及公園 雜種財產取扱規程

七 其ノ他參考トナルヘキ事項

2 前項第二號ノ調書ハ賣買實例、精通者ノ意見其ノ他ノ資料ニ依リ成ルヘク詳細ニ記載スヘシ

第六條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅務監督局長限リ雜種財產ノ賣拂ヲ爲スコトヲ得

但シ異例ニ互ルモノ、重要ナルモノ及特ニ指定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 一般競争契約ニ依リ豫定價格二千圓ヲ超エサル雜種財產ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキ(昭和八年七月大藏省訓令第一〇號改正)

二 指名競争契約又ハ隨意契約ニ依リ豫定價格五百圓ヲ超エサル雜種財產ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキ(同上)

三 土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業成功ヲ條件トシテ賣拂ヲ豫約シタル場合ニ於テ豫約ニ從ヒ其ノ財產ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキ

第七條 隨意契約ニ依リ雜種財產ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ緣故アル者ニ之ヲ賣拂フトキ又ハ特殊ノ事情アルトキヲ除クノ外成ルヘク廣ク見積書ヲ徵シ賣拂フヘシ

第八條 雜種財產ノ讓與ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一 臺帳記載事項

二 讓與スヘキ財產ノ見積價格

三 讓與ノ相手方及讓與ヲ必要トスル事由

四 讓與ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件

五 其ノ他參考トナルヘキ事項

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅務監督局長限リ雜種財產ノ讓與ヲ爲スコトヲ得

但シ異例ニ互ルモノ、重要ナルモノ及特ニ指定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 國有財產法第五條第三號ニ該當スル場合ニシテ見積價格千圓ヲ超エサル雜種財產ノ讓與ヲ爲サムトスルトキ

二 國有財產法施行令第八條、第九條ニ該當スル場合ニシテ見積價格百圓ヲ超エサル雜種財產ノ讓與ヲ爲サムトスルトキ(昭和八年七月大藏省訓令第一〇號追加)

三 國有財產法施行令第十條ニ該當スル場合ニシテ見積價格五百圓ヲ超エサル雜種財產ノ讓與ヲ爲サムトスルトキ(同上)

四 土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業成功ヲ條件トシテ讓與ヲ豫約シタル場合ニ於テ豫約ニ從ヒ其ノ財產ノ讓與ヲ爲サムトスルトキ(同上ニ依リ本號順位線下)

第十條 雜種財產ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一 臺帳記載事項

二 交換ニ依リテ取得スヘキ物件ノ種目、所在及數量

三 交換ノ相手方及交換ヲ必要トスル事由

四 目的物ノ價格評定調書

五 交換ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件

六 其ノ他參考トナルヘキ事項

2 第五條第二項ノ規定ハ前項第四號ノ調書ニ付之ヲ準用ス

第十一條 寄附其ノ他ノ名義ニ依リ雜種財產ヲ取得セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一 財產ノ所在、種目、數量及見込價格

第五類 土地及公園 雜種財產取扱規程

第五類 土地及公園 雜種財產取扱規程

- 二 相手方及取得ノ事由
- 三 條件アルモノハ其ノ條件
- 四 其ノ他參考トナルヘキ事項
- 第十二條 雜種財產ヲ貸付セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ及貸付料其ノ他ノ契約條項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一 臺帳記載事項
- 二 貸付スヘキ財產ノ見積價格
- 三 貸付ノ目的
- 四 貸付期間其ノ他ノ條項
- 五 貸付料ニ關スル調書
- 六 繼續貸付ノ場合ニ於テハ前貸付料
- 七 其ノ他參考トナルヘキ事項
- 2 前項ノ場合ニ於テ無償貸付ヲ爲スノ必要アルトキ及指名競争契約ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ラムトスルトキハ其ノ事由ヲ具申スヘシ
- 第十三條 左記各號ノ範圍内ニ於テハ稅務監督局長限リ雜種財產ノ貸付ヲ爲シ又ハ契約條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ異例ニ互ルモノ、重要ナルモノ及特ニ指定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 一 建物ノ所有ヲ目的トスル場合ヲ除クノ外貸付料年額又ハ總額百圓ヲ超エサル雜種財產ニ付
- 二 三年以内ノ有償貸付ヲ爲サムトスルトキ

- 二 貸付料年額又ハ總額二百圓ヲ超エサル雜種財產ニ付當初貸付ヲ爲シタル日又ハ大藏大臣ニ稟請シテ貸付期間ヲ更新シタル日ヨリ三年ヲ超エサル範圍内ニ於テ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ
- 三 貸付料年額又ハ總額百圓ヲ超エサル雜種財產ニ付貸付料ヲ變更セムトスルトキ
- 四 土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業成功ヲ條件トシテ貸付ヲ豫約シタル場合ニ於テ豫約ニ從ヒ其ノ財產ノ貸付ヲ爲サムトスルトキ
- 第十四條 第十二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ雜種財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス四月以内ニ於テ雜種財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル場合ニ於テハ總テ稅務監督局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得
- 第十五條 國有財產法第二十一條ノ規定ニ依ル豫約事業者ニ對シ同條第二項ノ規定ニ依リ土地ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル場合ニ於テハ稅務監督局長限リ之ヲ認容スルコトヲ得
- 第十六條 雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ
- 一 臺帳記載事項
- 二 事業計畫書要領
- 三 事業者
- 四 事業成功ヲ條件トシテ爲スヘキ豫約ノ種類
- 五 豫約賣拂價格評定調書、貸付料評定調書又ハ讓與スヘキ財產ノ見積價格若ハ無償貸付スヘキ財產ノ見積貸付料ニ關スル調書

第五類 土地及公園 雜種財產取扱規程

第五類 土地及公園 雜種財產取扱規程

- 六 著手及成功豫定期間
- 七 讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ之ヲ必要トスル事由
- 八 其ノ他參考トナルヘキ事項
- 第十七條 國有財産法施行令第二十五條第二項及第二十六條第二項ノ規定ニ依リ豫定期間ノ延長ヲ承認セムトスルトキハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ
- 第十八條 豫約賣拂價格五百圓ヲ超エサル雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスルトキハ稅務監督局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得其ノ契約ニ付豫定期間ノ延長ヲ承認セムトスルトキ亦同シ(昭和八年七月大藏省訓令第一〇號改正)
- 第十九條 賣拂、讓與又ハ交換契約ヲ解除セムトスルトキ又ハ之ニ附帶シテ定メタル條件ヲ變更セムトスルトキハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ但シ其ノ契約ニ關シ稟請ヲ要セサル場合ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 2 前項ノ規定ハ貸付又ハ貸付ニ準スヘキ契約ニ付之ヲ準用ス
- 第二十條 雜種財産ノ管理及處分ニ關シ通常裁判所ニ出訴スルノ必要アルトキハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ
- 第二十一條 雜種財産ノ臺帳ハ稅務監督局ニ之ヲ備ヘ稅務署ニハ其ノ副本ヲ備フヘシ
- 第二十二條 臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ重要ナラサル財産ニ係ルモノト雖漸次之ヲ調製スヘシ
- 第二十三條 雜種財産ニ増減異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ臺帳ニ登錄シ附屬圖面ヲ補修スヘシ
- 第二十四條 雜種財産ヲ臺帳ニ登錄シタルトキハ決議書類、調査書類、其ノ他ノ關係書類ニ登錄

- 濟ノ年月日ヲ記載シ主任官吏之ヲ認印スヘシ
- 第二十五條 稅務監督局長ハ雜種財産貸付簿ヲ備ヘ雜種財産ニ付爲シタル貸付及貸付ニ準スヘキ契約ニ關スル事項ヲ登載整理スヘシ
- 第二十六條 稅務監督局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲計算證明規程ニ依リ國有財産増減計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ直ニ會計檢査院ニ提出スヘシ
- 2 稅務監督局長ハ前項ノ規定ニ依リ國有財産増減計算書ヲ提出シタルトキハ其ノ様式ニ準シ雜種財産ノ増減計算書ヲ調製シ直ニ之ヲ營繕管財局長官ニ送付スヘシ
- 第二十七條 稅務監督局長ハ國有財産法施行規則第三號様式ニ準シ每會計年度間ニ於ケル雜種財産ノ増減報告書ヲ調製シ翌年度六月三十日迄ニ營繕管財局長官ニ送付スヘシ
- 第二十八條 稅務監督局長ハ國有財産法施行規則第二號様式ニ準シ每五年三月三十一日現在ニ於ケル雜種財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ營繕管財局長官ニ送付スヘシ
- 第二十九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ其ノ都度營繕管財局長官ニ報告スヘシ
 - 一 各省ニ於テ公共用財産又ハ公用財産トシテ整理スルモノノ内雜種財産ト爲スヘキモノヲ發見シタルトキ
 - 二 雜種財産ノ保管ノ爲監守人ヲ置キ其ノ他特別ノ取扱ヲ爲シタルトキ
 - 三 雜種財産ニ付境界査定ヲ了シタルトキ
 - 四 前號ノ境界査定ニ對シ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スル者アリタルトキ及行政裁判所ノ判決アリタルトキ
 - 五 雜種財産ニ付通常裁判所ニ出訴スル者アリタルトキ及通常裁判所ノ判決アリタルトキ

第五類 土地及公園 雜種財產取扱規程

第五類 土地及公園 雜種財產取扱規程

六 第五條及第十二條ノ稟請ニ對シ競争契約ニ依ル賣拂又ハ貸付ノ指令ヲ受ケタルモノニ付入

札ヲ執行シタルトキ及會計規則第一百五條又ハ第一百六條ノ規定ニ依リ隨意契約ヲ締結シタルトキ及之カ契約解除ヲ爲シタルトキ (昭和八年七月大藏省訓令第一〇號改正)

第三十條 第六條、第九條、第十三條、第十四條及第十八條ノ規定ニ依リ稅務監督局長限リ處理シタル場合ニ於テハ別記様式ニ依リ毎月ノ事蹟ヲ翌月十五日限リ營繕管財局長官ニ報告スヘシ

第三十一條 雜種財產ノ賣拂、讓與、交換又ハ貸付若ハ貸付ニ準スヘキ契約ニ關スル願書ハ稅務監督局長ヲ經由シ大藏大臣宛ニ之ヲ提出セシムヘシ

2 稅務監督局長前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ進達スヘシ但シ其ノ契約ニ關シ稟請ヲ要セサル場合ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 公共團體ト契約ヲ締結セムトスル場合ニハ其ノ願書ニ其ノ議決機關ノ決議ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ決議書ノ謄本ヲ添付セシメ尙監督官廳ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ許可書ノ謄本ヲ提出セシムヘシ

第三十三條 府縣社以下ノ神社ノ提出スル願書、屆書及契約書ニハ神職及氏子又ハ崇敬者總代ノ連署ヲ爲サシムヘシ

2 寺院ノ提出スル願書、屆書及契約書ニハ住職及檀徒又ハ信徒總代ノ連署ヲ爲サシメ管長ノ添書ヲ附セシムヘシ

3 祠宇ノ提出スル願書、屆書及契約書ニハ受持教師及信徒總代ノ連署ヲ爲サシメ管長ノ添書ヲ附セシムヘシ

4 佛堂ノ提出スル願書、屆書及契約書ニハ受持僧侶及信徒總代ノ連署ヲ爲サシムヘシ

第三十四條 雜種財產タル不動産ニ關スル權利ノ得喪變更アリタルトキハ不動産登記法ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク其ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

附 則

第三十五條 本規程ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 本規程ノ實施以前ニ大藏大臣ニ稟請シタルモノニ付テハ尙從前ノ規程ニ依ル (書式省略)

附 則

(昭和八年七月大藏省訓令第一〇號)

1 本令ハ昭和八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

2 本令ノ實施以前ニ大藏大臣ニ稟請シタルモノニ付テハ尙從前ノ規程ニ依ル

◎内務省所管國有財產取扱規程 (大正十一年六月十九日 內務省訓令第一〇號)

改正 大正十一年七月內務省訓令第一四號、同年十月同第二一號、十三年四月同第六號、昭和二年八月同第二〇號、三年四月同第五號、四年六月同第九號、同年八月同第一八號、五年四月同第五號、七年四月同第三號

第一條 內務省所管ノ國有財產ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ但シ別段ノ定アルモノハ其ノ定ニ依ル

第二條 本規程ニ於テ部局長ト稱スルハ內務大臣官房會計課長、土木出張所長、千住機械工場監督、土木試驗所長、衛生試驗所長、社會局長官、職業紹介事務局長、癡兵院長、神宮大宮司、

第五類 土地及公園 雜種財產取扱規程 內務省所管國有財產取扱規程 六一七

第五類 土地及公園 內務省所管國有財產取扱規程

造神宮副使、警察講習所長、武藏野學院長、榮養研究所長、國立癩療養所長、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ謂フ（昭和五年四月內務省訓令第五號及昭和七年四月內務省訓令第三號改正）

第三條 左ニ掲クル事項ハ部局長限り之ヲ處理スヘシ

- 一 國有財產ノ管理ニ關スル事項
- 二 公用財產ノ一時使用許可ニ關スル事項
- 三 公用財產タル土地ノ用途變更ニシテ大藏大臣ノ定メタルモノニ該當セサルモノ、其ノ異動面積百坪ヲ超エサルモノ、相接續スル兩敷地區域ノ相互變更面積力其ノ敷地ノ一割ヲ超エサルモノノ用途ヲ變更スル事項
- 四 國有財產法施行令第一條第一項第二號ノ從物ヲ主物ヨリ分離シ公用財產タル用途ヲ廢止スル事項
- 五 公共用財產ト爲ス爲土地ノ買入、收用若ハ寄附受納ヲ爲ス事項
- 六 公共用財產ノ使用又ハ收益ヲナサシムル事項
- 七 公共用財產ノ用途ヲ變更スル事項
- 八 公共用財產及神社ノ用ニ供スル公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ大藏省所管ニ引繼ヲ爲ス事項
- 九 公共用財產ヲ公用財產ト爲ス爲他省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
- 十 公共用財產若ハ神社ノ用ニ供スル公用財產ヲ營林財產ト爲ス爲農林省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
- 十一 史蹟、名勝、天然紀念物ニ指定セラレタル財產ヲ他省ヨリ引繼ヲ受ケ若ハ所有者ヨリ寄附ヲ受納スル事項

附ヲ受納スル事項

- 十二 他省所管ノ公用財產ヲ公共用財產ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項
 - 十三 農林省所管ノ國有林野ヲ公共用財產ト爲ス爲又ハ神社土地ノ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財產ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項
 - 十四 神社ノ用ニ供スル爲土地ノ寄附ヲ受納スル事項
 - 十五 神社用地又ハ公共用財產タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財產ト爲スノ必要アル民有地ト交換スル事項
 - 十六 公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財產ト爲ス爲又ハ公共用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公用財產ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲ササル事項
 - 十七 公用財產タル立木竹中庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キモノ及工作物中臺帳價格千圓以下ノモノニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲ爲ス事項
 - 2 前項第十二號及第十三號ノ場合ニ於テハ各省關係部局長及所轄稅務監督局長ニ、第十四號乃至第十六號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ協議シ第十七號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ事前通知ヲ爲スヘシ
- 第四條 部局長公用財產ト爲ス爲他省ヨリ國有財產ノ管理換ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ目的財產ニ關スル調書土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ內務大臣ニ稟請スヘシ
- 2 部局長相互間ニ於テ國有財產ノ所屬換ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ事由及調書ノ外當該部局間ニ於ケル協議ノ結果ヲ具シ內務大臣ニ稟請スヘシ
- 第五條 部局長公用財產ト爲ス爲土地ノ交換ヲ爲シ又ハ不動産ノ寄附ヲ受クルノ必要アルトキハ

第五類 土地及公園 內務省所管國有財產取扱規程

第五類 土地及公園 内務省所管國有財産取扱規程

其ノ事由ヲ詳具シ土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ稟請スヘシ
2 前項土地ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ國有財産法施行令第十一條ニ依リ作成シタル調書ヲ添附スヘシ

第六條 部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ直ニ内務大臣ニ報告スヘシ

第七條 部局長公用財産ノ用途若ハ營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ、雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ、公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ臺帳ノ抄本（圖面アルモノハ圖面共）ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

2 公用財産ノ用途廢止ノ後仍引續キ内務大臣ノ管理ヲ必要ト認ムルモノアルトキハ其ノ意見ヲ具申スヘシ

第八條 部局長國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

2 前項ノ場合ニ於テ隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル調書ヲ添附スヘシ

第九條 部局長國有財産ノ使用若ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案、隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十二條ノ規定ニ依ル調書（土地又ハ建物ニ在リテハ圖面共）ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十條 削除

第十一條 削除

第十二條 部局長國有財産ニ付境界査定ヲ施行シタルトキハ其ノ調書及査定圖面ヲ調製シ之ヲ保

存スヘシ

第十三條 國有財産亡失又ハ毀損シタルトキハ部局長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ詳具シ損害額調書ヲ添附シ内務大臣ニ報告スヘシ但シ其ノ損害額ノ輕微ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 部局長ハ國有財産ノ價格ヲ評定セシムル爲常置又ハ臨時ノ價格評定員ヲ命スヘシ

第十五條 臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ左ノ區分ニヨリ調製スヘシ

一 土地及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ノ目的物ニ付テハ縮尺六百分ノ一ノ平面圖但シ場合ニ依リ其ノ縮尺ヲ變更スルコトヲ得

二 建物ニ付テハ百分ノ一ノ平面圖

第十六條 國有財産法施行規則第一號様式備考二ノ但書ニ依リ工作物及器具機械ノ種目ノ追補ヲ要スルモノアルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十七條 部局長ハ左ノ區分ニ依リ國有財産増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ直接之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

一 北海道廳ニアリテハ年二回
（第一回自四月至九月期間
第二回自十月至三月期間）

二 北海道廳以外ノ部局ニアリテハ年一回
（自四月期間
至三月期間）

2 計算證明規程第七十一條ニ依リ毎年度最終ノ國有財産増減計算書ニ添附スヘキ明細書ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ

第十八條 部局長ハ第一號様式ニ依リ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書二通ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第五類 土地及公園 内務省所管國有財産取扱規程

第五類 土地及公園 内務省所管國有財産取扱規程 河岸地管理規程 六三二

第十九條 部長ハ第二號様式ニ依リ毎五年三月三十一日現在ニ依ル國有財産現在額報告書二通ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

附 則

第二十條 本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第二十一條 國有財産現在額報告書ノ第一回ハ大正十一年四月一日現在ニ依リ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第二十二條 左ニ掲ケタル訓令及通牒ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ大正十年度中ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

◎河岸地管理規程

(大正十四年五月九日)
大阪市告示第九二號

第一條 都市計畫法第九條ノ規定ニ依リ下附ヲ受ケタル土地ハ本規程ニ據リ都市計畫事業ノ財源ニ充ツル爲メ基本財産トシテ之ヲ管理ス

2 前項ノ土地ト交換シタル土地ノ管理ニ付亦同シ

第二條 基本財産ヨリ生スル收入ハ都市計畫事業費又ハ基本財産管理ノ爲要スル費用ニ充ツルノ外之ヲ蓄積ス

第三條 第一條ノ土地ハ都市計畫事業用地ニ充ツル場合ノ外之ヲ賃貸スルモノトス但シ堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

2 本規程施行前既ニ許可ヲ得テ建物ヲ築造セルモノハ前項但書ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第四條 土地ノ賃付ヲ受ケムトスル者ハ使用ノ目的、期間並方法ヲ記載シタル願書ヲ提出シ市長ノ許可ヲ受クヘシ賃付ヲ受ケタル土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ヲ附加セムトスルトキ亦同シ

第五條 賃貸期間ハ建物ノ所有ヲ目的トスル場合ハ三十年其ノ他ノ目的ノ爲ニスル場合ハ十年以

内トス

2 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但シ更新ノトキヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 賃貸料ハ壹箇月ニ付時價千分ノ三以上トス但シ市長ハ公益上必要ト認ムルトキハ千分ノ一迄減額スルコトヲ得

第七條 賃貸料ハ之ヲ前納セシム但シ期間カ二以上ノ會計年度ニ跨ルトキハ各所屬年度毎ニ徵收ス

2 賃貸料ヲ指定ノ期日ニ納付セサルトキハ其ノ翌日ヨリ金百圓ニ付日歩五錢ノ割合ヲ以テ延滞金ヲ徵收ス

第八條 市長ニ於テ必要アリト認メタル場合ハ賃借人ヲシテ保證人ヲ立テシメ又ハ保證金ヲ徵收スルコトヲ得

第九條 借受人土地返還ノ場合ハ土地ヲ原形ニ復シ且使用ニ基因シテ生シタル損害ハ市長ノ指定スル所ニ從ヒ之ヲ辨償スヘシ

2 借受人前項ノ義務ヲ怠リタルトキハ市長ハ代テ之ヲ施行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ之ニ要スル費用ハ借受人ヨリ納付セシムルモノトス

第十條 土地ノ賃付ニ關シテハ本規程ニ定ムルモノノ外市長ハ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ

第五類 土地及公園 河岸地管理規程

第五類 土地及公園 河岸地管理規程 市有不動産管理規程

得

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ第四條ノ許可ヲ取消シ若クハ貸付地ノ全部又ハ

一部ヲ返還セシムルコトヲ得

一 本規程又ハ許可條件ニ違反シタルトキ

二 市ニ於テ土地使用ノ必要アルトキ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テ市長ハ市參事會ノ議決ヲ經テ他ノ土地ト交換スルコトヲ得

一 公用ニ供シ又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要アリト認ムルトキ

二 土地整理ノ爲必要アルトキ

第十三條 本規程施行ノ爲必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎市有不動産管理規程

(大正十年十二月九日) 改(大正十四年一月)
(大阪市告示第一五七號) 正(市告示第一號)

第一條 市有不動産ハ法令其ノ他別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ管理スルモノト

第二條 現ニ公用ニ供セサル不動産ハ市參事會ノ議決ヲ經テ貸貸スルコトヲ得其ノ隨意契約ニ依ル場合亦同シ

2 貸貸期間ハ貳箇年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ之ヲ更新スルコトヲ得

第三條 貸貸不動産ハ其ノ期間中ト雖モ公益上必要アルトキハ市長ハ何時ニテモ之ヲ返還セシムルコトヲ得

2 前項ノ場合ニ於ケル貸貸料ハ日割計算ニ依ル

第四條 貸貸料ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ徵收ス

一 土地 一箇月ニ付 時價千分ノ三以上

二 建物 一箇月ニ付 時價千分ノ四以上

2 日ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於ケル貸貸料ハ一日ニ付前項ノ三十分ノ一トス

3 使用期間一箇月未滿ニシテ公益ヲ目的トスルモノニ對シテハ市長ハ前項ノ貸貸料ヲ減免スルコトヲ得

第五條 貸貸料ノ納付ハ左ノ區分ニ依ル

2 年ヲ以テ貸貸期間ヲ定メタルモノハ契約後若ハ年度開始後十日以内ニ其ノ會計年度ノ金額ヲ納付セシム但シ事宜ニ依リ之ヲ分納セシムルコトヲ得

3 月又ハ日ヲ以テ貸貸期間ヲ定メタルモノハ契約締結後十日以内ニ其ノ金額ヲ納付セシム

4 貸貸料ヲ納期日迄ニ納付セサル場合ハ其ノ遲滞ニ對シ百圓ニ付一日金五錢ニ相當スル損害賠償ヲ爲サシム

第六條 市長ハ賃借人ヲシテ相當ノ保證人ヲ立テシメ又ハ保證金ヲ徵收スルコトヲ得

第七條 賃借物ニ對シ必要費又ハ有益費ヲ支出スルコトアルモ本市ハ其ノ補償ヲ爲ササルモノトス

第五類 土地及公園 市有不動産管理規程

第五類 土地及公園 市有不動産管理規程 市有不動産整理規程

- 第八條 賃借人賃借物ヲ返還セムトスルトキハ之ヲ原狀ニ回復セシム
- 2 賃借人前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ本市ニ於テ之ヲ回復シ其ノ費用ヲ辨償セシム
- 3 前項ノ場合ト雖損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
- 第九條 土地ノ分割若ハ合併ヲ要スルトキハ市長之ヲ行フ但シ著シク其ノ價格ヲ減少シ若ハ減少ノ虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 地種、地類又ハ地目ノ變換ヲ要スルトキハ市長ニ於テ之ヲ行フ此ノ場合ニ於ケル新地種地類又ハ地目ハ市長之ヲ定ム
- 第十一條 不動産ノ保存ニ必要ナル行爲ハ市長ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

◎市有不動産整理規程

(昭和二年六月一日) 改(昭和五年八月) 大阪市達第五二號) 正(市達第一二四號)

- 第一條 市有不動産ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ整理スヘシ
- 第二條 局、部、課、區長ハ其ノ所管ニ屬スル不動産ニ付臺帳ヲ備ヘ常ニ其ノ狀況ヲ明ニスヘシ
- 第三條 前條ノ臺帳ノ様式ハ別表第一號又ハ第二號ニ依ル但シ別表ニ依リ難キ不動産ニ付テハ該様式ニ準シ局、部、課、區長ニ於テ別ニ其ノ様式ヲ定ムルコトヲ得
- 2 局、部、課、區長前項但書ノ様式ヲ定ムル場合ニ於テハ庶務部長及監査部長ニ合議シ市長ノ決裁ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ (昭和五年八月市達第一二四號改正)
- 第四條 局、部、課、區長其ノ所管事業ノ爲不動産ヲ取得シ若ハ不動産ノ移管ヲ受ケタルトキ又

- ハ其ノ所管ニ屬スル不動産ノ全部若ハ一部左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ直ニ其ノ事實、年月日其ノ必要ナル事項ヲ臺帳ニ登錄スヘシ
- 一 賣却其ノ他ノ處分アリタルトキ
- 二 天災地變其ノ他ノ原因ニ因リ滅失シタルトキ
- 三 局、部、課、區等ノ廢置分合、組替其ノ他ノ事由ニ因リ移管アリタルトキ
- 四 用途ノ變更アリタルトキ
- 五 公用ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ直接事業ノ用ニ供セラレサルニ至リタルトキ
- 六 前號ニ該當シタル後再ヒ公用其ノ他直接事業ノ用ニ供セラレタルトキ
- 七 改良、改築、天災地變其ノ他ノ原因ニ因リ價格ニ著シキ變動アリタルトキ
- 八 地上權、地役權又ハ抵當權ノ設定アリタルトキ
- 九 分筆、合筆、地目變換其ノ他重要ナル事實ヲ生シタルトキ
- 第五條 前條第三號ノ場合ニ於テハ所管局、部、課、區長ハ移管ヲ受クヘキ局、部、課、區長ニ對シ其ノ臺帳ノ抄本ヲ交付スヘシ
- 2 前條第五號ノ場合ニ於テハ所管局、部、課、區長ハ遲滯ナク其ノ臺帳ノ抄本ヲ添ヘ其ノ旨庶務部長ニ通知スヘシ通知ヲ爲シタル不動産前條第一號乃至第三號若ハ第六號ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第七條ノ規定ニ依ル價格ノ更訂アリタルトキ亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ臺帳ノ抄本ヲ添付スルコトヲ要セス
- 第六條 臺帳ニ登錄スヘキ不動産ノ價格ハ其ノ取得價格ニ依ル但シ寄附其ノ他ノ原因ニ因リ無償取得ヲ爲シタル不動産ニ付テハ局、部、課、區長ニ於テ相當ト認ムル價格ニ依ル

第五類 土地及公園 市有不動産整理規程

第五類 土地及公園 市有不動産整理規程

六二八

第七條 前條ニ依リ登録シタル不動産ノ價格ハ土地建物ニ在リテハ不動産管理評價委員會ノ議ヲ經テ各四年毎ニ其ノ他ノ不動産ニ在リテハ毎年其ノ時價ヲ定メ之ヲ更訂スヘシ但シ道路、公園、堤防、突堤、橋梁等ニ付テハ此ノ限ニ在ラス (昭和五年八月市達第一二四號改正)

2 前項ノ更訂ハ更訂スヘキ年ノ八月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八條 第四條第七號ノ場合ニ於テハ局、部、課、區長ニ於テ適當ニ評價シ其ノ登録價格ヲ更訂スヘシ

第九條 特殊ノ不動産ニシテ本規程ニ依リ整理シ難キモノニ付テハ局、部、課、區長ハ庶務部長及監査部長ニ合議シ市長ノ決裁ヲ經テ別段ノ方法ニ依リ之ヲ整理スルコトヲ得 (同上)

附 則

- 1 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 本規程ニ依リ初テ調製スヘキ臺帳ハ昭和二年七月三十一日迄ニ之ヲ調製シ其ノ登録價格ニ關スル第七條ノ更訂ハ同年八月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ
- 3 本規程施行ノ際ニ於テ各局、部、課、區長ノ所管ニ屬スヘキ不動産ノ範圍ハ事務章程ノ定ムル所ニ依ル
- 4 前項ニ依リ難キ事情アルモノ又ハ所屬分明ナラサルモノニ付テハ關係局、部、課、區長ハ他ノ關係局、部、課、區長、庶務部長及監査部長ニ合議シ市長ノ決裁ヲ受ケ其ノ所屬ヲ決定スヘシ (同上)

◎市ノ一部有不動産ノ整理ニ關スル件

(昭和二年六月三日 大阪市達第五三號)

市ノ一部ノ所有ニ屬スル不動産ノ整理ニ付テハ昭和二年六月達第五二號市有不動産整理規程第二條、第三條第一項本文、第四條、第六條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

附 則

- 1 本規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 本規定ニ依リ初テ調製スヘキ臺帳ハ昭和二年七月三十一日迄ニ之ヲ調製シ其ノ登録價格ニ關スル市有不動産整理規程第七條ノ更訂ハ同年八月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

◎市有土地賃貸ニ關スル件

(大正十三年三月二日 改(昭和四年十一月十七日) 市會議決)

官有道路、溝渠、堤塘、河川等ノ廢公用ニ依リ本市ニ下付ヲ受ケタル土地及大正十一年三月三十日日本市ニ下付ヲ受ケタル舊物揚場敷地ハ左記ニ據リ賃貸スルモノトス

記

- 一 左ニ掲クルモノハ市長ニ於テ隨意契約ニ依リ賃貸スルコトヲ得
- (一) 本市ニ下付ヲ受ケタル際管理者ノ許可ヲ得テ現ニ使用中ニ係ルモノ (昭和四年十一月改正)

第五類 土地及公園

市ノ一部有不動産ノ整理ニ關スル件 市有土地賃貸ニ關スル件

六二九

第五類 土地及公園 市有土地賃貸ニ關スル件 市有土地使用許可ニ關スル件 六三〇

- (一) 一時使用ニシテ市長ニ於テ特殊ノ事由アリト認ムルモノ
- 二 賃貸料ハ一箇月ニ付土地價格ノ千分ノ三以上ニ於テ市長之ヲ定ム但前項第一號ノ賃貸料ハ其期限ノ到來スル迄從前ノ使用料ト同額ト爲スコトヲ得
- 2 公益ヲ目的トスルモノニ對シテハ市長ハ前記ノ賃貸料ヲ減免スルコトヲ得
- 三 市有不動産管理規程第三條及第五條乃至第十二條ノ規定ハ本件ニ之ヲ準用ス (同上追加)
- 四 賃貸契約ニ付テハ市長ニ於テ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得 (同上)

◎市有土地使用許可ニ關スル件 (昭和五年三月二十四日 市會議決)

都市計畫事業、街路改良事業等ノ爲取得シタル市有土地ニシテ其ノ事業ニ支障ナキトキハ大正十三年三月二十七日市會議決市有土地賃貸ニ關スル件ヲ準用シ其ノ一時使用ノ許可ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

◎監獄跡地賣却並賃貸規程 (大正十一年三月十五日 大阪市告示第一五號)

- 第一條 監獄跡地ハ市長ニ於テ其ノ使用ノ目的ヲ考量シ適當ニ區劃ノ上本規程ニ依リ之ヲ賣却又ハ賃貸ス
 - 第二條 前條ノ土地ハ本市都市計畫事業ノ爲土地ヲ買收セラレ又ハ買收セラルヘキ者若ハ其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ所有スル者ニ競争入札ニ依リ之ヲ賣却又ハ賃貸ス但シ都市計畫法施行令第二十四條ニ依リ土地ノ賣却又ハ貸付ヲ受ケタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
 - 2 前項ノ外一般希望者ニ對シ競争入札ニ依リ之ヲ賃貸スルコトヲ得
 - 3 前二項ノ場合ニ於テ競争入札ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ入札金豫定價格ニ達セサルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
 - 第三條 公益ヲ目的トスル事業其ノ他市長ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認ムル者ニ對シテハ市長ノ認定ニ依リ有償又ハ無償ニテ之ヲ貸與スルコトアルヘシ
 - 第四條 賃貸期間ハ三十箇年以内トス
 - 2 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得
 - 第五條 賃貸契約締結ノ場合ハ左ノ保證ヲ要ス
 - 一 市内ニ居住シ且直接國稅年額拾五圓以上ヲ納ムル者ヲ保證人タラシムルコト但シ第二號ノ保證金ノ外賃貸料二箇年分ニ相當スル保證金ヲ納付スル者ハ此限ニ在ラス
 - 二 賃貸料六箇月分ニ相當スル保證金ヲ納付セシムルコト
- 第五類 土地及公園 監獄跡地賣却並賃貸規程 六三二

第五類 土地及公園 監獄跡地賣却並貸貸規程

第六條 保證金ハ市長ニ於テ確實ト認メタル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得其ノ價格ハ時價ノ十分ノ九以内トス

2 前項ノ代用證券ハ其ノ時價ニ著シキ變動ヲ生シタルトキハ市長ノ認定ニ依リ其ノ不足額ヲ補充セシム

第七條 保證金ハ市長ニ於テ土地ノ賃貸料若ハ市ノ損害補償ニ充當ス

第八條 賃貸料ハ會計年度ニ依リ三箇月分宛ヲ一期トシ其ノ初ノ月ノ二十五日迄ニ納付セシム但シ納期日後賃貸ニ係ルモノハ契約締結後十日以内ニ其ノ期分ヲ納付セシメ其ノ月分ノ賃貸料ハ日割計算トス

2 前項ノ納期日カ休應日ニ當ルトキハ其ノ翌日ニ繰下ク

第九條 賃貸料納付ヲ遅延シタルトキハ前條ノ納期日ノ翌日ヨリ百圓ニ付一日五錢ノ割合ヲ以テ損害金ヲ徴收ス

2 前項ノ規定ハ契約ノ解除ヲ妨ケス

第十條 賃借人ハ築造スヘキ工作物ノ設計書及圖面ヲ提出シ市長ノ承認ヲ受クヘシ

2 入札加入者ハ入札前豫メ建築豫定略圖ヲ提示シ市長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十一條 賃借人返地ノ際ハ市長ノ承認ヲ得タル場合ノ外土地ヲ原狀ニ回復スヘシ

2 賃借人前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ市長ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ヲ辨償セシム

第十二條 賃借人賃借地ニ對シ必要費又ハ有益費ヲ支出スルコトアルモ市長ハ其ノ補償ノ責ニ任セス

第十三條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

國立公園法 (昭和六年四月一日 法律第三六號)

第一條 國立公園ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ區域ヲ定メ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 本法ニ於テ國立公園計畫ト稱スルハ國立公園ノ保護又ハ利用ニ關スル統制及施設ノ計畫ヲ謂ヒ國立公園事業ト稱スルハ國立公園計畫ニ基キ執行スベキ事業ニシテ道路、廣場、苑地、運動場、野營場、宿舍其ノ他命令ヲ以テ指定スル施設ニ關スルモノヲ謂フ

第三條 國立公園計畫及國立公園事業ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ主務大臣之ヲ決定ス

第四條 國立公園事業ハ行政官廳之ヲ執行ス

2 主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲシテ國立公園事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

3 行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ特許ヲ受ケ國立公園事業ノ一部ヲ執行スルコトヲ得

第五條 國立公園事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體ヲシテ之ヲ執行セシムル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

2 行政官廳國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキ

第五類 土地及公園 國立公園法

ハ其ノ執行ニ要スル費用ノ一部ヲ公共團體ヲシテ負擔セシムルコトヲ得
3 行政官廳ニ非ザル者國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ國庫ハ其ノ費用ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第六條 國立公園事業ノ執行ニ依リ生ジタル施設ハ其ノ事業ヲ執行シタル者之ヲ管理ス

2 主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲ指定シテ行政官廳ノ執行スル國立公園事業ニ依リ生ジタル施設ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得

3 前二項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ管理者ヲ定メタル場合ニハ之ヲ適用セズ

4 第一項及第二項ノ規定ニ依ル管理ノ費用ハ行政官廳之ヲ管理スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

第七條 行政官廳又ハ公共團體ノ管理スル國立公園ノ施設ニ付占用又ハ使用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者ハ占用料又ハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ヲ除ク

2 前項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ徵收金ハ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第八條 主務大臣ハ國立公園ノ風致維持ノ爲國立公園計畫ニ基キ其ノ區域内ニ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

2 特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 水面ノ埋立又ハ干拓

三 鑛物ノ試掘若ハ採掘、砂鑛ノ採取又ハ土石ノ採掘

四 木竹ノ伐採

五 廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ノ設置

3 特別地域内ノ山林ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地租其ノ他ノ公課ヲ免除スルコトヲ得

第九條 主務大臣ハ國立公園ノ保護又ハ利用ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於テ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

2 前項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止セラレ又ハ措置ヲ命ゼラレタルガ爲損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ通常生ズベキ損害ニ限り國庫之ヲ補償ス

3 勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫ハ第一項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ著シク制限セラレタル爲損害ヲ被リタル私人ニ對シ其ノ損害ヲ補償スルコトヲ得

4 前二項ノ規定ニ依ル補償金額ハ主務大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第十條 主務大臣ハ第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ前條第五類 土地及公園 國立公園法

- 一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得
- 第十一條** 國立公園ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障碍物ヲ除却スルコトヲ得但シ行政官廳ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得
- 2 前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ
- 3 第一項ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ同項但書ノ場合ヲ除クノ外其ノ行爲ヲ爲シタル者之ヲ補償スベシ
- 4 前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル地方長官之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ
- 5 第一項但書ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ國庫之ヲ補償ス
- 6 第九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第十二條** 國立公園委員會ノ組織及權限ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十三條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得
- 2 本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ

- 第十四條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第十五條** 第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ付シタル條件又ハ第九條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第十六條** 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和六年九月十九日勅令第二四一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

◎公園管理規則 (昭和七年十二月十七日 大阪市規則第一號)

- 第一條** 公園ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁止ス
 - 一 魚鳥ヲ殺傷又ハ捕獲スルコト
 - 二 樹木及花卉等ヲ採折スルコト
 - 三 焚火ヲ爲シ若ハ火技ヲ弄シ其ノ危險ノ遊戲ヲ爲スコト
 - 四 許可ナクシテ牛馬及諸車ヲ入ルルコト
 - 五 行商ヲ爲スコト
 - 六 濫ニ廣告ヲ爲シ又ハ宣傳ビラ等ヲ配布スルコト

第五類 土地及公園 公園管理規則 公園使用條例

七 其ノ他風致ヲ害スルコト

八 管理上ノ必要ニ依リ市長ノ禁止シタル行爲ヲ爲スコト

第二條 市長管理上必要アルトキハ公園ノ使用時間ヲ制限スルコトアルヘシ

◎公園使用條例 (昭和七年十二月十七日 大阪市條例第二二二號)

第一條 公園地域内ノ土地及本市工作物ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ特ニ之ヲ使用セシムルコトヲ得

第二條 土地又ハ本市工作物ヲ使用セントスル者ハ其ノ所在地、公園ノ名稱、使用地積、使用ノ目的及方法、營業ノ種類並使用期間ヲ具シ(使用地ニ工作物ヲ設置セントスル者ハ其ノ仕様書及圖面ヲモ添付シ)許可ヲ受クヘシ

2 使用ノ許可ヲ受ケタル者引續キ使用セントスルトキハ使用期間滿了三十日前途ニ前項ニ依ル許可ヲ受クヘシ

第三條 使用料ハ左ノ標準ニ依リ市長之ヲ定ム但シ公益上其ノ他市長ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認ムル者ノ使用ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得

一 土地 一月 一坪 時價ノ千分ノ一以上

二 工作物 一月 一坪 時價ノ千分ノ三以上

2 日ヲ以テ期間ヲ定メタル使用料ハ前項料金ノ三十分ノ一ヲ以テ一日ノ使用料トス

第四條 廣告其ノ他特殊工作物設置ノ爲使用スルモノノ使用料ハ前條料金ノ三倍ニ達スル迄増額スルコトヲ得

2 廣告ノ爲ノ使用ニシテ廣告ノ面積力敷地面積ヨリ廣キトキハ廣告物ノ廣告トシテ利用シ得ヘキ面積ニ依リ使用料ヲ算定ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ事故發生ノ日ヨリ特別使用料トシテ前二條ノ使用料金ノ五倍ニ達スル迄徴收スルコトアルヘシ

一 本條例ニ依リ許可ヲ受クヘキ事項ニ付其ノ許可ヲ受ケテ爲シタルトキ

二 返還期日ニ返還ヲ爲ササルトキ

第六條 使用料ノ徴收期左ノ如シ

一 年ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ會計年度ニ依リ其ノ年度分ヲ四月中ニ徴收ス但シ四月以後新ニ許可シタルモノハ初年度分ニ限り許可ノ日ヨリ十日以内ニ徴收ス

二 月又ハ日ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ許可ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徴收ス但シ十五日未滿ノ使用ニ付テハ即納セシム

第七條 既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ第十六條及第二十一條第五號ノ場合ハ使用物件返還ノ日ノ翌日ヨリ日割計算ニ依リ還付ス

第八條 使用料ノ納付ヲ延滞シタルトキハ徴收期日ノ翌日ヨリ完納ノ日迄一日百圓ニ付金四錢ノ割合ヲ以テ延滞金ヲ徴收ス

第九條 土地又ハ本市工作物ノ使用許可ヲ受ケタル者ハ本市ノ指定スル保證金ヲ許可ノ日ヨリ五日以内ニ納付スヘシ

第五類 土地及公園 公園使用條例

第五類 土地及公園 公園使用條例

- 第十條 第二條ノ許可ヲ受ケタル者使用ノ目的、方法及營業ノ種類ヲ變更セントスルトキハ許可ヲ受クヘシ
- 第十一條 本市工作物ノ構造及設備ハ使用者ニ於テ變更スルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 土地使用者カ使用地ノ原形ニ著シキ變更ヲ加ヘントスルトキ又ハ工作物ヲ設置セントスルトキハ其ノ仕様書及圖書ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケ設置シタル工作物ノ變更又ハ修繕ヲ爲サントスルトキ亦同シ
- 第十三條 依リ許可ヲ受ケタル工事竣工シタルトキハ其ノ旨直ニ届出ツヘシ
- 第十四條 使用地ニ設置シタル土地使用者ノ所有權ヲ取得シタル者ハ當該土地ノ使用ニ付テハ第二條ニ依リ直ニ許可ヲ受クヘシ
- 第十五條 使用地ニ設置シタル土地使用者ノ所有權ヲ取得シタル者ハ當該土地ノ使用ニ付テハ第二條ニ依リ直ニ許可ヲ受クヘシ
- 第十六條 使用者其ノ使用期間内ニ其ノ使用ニ係ル土地又ハ本市工作物ヲ返還セントスルトキハ豫メ其ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ使用ニ係ル土地又ハ本市工作物ヲ原狀ニ回復シ其ノ旨届出ツヘシ
 - 一 使用期間満了シタルトキ
 - 二 第二十條第三號ニ依リ許可ノ效力ヲ失ヒタルトキ

- 三 第二十一條ニ依リ使用許可ノ取消アリタルトキ
- 四 第十六條ノ許可アリタルトキ
 - 2 使用者前項ノ手續ヲ了セサルトキハ使用者ノ負擔ヲ以テ本市之ヲ代行スルコトアルヘシ
- 第十八條 本市必要アルトキハ土地若ハ本市工作物又ハ使用者ノ所有ニ係ル工作物及業務ニ付檢査スルコトアルヘシ
 - 2 使用者ハ前項檢査ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十九條 土地又ハ本市工作物ノ使用方法、營業ノ種類若ハ業務ニシテ公益上其ノ他本市ニ於テ必要アリト認ムルトキハ之カ改良又ハ撤去ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ土地又ハ本市工作物ノ使用許可ハ其ノ效力ヲ失フ
 - 一 土地使用者カ使用地ニ設置シタル工作物ノ所有權ヲ喪失シタルトキ
 - 二 土地使用者許可ヲ得シテ使用許可後六十日以内ニ使用ヲ開始セサルトキ
 - 三 本市工作物ノ使用者許可ヲ得シテ六十日以上業務ヲ休止シタルトキ
- 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ使用許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 第十條乃至第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 第十八條ノ檢査ヲ拒ミタルトキ
 - 三 第十九條ノ命ニ應セサルトキ
 - 四 保證金又ハ使用料ヲ期間内ニ納付セサルトキ

第五類 土地及公園 公園使用條例

第五類 土地及公園 公園使用條例

- 五 本市ノ都合上必要アルトキ
- 第二十二條 本條例ニ依ル許可ノ取消又ハ第十九條ノ規定ニ依リ使用者ニ命シタル事項ニ關シ使用者ニ損害ヲ及ホスコトアルモ本市ハ其ノ責ニ任セス
- 第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ五圓以下ノ過料ヲ科スルコトアルヘシ
 - 一 第二條、第十條乃至第十五條ニ違反シタル者
 - 二 第十八條ノ檢査ヲ拒ミタル者
- 第二十四條 本條例施行ノ爲必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

- 1 明治三十四年大阪市條例第一號公園地使用料條例ハ之ヲ廢止ス
- 2 従前ノ公園管理規則及公園地使用料條例ニ依リ使用メ許可ヲ受ケタル者ハ本條例ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
- 3 使用地ニ設置シタル使用者ノ工作物ニシテ本條例施行ノ際既ニ質權、抵當權又ハ賃借權ヲ設定シアルモノニ付テハ第十四條ノ規定ニ拘ラス本條例施行ノ日ヨリ九十日以内ニ使用者ハ其ノ旨届出ツヘシ
- 4 前項ノ手續ヲ爲ササルモノニ付テハ本條例第二十一條ノ規定ヲ準用ス

◎公園使用條例施行細則

(昭和七年十二月十七日 大阪市告示第三四四號)

- 第一條 條例第二條ノ規定ニ依リ使用許可ヲ受ケントスル者ハ別記様式ノ願書ニ使用土地ノ位置及區域ヲ表示シタル圖面ヲ添付シ願出ツヘシ
 - 第二條 土地又ハ本市工作物ノ使用者カ住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨届出ツヘシ但シ氏名ヲ變更シタルトキハ戶籍抄本ヲ添付スヘシ
 - 第三條 相續ニ因リ土地又ハ本市工作物ノ使用ヲ承繼シタルトキハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ戶籍抄本ヲ添付シ其ノ旨届出ツヘシ
 - 第四條 條例第十三條ノ規定ニ依ル願書ニハ競賣ニ因ル取得ノ外前使用者ノ連署ヲ要ス
 - 第五條 條例第十六條ノ規定ニ依リ土地又ハ本市工作物ヲ返還セントスル者ハ返還スヘキ日ノ三十日前迄ニ願出ツヘシ但シ特殊ノ事由アリト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 第六條 土地使用者ハ工作物ノ一部又ハ全部ノ所有權ヲ喪失シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ一部ノ場合ニ在リテハ殘部トノ區劃ヲ明瞭ナラシメタル圖面ヲ添付スヘシ
(様式省略)
- ◎大阪城公園使用條例 (昭和六年十一月四日 改(昭和七年六月) 大阪市條例第一四號) 正(市條例第九號)
- 第一條 大阪城公園(以下單ニ公園ト稱ス)ノ開閉時間ハ市長別ニ之ヲ定ム
- 第五類 土地及公園 公園使用條例施行細則 大阪城公園使用條例 六四三

第五類 土地及公園 大阪城公園使用條例

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入園ヲ許サス

- 一 他人ノ嫌疑スヘキ傳染性ノ疾患アル者
- 二 泥酔者
- 三 他人ノ嫌疑スヘキ風體ヲ爲ス者
- 四 他人ニ危険ヲ及ホス虞アル物品又ハ汚穢若ハ容積ノ大ナル物品其ノ他動物ノ類ヲ携帯スル者

第三條 天守閣ヲ觀覽セムトスル者ハ左ノ入場料ヲ納付シ入場券ノ交付ヲ受クヘシ但シ年齢五年未滿ノ兒童ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 年齢十三年以上ノ者 一人ニ付 金二十錢
- 二 年齢十三年未滿ノ者 一人ニ付 金十錢
- 三 前項ノ入場料ハ學生生徒(青年訓練所生徒ヲ含ム)及軍人ノ團體ニ付テハ三十人以上ニ限り五割以內、其ノ他ノ團體ニ付テハ五十人以上ニ限り三割以內之ヲ減額ス(昭和七年六月市條例第九號改正)

第四條 特別ノ來賓及其ノ關係者並優待入場券ヲ所持スル者ニ對シテハ前條ノ入場料ハ之ヲ徵收セス

- 2 前項ノ優待入場券ハ市長之ヲ發行ス

第五條 天守閣內ニ設ケタル双眼鏡ヲ使用セムトスル者ハ左ノ使用料ヲ納付シ使用券ノ交付ヲ受クヘシ

一箇十分間ニ付 金五錢

第六條 公園ニ於テハ左ノ各號ニ依リ入場者携帯品一時預リノ取扱ヲ爲ス但シ市長ニ於テ取扱ヲ爲ササル旨規定シタル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 預リ料ハ一箇一回ニ付金五錢トシ前納セシム
- 二 預リ期間ハ當日限トシ當日引取ヲ爲ササル場合ハ翌日ヨリ一箇一日ニ付金十錢ノ保管料ヲ徵收ス
- 三 預リ當日ヨリ七日ヲ經過シ引取ヲ爲ササル物品ハ之ヲ遺失物ト看做シ警察官署ニ移管スルコトアルヘシ
- 四 一時預リヲ爲シタル物品ノ損害ニ付テハ本市ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル場合ヲ除クノ外其ノ責ニ任セス

第七條 公園內ニ於テハ公園管理規則第二條ニ定ムルモノノ外左ノ行爲ヲ禁ス

- 一 許可ヲ受クルコトナクシテ寫眞撮影ヲ爲スコト
- 二 諸設備ヲ汚損又ハ毀損スルコト
- 3 前項第二號ノ行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ市長ニ於テ相當ト認ムル損害額ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第八條 係員ノ制止ヲ肯セス第二條及前條第一項ノ規定ニ違反セル者ニ對シテハ市長ハ五圓以下ノ過料ヲ科スコトヲ得

第五類 土地及公園 大阪城公園使用條例

【附 則】

〔昭和六年中ニ限り第三條ノ規定ニ拘ラス入場料ハ年齢十三年以上ノ者ニ付テハ一人ニ付金十錢 年齢十三年未滿ノ者ニ付テハ一人ニ付金五錢トス〕

◎動物園並植物温室條例 (大正三年十月二十四日) 改(大正九年六月市條例第一二) 正(號) 昭和五年三月同第四號)

第一條 動物園並植物温室ハ汎ク公衆ノ觀覽ニ供ス但シ其ノ開閉日時ハ市長之ヲ定ム

第二條 動物園並植物温室ヲ觀覽セムトスル者ハ左ニ掲クル入場料ヲ納付シ入場券ノ交付ヲ受クヘシ但シ四歳未滿ノ兒童ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 動物園 十三歳以上 十錢 十三歳未滿 五錢
- 二 温室 同 五錢 同 二錢
- 三 動物園及温室共通 同 十二錢 同 六錢
- 第三條 三十人以上一團ヲ爲シ觀覽セムトスル場合ニ於テ其ノ代表者ヨリ請求スルトキハ入場料ヲ半額ニ減少ス
- 第四條 既ニ納付シタル入場料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ還付セズ
- 第五條 市内ニ於ケル小學校若ハ幼稚園ニシテ教員又ハ保姆引率ノ下ニ觀覽セムトスルトキハ各校園ニ付一箇年一回支障ナキ日ニ限り其ノ入場料ヲ免ス附添職員並使丁亦同シ
- 第六條 特別ノ來賓及其ノ關係者並優待入場券ヲ所持スル者ニ對シテハ入場料ヲ徵收セス但シ優

待入場券ハ市長之ヲ發行ス

第七條 動物園ニ於テハ左ノ各號ニ依リ入場者携帶品一時預リノ取扱ヲ爲ス但シ市長ニ於テ取扱ヲ爲ササル旨規定シタル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス (昭和五年三月市條例第四號本條改正)

一 預リ料ハ一箇一回ニ付金五錢トシ前納セシム

二 預リ期間ハ當日限トシ當日引取ヲ爲ササル場合ハ翌日ヨリ一箇一日ニ付金十錢ヲ追徵ス

三 預リ當日ヨリ七日ヲ經過シ引取ヲ爲ササル物品ハ之ヲ遺失物ト看做シ警察官署ニ移管スルコトアルヘシ

四 一時預リヲ爲シタル物品ノ損害ニ付テハ本市ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル場合ヲ除クノ外其ノ責ニ任セス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ入場ヲ許サス

一 他人ノ嫌疑スヘキ傳染性ノ疾患アル者

二 泥醉者

三 他人ノ嫌疑スヘキ風體ヲ爲シタル者

四 他人ニ危険ヲ及ホス虞アル物品若ハ汚穢又ハ容積ノ大ナル物品其ノ他動物ノ類ヲ携帶スル者

第九條 觀覽者ハ別ニ市長ノ定メタル觀覽者心得ヲ遵守スヘシ

第十條 動物園ニ害ヲ加ヘ若ハ物品ヲ毀損スルコトヲ得ス

2 前項ニ違背シタル者ニ對シテハ市長ニ於テ適宜賠償額ヲ定メ之ヲ徵收スルコトアルヘシ

第十一條 係員ノ制止ヲ肯ンセス第七條第八號、第九條及第十條第一項ニ違背シタル者ニ對シテハ市長ハ五圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得 (昭和五年三月市條例第四號改正)

◎農園使用料條例 (昭和六年八月二十六日) (大阪市條例第一三號)

第一條 使用料ハ一年一坪ニ付二圓五十錢以内ニ於テ實地ヲ參酌シ市長之ヲ定ム但シ公益事業ノ爲使用スルモノハ之ヲ徵收セサルコトアルヘシ

第二條 使用料ノ徵收期左ノ如シ

- 一 年ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ會計年度ニ依リ全年度分ヲ其ノ年度ノ四月中ニ徵收ス但シ四月以後新ニ許可シタルモノハ初年度分ニ限り許可ノ日ヨリ十日以内ニ徵收ス
- 二 月ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ其ノ許可ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徵收ス

第三條 本市ノ都合ニ依リ使用ノ許可ヲ取消シタル爲土地ヲ原狀ニ復シタル旨届出テタル場合ニ於テハ其ノ届出ノ日ノ屬スル月ノ翌月以後ノ使用料ハ之ヲ免除ス

◎農園使用料條例施行細則 (昭和六年八月二十六日) (大阪市告示第一九二號)

第一條 農園ヲ使用セムトスル者ハ別記様式ノ使用許可願ヲ提出シ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 使用坪數ハ一人又ハ一團體ニ付十坪乃至二十坪トス但シ特別ノ事情アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 使用料左ノ如シ

- 一 年ヲ以テ使用ヲ許可スルモノニ在リテハ一年一坪ニ付一圓五十錢
- 二 月ヲ以テ使用ヲ許可スルモノニ在リテハ一月一坪ニ付十五錢

第四條 使用地ヲ還付セムトスルキハ豫メ使用地ヲ原狀ニ復シ其ノ旨届出ツヘシ

第五條 使用期間滿了後引續キ農園ヲ使用セムトスルトキハ年ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノニ在リテハ期間滿了ノ一月前迄ニ、月ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノニ在リテハ期間滿了ノ十日前迄ニ更ニ許可ヲ受クヘシ

第六條 農園ハ十二月二十九日ヨリ翌年一月四日迄ノ休日ヲ除クノ外毎日日出ヨリ日没迄開放ス但シ開園時間ハ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

附 則

本則施行ノ際元大阪市農會ヨリ使用許可ヲ受ケ現ニ農園ヲ使用スル者ハ本則ニ依リ使用ヲ許可セラレタル者ト看做ス

(様式省略)

第六類 軌道、地方鐵道及自動車
（昭和四年四月十八日）
正（法律第六一號）
改（昭和十年四月十四日）
法律第七六號

第六類 軌道、地方鐵道及自動車

軌道法

（大正十年四月十四日）
法律第七六號
（昭和四年四月十八日）
正（法律第六一號）

第一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル爲敷設スル軌道ニ之ヲ適用ス

2 一般交通ノ用ニ供セサル軌道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 軌道ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ道路ニ敷設スヘシ

第三條 軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル軌道經營者ハ軌道敷設ニ要スル道路ノ占用
ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス此ノ場合ニ於ケル道路ノ占
用料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五條 軌道經營者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ
2 天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請
スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第六條 軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ道路ニ關スル工事ニ付道路管理
者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス河川法、砂防法及之ニ基キテ發スル命令
ニ依ル許可又ハ認可ニ付亦同シ

第七條 軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムヘシ

2 第五條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第八條 地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ道路ニ敷設スル軌道工事及之カ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

2 前項ノ規定ニ依ル工事ニ要スル費用ノ負擔ニ付道路管理者及軌道經營者ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第九條 道路管理者道路ノ新設又ハ改築ノ爲必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ新設シタル軌道敷地ヲ無償ニテ道路敷地ト爲スコトヲ得

第十條 軌道經營者ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第十一條 軌道經營者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金並運輸速度及度敷ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ(昭和四年四月法律第六一號改正)

2 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃、料金、運輸速度、度敷又ハ發著時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得(同上)

第十二條 軌道經營者ハ軌道間ノ全部及其ノ左右各二尺ヲ限リ道路ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

2 地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ前項ノ維持及修繕ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ノ負擔ニ付テハ第八條第二項ノ規定ヲ準用ス

3 第九條ノ規定ニ依リ道路敷地ト爲シタルモノニ付テハ第一項ノ維持及修繕ハ道路管理業者之ヲ爲スヘシ

第十三條 主務大臣又ハ地方長官ハ監督上必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ヲシテ帳簿、書類及圖面ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ軌道ノ設備、事業ノ狀況並會計及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

第十四條 軌道ノ建設、運輸、運轉、係員及會計ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第十六條 軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り軌道ノ讓渡又ハ事業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得

2 前項ノ管理ノ委託ヲ受ケタル者ハ其ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第十七條 公共團體ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ軌道(未タ運輸開始ニ至ラサル線路ヲ含ム)ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス(昭和四年四月法律第六一號本條改正)

2 前項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付事業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ軌道經營者ハ殘存開業線路ニ付テハ該線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ求メ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付テハ其ノ事業廢止ニ因リテ生ス

ル損失ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ (昭和四年四月法律第六一號本條改正)

2 公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲シタルトキハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ承繼ス

第十九條 公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收又ハ補償ヲ爲ス場合ニ於テハ買收價額又ハ補償金額ハ協定ニ依ル協議調ハサルトキハ申請ニ因リ地方鐵道法第三十一條乃至第三十三條ノ二又ハ第三十六條ノ二ノ規定ニ準シ算出シタル金額ヲ標準トシテ主務大臣之ヲ裁定ス (同上)

第二十條 公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ兼業ニ屬スル資産及軌道經營ニ必要ナル貯藏物品ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス (同上)

2 公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テハ軌道經營者ハ兼業ニ屬スル資産及軌道經營ニ必要ナル貯藏物品ノ買收ヲ求ムルコトヲ得

3 前二項ノ場合ニ於テ買收價額ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十一條 軌道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

2 軌道會社ハ株金全額拂込前ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ

充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得
3 前二項ノ規定ハ地方鐵道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ軌道ヲ敷設スル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 軌道會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ
- 二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ
- 三 事業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ
- 四 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲ササルトキ

第二十四條 軌道經營者軌道ニ關スル工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ノ指示スル所ニ從ヒ道路ヲ原狀ニ回復スヘシ

2 地方長官必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ負擔ニ於テ道路管理者ヲシテ前項ノ規定ニ依ル工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十六條 地方鐵道法第六條ノ二乃至第八條、第十條第二項、第十一條、第十五條、第十七條、第十九條第二項、第二十三條第二項第三項、第二十五條、第二十七條、

第三十條乃至第三十六條ノ二、第三十六條ノ四及第三十六條ノ五ノ規定ハ軌道ニ之ヲ準用ス但シ地方鐵道法第七條第二項及第八條中鐵道抵當法トアルハ明治四十二年法律第二十八號トス（昭和四年四月法律第六一號改正）

第二十七條 軌道經營者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
二 他人ヲシテ軌道經營者ノ計算ニ於テ必要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト

三 特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

2 前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラルルコトヲ得ス
3 第一項第二號ノ規定ニ依リ事業ノ管理ヲ爲ス者ハ其ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ當該軌道經營者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十八條 特許ヲ受ケスシテ軌道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ軌道經營者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ヲ許可又ハ認可

ヲ受ケスシテ爲シタルトキ
二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ
四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

五 第二十六條ニ於テ準用スル地方鐵道法第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ後配株主ニ不利益ヲ及ホシタルトキ（昭和四年四月法律第六一號追加）

2 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十條 前二條ノ規定ハ公共團體カ軌道ヲ經營スル場合ニ之ヲ適用セス

第三十一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル軌道ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス
2 前項ノ軌道ニ準スヘキモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 國ニ於テ軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スヘシ其ノ工事施行ニ付亦同シ

2 國ニ於テ經營スル軌道ニ付テハ第二條、第十二條第一項、第十四條及第二十四條第一項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用セス但シ第十四條中軌道ノ係員及會計ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法

六五八

3 第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ニ協議ヲ了シタルトキハ第四條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十二年勅令第五〇八號)

附 則 (昭和四年四月法律第六一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和四年十二月四日勅令第三三三號) (七號ヲ以テ同月五日ヨリ施行)

◎軌道法施行期日ノ件 (大正十二年十二月十九日勅令第五〇八號)

- 1 軌道法ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 軌道條例ハ之ヲ廢止ス
- 3 舊法ニ依リテ爲シタル特許、認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許、認可其ノ他ノ處分ニ附シタル條件ニシテ本法ニ抵觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ
- 4 他ノ法令中軌道條例トアルハ軌道法トス

◎軌道法施行規則 (大正十二年十二月二十日) 改(昭和四年十二月、五年) 正(六月、內務鐵道省令)

第一條

軌道ノ特許申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

- 一 起業目論見書
 - 二 線路豫測圖
 - 三 建設費概算書 (第一號様式)
 - 四 運輸事業ノ收支概算書 (第二號様式)
- 2 軌道ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得サル場合ニ在リテハ其ノ事由書ヲ前項申請書ニ添附スヘシ
- 第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 目的 (旅客運送、荷物運送ノ別)
 - 二 商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地
 - 三 軌道事業ニ要スル資金ノ總額及其ノ出資方法
 - 四 線路ノ起終點及併用軌道ノ始終點ノ地名、地番並其ノ經過市町村名
 - 五 軌道ヲ敷設スヘキ道路ノ種類毎ノ延長、一般幅員及計畫幅員
 - 六 線路ノ延長及單線、複線等ノ別
 - 七 軌間及車輛ノ最大幅員
 - 八 動力(人力、馬力、蒸汽、電氣等ノ別)、電氣ヲ動力トスルモノニシテ自ラ發電設備ヲ有スルモノニ在リテハ原動力ノ種類(火力、水力ノ別)、他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノニ在リテ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

六五九

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

ハ供給者名

第三條 線路豫測圖ハ縮尺二萬五千分一以上ノ平面圖トシ線路ノ經過市町村名、地形、一軒毎及單線複線等ノ分界點ノ程、道路ノ種類並沿線人家連檐ノ狀況ヲ記シ縮尺、方位ヲ示スヘシ
(昭和五年六月内務鐵道省令改正)

第四條 地方長官特許申請書ヲ受付タルトキハ期限ヲ指定シ軌道敷設ニ關シ關係道路管理者ノ意見ヲ徵スヘシ

2 道路管理者ハ前項ノ意見ヲ決定スルニ付期限ヲ指定シ道路ニ關スル費用ヲ負擔スル公共團體ノ議會ノ意見ヲ徵スヘシ

3 前二項ノ場合ニ於テ期限内ニ意見ヲ答申セサルトキハ直ニ之ヲ處理スルコトヲ得

第五條 地方長官ハ特許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査書ヲ添ヘ特許ノ許否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

- 一 申請者ノ資産及信用程度
- 二 事業ノ成否
- 三 事業ノ效果
- 四 道路管理者ノ意見
- 五 他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等(未開業ノモノヲ含ム)ニ及ホス影響(昭和四年十二月内務鐵道省令改正)
- 六 他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等ノ競願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者名及申請書ノ受付年月日(同上)

第六條 工事施行ノ認可ヲ受ケル前ニ於テ起業目論見書ノ記載事項ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣及鐵道大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但シ商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地及電力供給者ノ變更ハ之ヲ届出ツヘシ

2 前項ノ場合ニ於テ記載事項ノ變更カ道路ニ重大ナル關係ヲ有スルトキハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第七條 工事施行認可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

- 一 線路實測圖
- 二 工事方法書
- 三 建設費豫算書 (第三號様式)
- 四 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社設立登記謄本

第八條 線路實測圖ハ左ノ三種トス

- 一 平面圖
 - 1 縮尺ハ二千五百分一以上トシ線路ノ左右各四十米以内ノ地形ヲ明ニシ道路ノ種類、軌道ノ中心線、線路ノ單線複線等ノ分界點ノ程、道路水路等ノ附換、人家連檐又ハ連檐スヘキ箇所、行政區劃ノ境界、縮尺及方位ヲ示スヘシ
 - 2 線路ノ中心線ニハ二百米毎ニ程ヲ記シ曲線ノ半徑、交角、停留場ノ位置、名稱及中心程ヲ記スヘシ(昭和五年六月内務鐵道省令改正)
- 二 縱斷面圖
 - 1 縮尺ハ橫平面圖ト同一、縱二百分一以上トシ中心線ノ地盤高及施行基面高ヲ二十米毎ニ記シ隧道ノ長、橋梁溝橋ノ徑間及徑間數、桁ノ種類及材質、停留場ノ名稱及中心程、交通頻繁

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

ナル踏切道並線路ノ勾配ヲ記シ縮尺ヲ示スヘシ

三 軌道ヲ敷設スル道路橫斷定規圖 (同上)

第九條 軌道ノ中心、車道歩道ノ區別、橫斷勾配、路上建設物ノ位置、車體外有效幅員ヲ記スヘシ

第九條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 動力
- 二 軌間
- 三 單線、複線等ノ別
- 四 軌道中心間隔
- 五 最小曲線半徑及最急勾配
- 六 土工定規 (新設軌道ニ限ル)
- 七 橋梁、溝橋
- 八 隧道
- 九 軌條、轉轍器、轍叉及枕木
- 十 停留場
- 十一 踏切ノ構造 (圖面ニ依リ明示スルコト)
- 十二 他ノ軌道又ハ鐵道トノ交叉方法
- 十三 閉塞信號機
- 十四 車輛
- 十五 特殊設計

2 電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ前項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 送電系統
 - 二 電氣軌道ノ方式
 - 三 發電所、變壓所、蓄電所及配電所
 - 四 送電線路及饋電線路
 - 五 電車線路
 - 六 電氣機關車及電車
 - 七 軌道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合
 - イ 供給電力ノ電氣方式、最大電壓、容量及受給時間
 - ロ 送電上ノ責任分界點、電氣工作物ノ所有權分界點 (圖面ニ依リ明示スルコト)
 - ハ 受電設備ノ大要 (圖面ヲ添附シ説明スルコト)
 - 3 地方鐵道法施行規則第十二條ノ規定ハ前二項ニ規定スル事項ノ記載方法ニ之ヲ準用ス
 - 4 併用軌道ニ在リテハ前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 道路ノ種類毎ニ區別セル併用軌道ノ延長及其ノ始終點ノ地名、地番
 - 二 軌道ノ構造及道路ノ鋪裝 (圖面ニ依リ明示スルコト)
 - 三 軌道ノ排水設備 (圖面ニ依リ明示スルコト)
- 第十條 地方長官工事施行認可申請書ヲ受付タルトキハ軌道工事ニ關シ關係道路管理者ノ意見ヲ徵シ認可ノ可否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ
- 2 第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

- 第十一條 工事施行ノ認可ヲ受ケタル後線路ヲ變更セムトスルトキハ第八條ノ規定ニ準シ線路實測圖(新舊對照圖添附)ヲ、工事方法書ノ記載事項ヲ變更セムトスルトキハ第九條ノ規定ニ準シ變更セムトスル事項ニ關スル工事方法書(停留場ノ變更ニ在リテハ新舊對照圖添附)ヲ作製シ其ノ事由ヲ具シ内務大臣及鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 2 前項ノ認可申請書ニハ工費豫算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明ニスヘシ但シ重要ナラサル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 3 第一項ノ場合ニ於テ變更セムトスル事項カ道路ニ重大ナル關係ヲ有スルトキハ第四條ノ規定ヲ準用ス
- 第十二條 工事施行又ハ前條第一項ノ認可申請書ヲ提出スルトキハ同時ニ軌道敷設ノ爲ニスル道路及河川ノ占用面積圖ヲ地方長官ニ提出スヘシ
- 2 工事施行又ハ前條第一項ノ認可アリタルトキハ地方長官其ノ旨ヲ道路又ハ河川管理者ニ通知シ前項ノ占用面積圖ヲ送付スヘシ
- 第十三條 軌道經營者工事ニ著手シ又ハ之ヲ竣工セシメタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ
- 2 前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク之ヲ内務大臣及鐵道大臣ニ報告スヘシ
- 第十四條 地方長官軌道法第八條ノ規定ニ依リ道路管理者ヲシテ工事ヲ執行セシムトスルトキハ道路管理者及軌道經營者ノ意見ヲ徵シ事由ヲ具シ左ノ書類ヲ添附シ内務大臣及鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ
一 工事設計書

二 工費豫算書

三 工費負擔調書

四 道路ニ關スル費用ヲ負擔スル公共團體ノ當該年度歳入出豫算書

第十五條 地方長官前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ工事ノ設計、著手及竣工ノ期限並工費豫算書ヲ道路管理者ニ示シ工事ヲ執行セシメ軌道經營者ニ之ヲ通知スヘシ

2 道路管理者工事ヲ竣工セシメタルトキハ遲滞ナク工事竣工調書及工費精算書ヲ作製シ地方長官ニ報告シ軌道經營者ニ通知スヘシ

第十六條 道路管理者軌道法第九條ノ規定ニ依リ軌道敷地ヲ道路敷地ト爲サムトスルトキハ其ノ事由及區間ヲ記載シ工事設計書ヲ添附シ内務大臣及鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ道路管理者ハ軌道經營者ノ意見ヲ徵シ之ヲ申請書ニ附記スヘシ

2 道路管理者前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク道路敷地ト爲スヘキ區間ヲ示シ工事設計書ヲ添附シ其ノ旨ヲ軌道經營者ニ通知スヘシ

第十七條 地方長官運輸開始認可申請書ヲ受付タルトキハ工事ヲ検査シ故障ナシト認メタル場合ニ限リ運輸開始ヲ認可スヘシ

2 軌道經營者運輸ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ鐵道大臣及地方長官ニ届出ツヘシ

第十八條 第十五條ノ規定ハ軌道法第十二條第二項及第二十四條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 旅客運賃ノ認可申請書ニハ料制ニ在リテハ一料當ノ運賃、區間制ニ在リテハ區間ノ運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃及運賃計算ノ方法ヲ記載シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ(昭和五年六月内務鐵道省令改正)

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

- 2 前項ノ申請書ニハ料制及區間制ニ在リテハ實測換算中心料程表(第四號樣式)營業料程表(第五號樣式)及旅客運賃表(第六號樣式)ヲ添附スヘシ(同上)
- 第二十條 荷物運賃ノ認可申請書ニハ手荷物、荷物等ヲ區別シ其ノ品種等級ニ依リ料制ニ在リテハ一料當運賃、區間制ニ在リテハ區間ノ運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃並運賃計算ノ方法ヲ記載シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ(同上)
- 2 荷物運賃ニ關シ別ニ營業料程ヲ制定セムトスルトキハ其ノ增加割合ヲ前項ノ申請書ニ記載シ其ノ計算方法ヲ附記シ荷物營業料程表(第七號樣式)ヲ添附スヘシ(同上)
- 第二十一條 旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ變更後ニ於ケル收支豫算書ヲ添附シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十二條 運輸ニ關スル料金ノ認可申請書ニハ其ノ種類及金額ヲ記載シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ
- 2 運輸ニ關スル料金ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十三條 前四條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運賃又ハ料金ヲ實施シタルトキハ遲滯ナク其ノ月日ヲ鐵道大臣及地方長官ニ届出ツヘシ
- 第二十四條 運轉速度及度數ノ認可申請書ニハ運轉速度及度數表(第八號樣式)ヲ添附シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ(昭和四年十二月內務鐵道省令改正)
- 2 前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運轉速度ヲ増加シ又ハ度數變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ鐵道大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 3 前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ實施シタルトキ及發着時刻ヲ變更シタルトキハ發着時刻表(第八號樣式)ノ二)ヲ添附シ遲滯ナク其ノ月日ヲ鐵道大臣及地方長官ニ届出ツヘシ
- 第二十五條 軌道法第十八條第一項ノ規定ニ依リ買收ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ(昭和四年十二月內務鐵道省令改正)

- 一 買收ノ事由書
- 二 買收物件ノ範圍ニ關スル調書
- 三 買收價格算出説明書
- 四 買收ニ關シ軌道經營者ト爲シタル交渉ノ願末書
- 五 買收代價支拂ニ關スル説明書(支拂ノ方法、時期等ヲ記載スルコト)
- 六 買收ニ關スル公共團體ノ議會ノ決議書謄本
- 七 買收後ニ於ケル軌道事業計畫書及收支豫算書
- 八 公共團體ノ當該年度歲入出豫算書
- 第二十六條 車輛ノ衝突、顛覆其ノ他旅客ニ死傷ヲ生シタル重大ナル運轉事故ハ即時電信、電話又ハ口頭ヲ以テ內務大臣、鐵道大臣及地方長官ニ報告スルノ外七日以内ニ第九號樣式ニ依リ內務大臣、鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ
- 2 前項以外ノ事故ハ一月分ヲ取纏メ翌月十五日限り第十號樣式ニ依リ鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第二十七條 地方鐵道法施行規則第三條、第八條、第十三條、第十五條、第二十條、第二十一條、第二十五條第一項第二項、第二十六條乃至第三十三條、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第四十九條、第五十一條乃至第五十六條ノ規定ハ之ヲ軌道ニ準用ス但シ監督官廳トアル

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道法施行規則

ハ内務大臣及鐵道大臣トス

2 地方鐵道法施行規則第十八條ノ規定ハ新設軌道ニ之ヲ準用ス但シ監督官廳トアルハ内務大臣、鐵道大臣及地方長官トス

第二十八條 地方鐵道法施行規則第二十條但書ノ場合ニ於テ内務大臣ニ提出スル申請書ニハ地方鐵道ノ車輛ニ限リ機關車ニ在リテハ重量、主要寸法(圖面ヲ除ク)、制動機ノ種類及裝置ヲ、客車及貨車ニ在リテハ車種、輛數、自重、定員、定員一人ニ對スル客室面積、積載容積及荷重、最大寸法、固定輪軸距、制動機ノ種類及裝置汽動車、電氣機關車及電車ニ關スル事項ヲ記載ス

ヘシ地方鐵道法施行規則第二十六條ノ認可申請ニ付亦同シ(昭和五年六月内務鐵道省令改正) 第二十九條 軌道法又ハ本令ノ規定ニ依ル特許、許可及認可申請書並屆書ハ軌道ヲ敷設スル地方管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ二府縣以上ニ互リ敷設スル軌道ニ在リテハ事件カ二府縣以上ニ關スル場合ニ限リ其ノ起點所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

2 前項但書ノ場合ニ於テ申請書又ハ屆書ヲ受付タル地方長官ハ關係地方長官ニ商議スヘシ

附 則

1 本令ハ軌道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十三年一月一日)

2 從來爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之レニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附 則

(昭和四年十二月二日) 内務鐵道省令
(昭和四年十二月五日) 内務鐵道省令

附 則

(昭和五年六月三十日) 内務鐵道省令

1 本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
2 本令施行前内務大臣、鐵道大臣及地方長官ニ於テ受付ケタル書類及圖面ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

◎軌道建設規程

(大正十二年十二月二十九日) 改(昭和五年六月) 正(内務鐵道省令)

第一章 總 則

第一條 軌道ノ建設ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條 車輛ノ運轉ニ常用スル線路ヲ本線路ト謂ヒ其ノ他ノ線路ヲ側線ト謂フ

第三條 道路上其ノ他公衆ノ通行スル場所ニ敷設スル軌道ヲ併用軌道ト謂ヒ其ノ他ノ軌道ヲ新設軌道ト謂フ

第二章 線路及建造物

第一節 軌間及輪緣路

第四條 軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ内側ヨリ内側迄ノ距離ニ依リ之ヲ測定ス

第五條 軌間ハ七百六十二耗、一米〇六七、一米四三五ト爲スヘシ

第六條 併用軌道ノ曲線ニ於テ軌間ニ擴度ヲ附スル場合ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一 軌間一米〇六七若ハ一米四三五ニシテ曲線ノ半徑百二十米以下ノモノニ在リテハ二十五耗

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道建設規程

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道建設規程

二 軌間七百六十二耗ニシテ曲線ノ半徑六十米以下ノモノニ在リテハ十三耗以内
 第七條 輪緣路ハ車輛ノ輪緣ニ對シ適當ノ大サヲ有セシムヘシ
 2 市街地ニ於ケル併用軌道ニシテ交通特ニ頻繁ナル箇所、轉轍器又ハ轍又ヲ設置スル箇所ニ在リテハ溝軌條ヲ用キ若ハ之ニ準スヘキ施設ヲ爲スヘシ

第二節 軌道定規

第八條 併用軌道ハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設シ左ニ掲クル車體外有效幅員ヲ存セシムヘシ

道路ノ種別	車道歩道ノ區別アル道路ノ側		車道歩道ノ區別ナキ道路各側	
	車道各側	別アル道路ノ側	連櫓スヘキ場所	其ノ他ノ場所
特ニ主要ナル街路	八米一八以上	—	—	—
主要ナル街路	四米五五以上	—	—	—
特ニ主要ナル國道	四米五五以上	—	—	—
主要ナル國道	四米五五以上	—	—	—
特ニ主要ナル府縣道及市道	四米五五以上	—	—	—
主要ナル府縣道及市道	四米五五以上	—	—	—
特ニ主要ナル町村道	四米五五以上	—	—	—
主要ナル町村道	四米五五以上	—	—	—

第九條 街路、特ニ主要ナル國道、主要ナル府縣道及特ニ主要ナル府縣道ヲ除ク他ノ道路ニ於テハ左ニ掲クル車體外有效幅員ヲ存シ軌道ヲ其ノ一方ニ偏シテ敷設スルコトヲ得

道路ノ種別	車道歩道ノ區別ナキ道路	
	連櫓スヘキ場所	其ノ他ノ場所
國道	四米五五以上	四米五五以上
主要ナル府縣道及市道	四米五五以上	四米五五以上
特ニ主要ナル町村道	四米五五以上	四米五五以上
府縣道	四米五五以上	四米五五以上
市道	四米五五以上	四米五五以上
町道	四米五五以上	四米五五以上
村道	四米五五以上	四米五五以上

第十條 本線路ニ於テハ並行セル兩軌道中間ノ間隔ハ車輛ノ最大幅員ニ四百耗ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス
 2 本線路ニ於テハ車輛ト中央柱其ノ他ノ工作物トノ間隔ハ二百三十耗ヨリ小ナルコトヲ得ス
 3 本線路ノ曲線ニ於テハ前二項ニ規定スル間隔ハ之ニ兩車輛ノ偏倚スル寸法ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス
 第十一條 併用軌道ニ於テハ軌條間ノ全部及左右各六百十耗ハ其ノ軌道ヲ敷設スル道路ノ路面ト同一構造トシ軌條面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道建設規程

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道建設規程

第三節 電車柱、排水設備及地下工作物ニ對スル防備

第十二條 道路ニ建設スル電車柱ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ側柱式ト爲スヘシ
 2 側柱ハ車道歩道ノ區別アル箇所ニ於テハ歩道ノ車道側ニ之ヲ建設スヘシ
 3 中央柱式ニ依ル電車柱ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ
 第十三條 併用軌道ニ於テハ排水ノ設備ヲ爲スヘシ
 第十四條 軌道ヲ地下工作物ト交叉又ハ接近シテ敷設スル爲其ノ工作物ヲ防護スル必要アルトキハ適當ノ設備ヲ爲スヘシ
 2 軌道ハ人孔、制水瓣等ノ操業ニ障礙ヲ與ヘサル適當ノ距離ヲ存シ之ヲ敷設スヘシ

第四節 曲線及勾配

第十五條 本線路ノ曲線半徑ハ十一米ヨリ小ナルコトヲ得ス
 第十六條 本線路ノ勾配ハ千分ノ四十ヨリ急ナルコトヲ得ス但シ特殊ノ箇所ニ於テハ千分ノ六十迄ト爲スコトヲ得
 2 停留場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ千分ノ十ヨリ急ナルコトヲ得ス

第五節 軌道及橋梁

第十七條 軌道及橋梁ノ各部ハ動荷重ニ耐フル負擔力ヲ有スルコトヲ要ス
 2 併用軌道ニ於ケル軌道及橋梁ノ構造ハ前項ニ規定スルモノヲ除クノ外街路ニ係ルモノハ街路構造令、其ノ他ノ道路ニ係ルモノハ道路構造令ノ規定ニ依ルコトヲ要ス
 第十八條 新設軌道ノ橋梁ニシテ交通頻繁ナル道路上又ハ水面上ニ架設スルモノニ在リテハ物件

ノ墜落ヲ防ク爲車輛ノ全幅員及其ノ兩側各三百耗以上之ヲ蓋フコトヲ要ス

第六節 踏切

第十九條 軌道ト道路トノ平面交叉ノ交角ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外國道、府縣道及主要ナル市道町村道ニ在リテハ四十五度以上其ノ他ニ在リテハ三十度以上ト爲スヘシ
 第二十條 踏切道ハ軌道間ノ全部及其ノ左右各六百十耗ニ木石其ノ他適當ナル材料ヲ敷キ軌道面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ
 2 新設軌道ノ踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標ヲ設ケ交通頻繁ナル箇所ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スヘシ

第七節 保安裝置

第二十一條 線路カ本線路ヨリ分岐シ又ハ本線路カ鐵道、軌道ト平面交叉ヲ爲ス箇所ニハ相當ノ保安裝置ヲ爲スヘシ新設軌道ノ停留場ニ於テ車輛ノ行違ヲ爲スモノニ付亦同シ

第三章 車輛

第一節 裝置

第二十二條 車輛ニハ適當ナル制動機ヲ裝置スヘシ但シ貨車ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得
 2 動力車ニハ手用制動機ヲ裝置スヘシ但シ特殊ノ軌道ニ使用スルモノニ在リテハ手用制動機及動力制動機ヲ備フヘシ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道建設規程

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道建設規程

第二十三條 車輛ニハ救助器、擔彈機、音響器及乗務員間ノ合圖器ヲ裝置スヘシ但シ人力又ハ馬力ヲ動力トスル車輛及新設軌道ノミヲ運轉スル車輛ニ在リテハ救助器ヲ裝置スルコトヲ要セス

2 客車ニハ前項ニ規定スルモノノ外乗降用把手及車窓保護棒ヲ裝置スヘシ二車以上連結スル車輛ニハ彈性ノ緩衝器及聯結器ヲ裝置スヘシ

第二十四條 客車内ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ但シ瓦斯燈又ハ電燈ナルトキハ豫備燈ノ設備ヲ爲スヘシ

第二節 車輪

第二十五條 車輪輪鐵ノ幅ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百五耗以上百三十耗以下

二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ八十五耗以上百十五耗以下

三 主トシテ溝軌條ヲ使用スル線路ニ在リテハ七十五耗以上百十五耗以下

第二十六條 車輪輪鐵ノ高ハ輪鐵中央ノ踏面ヨリ測リ常ニ左ノ寸法ヲ保タシムヘシ

一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ二十九耗以上三十耗以下

二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ二十九耗以上三十耗以下

三 主トシテ溝軌條ヲ使用スル線路ニ在リテハ二十三耗以上二十五耗以下

2 輪鐵ノ厚ハ輪鐵中央ノ踏面ヨリ十耗下位ニ於テ測リ常ニ左ノ寸法ヲ保タシムヘシ

一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ十六耗以上

二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ十三耗以上

三 主トシテ溝軌條ヲ使用スル線路ニ在リテハ十耗以上

第三節 機關車及電車

第二十七條 蒸汽機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一 給水器、驗水器、安全弁各二箇ヲ備フルコト

二 可銘栓、實用最高汽壓ヲ特記シタル驗壓器各一箇ヲ備フルコト

三 煙室ニハ火粉止ヲ灰箱ニハ灰爐止ヲ備フルコト

四 火室側控ニ知ラセ孔ヲ設クルコト

第二十八條 電氣機關車及電車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一 自動遮斷器ヲ備フルコト

二 特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御器ヲ備フルコト

三 架空線式ノ場合ニ在リテハ避雷器ヲ備フルコト

第四節 客車及自動車

第二十九條 客車内ノ面積ハ乗客定員一人ニ付平均零平方米二八ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立乗客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ限り之ヲ零平方米一八迄縮小スルコトヲ得

第三十條 客車ノ乗降踏段ノ蹴上ハ三百八十耗以内、有效蹴込ハ二百十五耗以上タルコトヲ要ス

第三十一條 客車ノ出入口ノ戸ハ有效開キ五百五十耗以上タルコトヲ要ス乗降臺ノ有效長ニ付亦同シ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道建設規程

第六類 軌道地方鐵道及自動車 軌道建設規程

第三十二條 汽動車ニハ蒸汽機關車及客車ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章 雜 則

第三十三條 第五條、第六條、第十條、第二十條第二項、第二十一條、第二十五條、第二十六條

及第二十九條乃至第三十一條ノ規定ハ人力又ハ馬力ヲ動力トスル軌道ニ之ヲ適用セズ

第三十四條 地方鐵道建設規程第十七條、第二十八條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ軌道ニ

第五條、第六條、第十六條、第二十條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ新設軌道ニ之ヲ準用ス

但シ人力又ハ馬力ヲ動力トスルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ內務大臣鐵道大臣ハ本令ニ依ラサル設計ヲ命スルコト

ヲ得

2 特別ノ事由アル場合ニ於テハ內務大臣鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ前各條ニ規定スル設計ニ依ラサル

コトヲ得

附 則

1 本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

2 從來爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附 則 (昭和五年六月三十日 內務鐵道省令)

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道法

(大正八年四月十日 法律第五二號) 改(大正十年四月二日 法律第三八號) 正(昭和四年四月十八日 同第六二號)

第一條 本法ハ軌道法ニ規定スルモノヲ除クノ外道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ

公衆ノ用ニ供スル爲敷設スル地方鐵道ニ之ヲ適用ス(昭和四年四月法律第六二號改正)

2 地方鐵道業者カ運送營業ノ爲支線ヲ敷設スルトキハ公衆ノ用ニ供セサル場合ト雖本

法ヲ適用ス

3 道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ政府ノ鐵道

又ハ地方鐵道ニ接続スルモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 地方鐵道ハ人力又ハ馬力其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ動力ト爲スコトヲ得ス

第三條 地方鐵道ノ軌間ハ三呎六吋トス特別ノ場合ニ在リテハ四呎八吋半又ハ二呎六

吋ト爲スコトヲ得

2 前項ノ軌間ノ制限ハ命令ヲ以テ定ムル特殊ノ地方鐵道ニ付テハ之ヲ適用セズ(同上)

第四條 地方鐵道ハ之ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ

主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方鐵道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ

兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法

第六條 地方鐵道會社ハ株金全額拂込前ト雖監督官廳ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得但シ軌道會社ニ非サル會社力兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條ノ二 地方鐵道會社ハ線路延長ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スル場合ニ限リ監督官廳ノ認可ヲ受ケ利益配當ニ關シ一定ノ期間内普通株ニ劣ル株式(後配株)ヲ發行スルコトヲ得(昭和四年四月法律第六二號新設)

第六條ノ三 後配株ヲ發行スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ定款ニ記載シ且株式申込證ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

一 後配株ノ種類及其ノ各種ノ株式ノ數

二 後配株ノ利益配當ニ關スル事項

三 延長線ノ工事ノ大要殊ニ其ノ開業豫定期

第六條ノ四 後配株ノ發行ニ依リテ得タル資金ハ當該線路延長ノ費用以外ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス(同上)

2 會社カ後配株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款又ハ株式申込證ニ記載シタル事項ニ付特ニ後配株主ニ不利益ナル變更ヲ爲サムトスルトキハ後配株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可アルトキハ此ノ限ニ在ラス

3 後配株主總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條ノ五 商法第九十七條但書、第二百十二條ノ三第二項、第二百十七條第一項第四號及第二百十八條第二項ノ規定ハ後配株ニ付之ヲ準用ス(昭和四年四月法律第六二號改正)

第七條 地方鐵道會社ノ社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス(同上)

2 社債ノ額ハ鐵道抵當法ニ依ル債務ノ額ト併セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第八條 鐵道及其ノ附屬物件ハ鐵道抵當法ニ依ルニ非サレハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ス(同上)

第九條 削除 (昭和四年法律第六二號)

第十條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

2 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十二條 地方鐵道業ヲ營マムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 建設費概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法

2 免許ニハ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限ヲ附ス

第十三條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ書類及圖面ヲ監督官廳ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ

一 線路實測圖

二 工事方法書

三 建設費豫算書

四 免許ヲ受ケタル者カ會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ設立登記謄本

2 工事施行ノ認可ニハ工事ノ著手及竣工ノ期限ヲ附ス

第十四條 地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り第十條第二項又ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ附セラレタル期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 左ニ掲クル土地ヲ以テ鐵道用地トス

一 線路用地

二 停車場、信號所、車庫及貨物庫等ノ建設ニ要スル土地

三 鐵道專用ニ供スル發電所、變電所及配電所等ノ建設ニ要スル土地

四 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道係員ノ舍宅及運輸保線ノ職務ニ従事スル鐵道係員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

五 鐵道ニ要スル車輛、器具、機械ヲ修理製作スル工場及其ノ資材、器具、機械ヲ

貯藏スル倉庫等ノ建設ニ要スル土地

第十六條 道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ニ關スル工事ノ施設ハ所管行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ地方鐵道ニ接続シ若ハ之ヲ横斷シテ鐵道若ハ軌道ヲ敷設シ又ハ地方鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ横斷シテ道路、橋梁、河川

運河及溝渠等ヲ造設スルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

2 前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ地方鐵道業者ニ設備ノ

共用又ハ變更ヲ命スルコトヲ得

3 設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大

臣之ヲ裁定ス

第十八條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り免許ニ屬スル權利義

務ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限迄ニ認可ヲ申請セサルトキ

二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三 工事施行ノ認可ニ附シタル工事著手ノ期限迄ニ工事ニ著手セサルトキ

四 營業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

2 免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼スルコト

第二十條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第二十一條 地方鐵道業者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

2 監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃及料金ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十二條 地方鐵道業者ハ旅客列車及混合列車ノ運轉速度及度數ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ(昭和四年四月法律第六二號改正)

2 監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ列車ノ運轉速度、度數及發著時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 監督官廳ハ監督員ヲ派遣シテ鐵道ノ工事、運輸保線ノ狀態、會計及財産ノ實況ヲ監督セシムルコトヲ得

2 鐵道ノ工事、運輸保線ノ狀態及會計ノ整理ニ付法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ違ヒ又ハ不適當ナリト認ムルモノアルトキハ監督官廳ハ其ノ改善又ハ改善ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ工事、運輸又ハ設備使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

3 監督員ハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ニ説明ヲ求メ金櫃、帳簿、書類及圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十四條 地方鐵道業者ハ地方鐵道ノ監督事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ノ發行スル證票ヲ携帯スル者ヲ無償ニテ乘車セシムヘシ

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ鐵道又ハ軌道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合及費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十六條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業若ハ運轉ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道業者ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ

2 營業又ハ運轉ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道業者ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十七條 地方鐵道業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運輸營業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ス

2 地方鐵道會社ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條 主務大臣ハ地方鐵道ノ會計及運賃ノ割引ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 地方鐵道業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時及戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

第三十條 政府ハ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道(工事中ノ線路ヲ含ム)ノ全部又ハ一

部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得スハ一
(昭和四年四月法律第六二號本條改正)

2 前項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能
ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ殘存開業線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ申請
スルコトヲ得

第三十一條 買收價額ハ左ノ掲クルモノトス(同上)

- 一 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含ム開業線路ニ付テ
ハ其ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル開業線建設費ニ對スル益金ノ平均
割合ヲ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ニ乗シタル額ヲ二十倍シタル金額
- 二 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含マサル開業線路ニ
付テハ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル
金額以內ニ於テ協定シタル金額
- 三 工事中ノ線路及買收ノ日迄ニ未タ使用開始ニ至ラサル改良施設ニ付テハ買收ノ
日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ協定
シタル金額

2 前項第一號ノ規定ニ依ル金額カ買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金
額ニ換算シタル金額ニ達セサルトキハ其ノ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金
額ヲ以テ買收價額トス

第三十二條 前條ノ規定ニ於テ益金トハ營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタルモ
ノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ三年間ニ於ケル每營業年度末ノ開業線建設費ノ合計ヲ
以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノニ一年間ニ於ケル營業年度ノ數ヲ乘
シタルモノヲ謂フ(昭和四年四月法律第六二號改正)

2 建設費、營業收入及營業費ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ算出シタル金額ニ依ル

第三十三條 政府ノ買收スル鐵道又ハ其ノ附屬物件ニ付買收ノ日ニ於テ補修ヲ要スル
モノアルトキハ之ニ要スル金額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ
控除ス(同上)

2 最近ノ營業年度末迄ニ爲スヘキ補修ヲ其ノ營業年度末迄ニ爲ササリシトキハ前項ノ
規定ニ依ルノ外之ニ要スル金額ヲ買收價額計算上ノ營業費ニ加算ス

第三十四條 買收ヲ受クヘキ地方鐵道業者カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬ス
ル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得

2 前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

第三十五條 買收代價ハ券面金額ニ依リ五十五年內ニ償還スヘキ五分利付國債證券ヲ
以テ之ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ券面金額五十圓トス

第三十五條ノ二 政府ハ買收ノ日ヨリ買收代價交付ノ日ニ至ル迄買收代價トシテ交付
スヘキ國債ノ利子ニ相當スル金額ヲ概算ヲ以テ從前ノ決算期毎ニ買收セラレタル者
ニ交付スルコトヲ得(同上)

2 前項ノ規定ニ依リテ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第三十五條ノ三 第三十條第一項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ申請スルコトヲ得
(昭和四年四月法律第六二號改正)

第三十六條 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ竝行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道業者カ其ノ接近シ又ハ竝行スル區間ノ營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ政府ハ其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ヲ補償スルコトヲ得殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ(同上)

2 前項ノ規定ハ未タ運輸開始ニ至ラサル線路ニ付之ヲ準用ス
第三十六條ノ二 前二條ノ補償金額ハ第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ準シテ算出シタル金額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額ヲ控除シタル殘額以內ニ於テ政府之ヲ定ム(同上新設)

2 未タ工事ニ著手セサル線路ニ對スル補償金額ハ測量其ノ他ノ費用ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル殘額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ政府之ヲ定ム
3 第三十五條及第三十五條ノ二ノ規定ハ前二項ノ補償金ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ三 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ竝行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道ノ每營業年度ニ於ケル益金又ハ益金ト地方鐵道補助法ニ依リ受ケル補助金トノ合計カ當該營業年度ノ建設費ニ益金ノ平均割合ヲ乘シタル額ニ不足スルトキハ政府ハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ帝國鐵道特別會計收益勘定歲出豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ不足額ヲ補償スルコトヲ得但シ每營業年度ニ於ケル補償額ハ益金又ハ益金及補助金ト合セ建設費ノ百分ノ七ニ相當スル額ヲ超ユルコトヲ得ス
(昭和四年四月法律第六二號改正及線下ゲ)

2 前項ノ益金ノ平均割合トハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ノ屬スル營業年度ノ前營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル每營業年度ノ開業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタル殘額ノ合計ヲ除シタルモノヲ謂フ
3 第三十二條ノ規定ハ前二項ノ益金、建設費、營業收入及營業費ニ、地方鐵道補助法第六條及第七條ノ規定ハ第一項ノ補償ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ四 主務大臣ハ地方鐵道ノ買收又ハ補償ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該地方鐵道業者ヲシテ建設費ノ増減ヲ來スヘキ事項ニ付認可ヲ受ケシムルコトヲ得(同土本條改正)

2 前項ノ規定ニ依リテ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ之ヲ受ケサルモノニ付テハ政府ハ其ノ額ヲ査定スルコトヲ得
第三十六條ノ五 第三十一條、第三十三條及第三十六條ノ二ノ國債時價ハ大藏大臣ノ

定ムル所ニ依ル (昭和四年四月法律第六二號改正)

第三十七條 地方鐵道業者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二 政府ニ於テ又ハ他ノ地方鐵道業者ヲシテ地方鐵道業者ノ計算ニ於テ必要ナル施設若ハ營業ノ管理ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト

三 免許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

2 前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セララルコトヲ得ス

第三十八條 免許ヲ受ケスシテ地方鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類、圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

五 第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ後配株主ニ不利益ヲ及ボシタルトキ (昭和四年四月法律第六二號追加)

2 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第四十條 前二條ノ規定ハ公共團體カ地方鐵道業ヲ營ム場合ニ之ヲ適用セス

附 則

第四十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年八月勅令第三七四號ヲ以テ

同年八月十五日ヨリ施行)

第四十二條 私設鐵道法及輕便鐵道法ハ之ヲ廢止ス

2 舊法ニ依リテ爲シタル免許若ハ指定、許可又ハ認可ハ本法ニ依リテ爲シタル免許、許可又ハ認可ト看做ス但シ其ノ免許若ハ指定、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニシテ本法ニ抵觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

3 第二條及第三條ノ規定ハ舊法ニ依リテ免許又ハ指定ヲ受ケタルモノニ之ヲ適用セス

第四十三條 輕便鐵道法ニ依リテ輕便鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタル事項ハ之ヲ鐵道抵當法ニ依リ鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタルモノト看做シ輕便鐵道抵當原簿ハ鐵道

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法

抵當原簿ト看做ス

第四十四條 輕便鐵道法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十五條 軌道又ハ專用鐵道ヲ地方鐵道ニ變更セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附 則 (大正十年四月 法律第三八號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十年勅令第三七三號ヲ以テ同年八月十五日ヨリ施行)

附 則 (昭和四年四月 法律第六二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和四年十二月四日勅令第三三八號ヲ以テ同年十二月五日ヨリ施行)

◎地方鐵道法施行規則

(大正八年八月十三日 閣令第一〇〇號) 改(大正十年八月四日鐵道省令第一號、昭和四年十二月二日同第三號、五年六月三十日同第八號)

第一條 地方鐵道ノ免許、許可及認可申請書並届出ニシテ地方長官ヲ經由スヘキモノハ鐵道ヲ敷設スル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ但シニ府縣以上ニ互リ敷設スル地方鐵道ニ在リテハ其ノ起點所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第二條 地方長官ハ免許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査書及免許ノ許否ニ關スル意見書ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

一 申請者ノ資産及信用程度

二 事業ノ成否

三 事業ノ效用

四 他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等 (未開業ノモノヲ含ム) ニ及ホス影響 (昭和四年十月二月鐵道省令第三號改正)

五 他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等ノ競願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者名及申請書ノ受付年月日(同上)

六 其ノ他必要ト認ムル事項

2 前條但書ノ場合ニ於テハ免許申請書ヲ受付ケタル地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ調査書及意見書ヲ作製スヘシ

第三條 免許ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スヘシ但シ代理人ニ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

於テ記名捺印スルトキハ代理權ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
 一 組合ニ在リテハ組合契約書ノ謄本
 二 會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款ノ謄本
 三 既設會社ニ在リテハ地方鐵道ノ營業ヲ目的トスルモノヲ除クノ外定款及登記謄本
 四 公共團體ニ在リテハ地方鐵道經營ニ關スル決議要領書
 第四條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 商號又ハ名稱及主タル事務所ノ設置地
- 三 鐵道事業ニ要スル資金ノ總額及其ノ出資方法
- 四 線路ノ起終點及其ノ經過スヘキ主ナル市町村名並線路ノ一部ヲ道路ニ敷設セムトスルトキハ其ノ區間及道路ノ種別
- 五 軌間
- 六 動力

蒸氣、電氣等ノ別、電氣ヲ動力トスルモノニシテ自ラ發電
 設備ヲ有スルモノニ在リテハ原動力ノ種類（火力、水力ノ
 別）、他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノニ在リテハ供給者名

第五條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス

一 平面圖

縮尺ハ二萬五千分ノ一以上トシ、線路經過地ノ地名及地勢、停車場ノ位置及名稱並一軒毎ニ
 料程ヲ記シ方位ヲ示スヘシ（昭和五年六月鐵道省令第八號改正）

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ二萬五千分ノ一以上、高ヲ二千分ノ一以上トシ中心線地面及施工基面ノ高低ヲ

示シ隧道及橋梁ノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置及名稱ヲ記スヘシ（同上）

第六條 建設費ノ概算書ハ第一號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 運送營業上ノ收支概算書ハ第二號様式ニ依リ之ヲ調製シ第三號様式ニ依ル運輸數量表ヲ
 添附スヘシ

第七條ノ二 地方鐵道法第三條第二項ノ規定ニ依リ軌間ノ制限ヲ適用セサル地方鐵道ハ左ノ通ト
 ス（昭和四年十二月鐵道省令第三號改正）

一 鋼索鐵道

二 懸垂鐵道

第八條 免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人又ハ組合員ナルトキハ發起人又ハ法人ニ非サル組合ノ組
 合員ノ加入又ハ脱退（死亡及除名ヲ含ム）ハ遲滞ナク地方長官ヲ經由シ監督官廳ニ之ヲ届出ツ

ヘシ（同上）

第九條 免許ヲ受ケタル後工事施行ノ認可ヲ受クル前ニ於テ起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變
 更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ商號又ハ名稱、主タル事

務所ノ設置地及電力供給者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 前項但書ノ場合ニ於テハ遲滞ナク地方長官ヲ經由シ之ヲ届出ツヘシ

第十條 工事施行ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

2 鐵道カニ府縣以上ニ互ル場合ニ於テハ其ノ關係部分ニ對スル書類及圖面ノ謄本ヲ調製シ之ヲ關
 係地方長官ニ提出スヘシ

第十一條 線路實測圖ハ左ノ二種トス

一 平面圖

縮尺ハ二萬五千分ノ一以上トシ線路ノ左右各二百米以內ノ地勢ヲ明ニシ其ノ他附近ノ市街、

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

六九四

村落、社寺、名勝、舊蹟、公園、道路、鐵道、軌道、山岳、河川（氾濫地域ヲ記）、運河、港灣、要塞地等ヲ記シ府、縣、郡、市、町、村ノ境界及方位ヲ示スヘシ
線路中心線ニハ一軒毎ニ軒程ヲ記シ曲線ノ半徑及交角並停車場、停留場及信號所ノ位置、名稱及中心軒程ヲ記スヘシ（昭和五年六月鐵道省令第八號改正）

二 縱斷面圖

縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ二千分ノ一以上トシ中心線地面及施工基面ノ高低並築堤ノ高及切取ノ深ヲ二百米毎ニ記シ隧道ノ長、橋梁（溝橋ヲ含ム）ノ徑間及徑間數、桁ノ種類及材質、停車場、停留場及信號所ノ名稱及中心軒程、重要ナル踏切道並線路ノ勾配ヲ記スヘシ（同上）

2 線路カ他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉、連絡又ハ接近スルトキハ其ノ鐵道又ハ軌道ノ前後各一軒間ノ中心線及高低ノ關係ヲ明ニスヘシ

3 線路カ市街地ヲ通過シ又ハ之ニ接近スルトキハ別ニ縮尺二千五百分ノ一平面圖及縮尺長二千五百分ノ一、高四百分ノ一ノ縱斷面圖ヲ添付スヘシ

第十二條 工事方法書ニハ左ノ實施設計ヲ記載スヘシ（昭和五年六月鐵道省令第八號改正）

一 動力

二 軌間

單線、複線等ノ別及其ノ區間

三 軌道ノ中心間隔

各部寸法、兩定規相互ノ關係及建築定規軌條部

四 建築定規及車輛定規

分ノ明細ヲ記入シタル圖面ニ依リ明示スルコト

五 最小曲線半徑

七 最急勾配

第四號樣式ニ依ル圖面添附

八 土工定規

築堤、切取等ヲ區別シ側溝ヲ除キタル幅ヲ記載スルコト

(イ) 線路施工基面ノ幅 高又ハ地質ニ應スル斜面

(ロ) 築堤及切取斜面ノ勾配 勾配ヲ記載スルコト

(ハ) 用地ノ限界 築堤法尻又ハ切取法肩ヨリ用地ノ境界迄ノ距離ヲ乾地、濕地ニ區別シ記載スルコト

九 橋梁

(イ) 橋臺、橋脚 粗石積、煉瓦積、混凝土工、木造等ノ別ヲ記載スルコト

(ロ) 基礎 杭打混凝土工、煉瓦沈井、工等ノ別ヲ記載スルコト

(ハ) 桁 鋼、鐵筋混凝土、松等ノ別並工字形、煉瓦卷、鐵筋混凝土工等ノ別ヲ記載スルコト

(ニ) 拱 煉瓦卷、鐵筋混凝土工等ノ別ヲ記載スルコト

(ホ) 橋梁ノ所定動荷重及桁ノ最大應力 第五號樣式ニ依ル圖表添附

(イ) 重要ナル架橋河川ノ平水位、最高水位及其ノ水位ト桁ノ下端トノ距離

(イ) 乃至(ニ)ニ付テハ各部材質及構造寸法ヲ示ス設計圖並異ル徑間ヲ使用スル橋梁ニ在リテハ徑間配置圖ヲ各橋梁毎ニ添付スヘシ但シ模範設計ヲ定メ之ヲ適用スヘキ箇所ヲ示シタルモノ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

六九五

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

十 隧道

(イ) 各其ノ地質ニ應スル施工断面 拱、側壁、仰拱及排水渠ノ材質及構造寸法ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

(ロ) 坑門 材質及構造寸法ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

十一 軌條、轉轍器、轍叉及枕木

(イ) 軌條ノ重量 各軌條ノ使用區間ヲ使用スルトキハ

(ロ) 軌條及附屬品ノ材質及形狀 軌條又ハ附屬品ノ異ル毎ニ形

(ハ) 轉轍器及轍叉ノ構造 轉轍器ニ在リテハ重錘取柄式又ハ自動彈機式等ノ別、轍叉ニ在

條ノ間隔等各部ノ寸法 轉轍器ニ在リテハ番號ヲ記シ轉轍器尖端軌條ノ開キ竝轍叉翼軌條及護輪軌

(ニ) 枕木ノ寸法及敷設間隔 軌條重量ノ異ル毎ニ中心距離ノ

十二 停車場、停留場及信號所

(イ) 建造物、配線、用地境界及實測中心綫程 本屋、待合所、貨物庫、車庫、乘降場、貨

轉車臺、給水器、石炭臺、灰坑等ノ位置、乘降場及貨物積卸場ノ長及幅、轍叉ノ番號、

線路ノ配置、用地境界及實測中心綫程ヲ平面圖(縮尺千分ノ一ニ依リ明示スルコト)

(ロ) 軌道ト乘降場及貨物積卸場トノ關係 橫断面圖ニ依リ

(ハ) 聯動裝置 圖表ヲ添附シ

十三 他ノ鐵道又ハ軌道トノ交叉方法 交叉設計圖ヲ添附シ停車場、信號所以外ニ於テ人力又

合ニ在リテハ其ノ保安

十四 閉塞信號機 設計及位置ヲ明示スル圖面ヲ

添附シ作用ヲ説明スルコト

十五 車輛

(イ) 機關車 四輪聯結六輪タンク機關車、六輪聯結十

形式 輪テンダー機關車等ノ別ヲ記載スルコト

輛數 運轉整備ノトキニ於ケル總重

重量 量ヲ英噸ヲ以テ記載スルコト

一 働輪一對ノ軌條面最大壓力 運轉整備ノトキニ於ケル重量

ヲ英噸ヲ以テ記載スルコト

(ロ) 客車及貨車

一 車種 ボギー車、四輪車等

ノ別ヲ記載スルコト

一 輛數 越ヲ以テ記

一 自重 載スルコト

一 定員 越ヲ以テ記

一 荷重 載スルコト

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

- (ハ) 汽動車 機關車及客貨車ニ準シ記載スルコト
- 十六 車輛修繕設備ノ大要
- 十七 特殊設計

2 電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ前項ノ外左ノ實施設計ヲ記載スヘシ

- 一 送電系統 發電所、變電所、蓄電所、配電所及電車線路間相互ノ送電關係ヲ圖面ニ依リ明示スルコト
- 二 電氣鐵道ノ方式 直流、交流、架空單線式、架空複線式、第三軌條式等ノ別及電車線ノ電壓ヲ記載スルコト
- 三 發電所、變電所、蓄電所及配電所 所在地、番地ヲ記載スルコト

- (イ) 出力 最大出力、平均出力及最大出力ノ繼續時間ヲ記載スルコト
- (ロ) 原動機、發電機、電動發電機、回轉變流機、周波數、變換機、變壓器、蓄電池、昇壓機等ノ種類、箇數、常用ト豫備トニ別テ記載スルコト
- (ハ) 電流、相及周波數

四 送電線路及饋電線路 電線路毎ニ記載スルコト

- (イ) 電氣方式 直流及交流ノ別並相及及最大電壓
- (ロ) 電線路ノ構造 線式ヲ記載スルコト
- 電線ノ種類 材質、單線、複線、被覆線 及太サ

五 電車線路

(イ) 架空複線式

- 一 架設方法 架空式ニ在リテハ木柱、鐵柱、鐵塔等ノ別地中式ニ在リテハ暗渠、線渠、直接埋設等ノ別ヲ記載スルコト
- 一 電線ノ種類、太サ及吊架方法 スパン線式又ハブラケット式及直接吊線式又ハ鏈線式等ノ別ヲ記載シ其ノ構造寸法ヲ示ス圖面添附シ
- 一 支持物ノ種類 木柱、鐵柱、鐵塔等 建植方法 中央柱及側柱ノ別ヲ記載スルコト 柱間距離 及最大距離ヲ記載シ最大距離六十米以上ナルトキハ其ノ電線ノ弛度及支持物ノ強度ニ關スル計算ヲ示スコト
- 一 他ノ建造物トノ關係上施設スヘキ設計 圖面ヲ添附シ

(ロ) 架空單線式

- (イ)ニ揭クル事項
- 一 軌條ノ接續方法 圖面ヲ添附シ
- 一 補助線及軌條ポンドノ種類及太サ 說明スルコト
- 一 第三軌條式 圖面ヲ添附シ
- 一 敷設方法 說明スルコト
- 一 第三軌條ノ重量及形狀
- 一 第三軌條及軌道軌條ノ接續方法 圖面ヲ添附シ
- 一 軌條ポンドノ種類及太サ 說明スルコト

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

六 電氣機關車及電車

- (イ) 電動機ノ種類、筒數、出力及電壓
- (ロ) 制御裝置ノ種類及制御器ノ筒數
- (ハ) 聚電裝置ノ種類及筒數

七 鐵道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合

- (イ) 供給電力ノ電氣方式、最大電壓、容量及受給時間
 - (ロ) 送電上ノ責任分界點、電氣工作物ノ所有權分界點
 - (ハ) 受電設備ノ大要
- 圖面ニ依リ明
示スルコト

第十三條

他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉又ハ連絡スル場合ニ於テハ交叉又ハ連絡ニ關スル協定書ノ謄本及鐵道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合ニ於テハ供給契約書ノ謄本ヲ工事方法書ニ添附スヘシ

第十四條 建設費豫算書ハ第六號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十五條 建設費豫算總額ノ變更ハ第七號様式ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

免許ヲ受ケタル鐵道線路ノ全部ニ對シ工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十六條 地方鐵道法第十四條ノ規定ニ依ル期限伸長ノ申請書ハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第十七條 工事施行ノ認可ヲ受ケタル後線路又ハ工事方法書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ第十一條及第十二條ノ規定ニ準シ線路實測圖及變更セムトスル事項ニ關

スル工事方法書 線路及停車場ノ變更ニ在リテハ新舊對照圖添附

2 前項ノ認可申請書ニハ工費豫算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明ニスヘシ但シ重要ナラサル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

3 停車場ノ廢止、線路及橋梁ノ重要ナル變更並洪水氾濫地域ニ於ケル線路及橋梁ノ變更ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第十八條 線路及工事方法書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ左ニ掲クルモノハ其ノ理由ヲ具シ新舊對照シ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ (昭和五年六月鐵道省令第八號改正)

- 一 線路中心線ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ左右各二十米以内其ノ他ノ地ニ在リテハ各百米以内ナルトキ (圖面添附)
- 二 曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ又ハ軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ百六十米迄其ノ他ノモノニ在リテハ二百四十米迄之ヲ短縮スルトキ (圖面添附)
- 三 施工基面高低ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ六百耗以内其ノ他ノ地ニ在リテハ千八百耗以内ナルトキ (圖面添附)
- 四 線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナシラムルトキ又ハ電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ千分ノ二十五迄其ノ他ノモノニ在リテハ千分ノ十七迄之ヲ急ナラシムルトキ (圖面添附)
- 五 線路ノ勾配千分ノ五ヨリ急ナラサル箇所ニ於ケル停車場ノ中心綫程ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ二十米以内其ノ他ノ地ニ在リテハ百米以内ナルトキ (圖面添附)
- 六 停車場、停留場及信號所ノ名稱變更

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

- 七 停留場及側線ノ設ナキ信號所ノ新設又ハ位置變更(圖面添附)
- 八 踏切道ノ増減
- 九 六米以内ノ橋梁及百米以内ノ隧道ノ廢止並認可ヲ得タル設計ト同一設計ニ依ル橋梁及隧道ノ新設又ハ伸縮(圖面添附)
- 十 停車場、停留場及信號所ニ於ケル建造物及配線ノ伸縮増減(停車場ヲ停留場ニ又ハ停車場ヲ停車場ニ變更スル場合ヲ除ク)並用地境界ノ變更(圖面添附)
- 2 洪水氾濫地域ニ於ケル線路及橋梁ノ變更ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス
- 第十九條 工事ニ著手シタルトキハ一週間以内ニ監督官廳ニ之ヲ届出テ毎年六月及十二月ノ末日現在ニ依リ翌月十五日迄ニ第八號様式ニ依ル工程表ヲ提出スヘシ
- 第二十條 車輛ニ關シテハ其ノ製作又ハ購入前設計ヲ定メ左ノ事項ヲ記載シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ政府ノ鐵道所屬ノ車輛又ハ既認可ノ車輛ニシテ改造ヲ加ヘサルモノヲ購入スル場合ニ於テハ前使用者名、舊形式稱號及番號ヲ記載シ左ノ事項ノ記載ヲ省略スルコトヲ得(昭和五年六月鐵道省令第八號改正)

- 一 機關車 設計ノ異ル毎ニ設計書ヲ作製スルコト
- (イ) 形式 四輪聯結六輪タンク機關車、六輪聯結十輪タンク機關車等ノ別ヲ記載スルコト
- (ロ) 輛數 運轉整備ノトキニ於ケル汽關車及炭水車ノ各車輪一對ノ軌條面壓力ヲ英噸ヲ以テ記載スルコト
- (ハ) 重量

- (ニ) 主要寸法 シタル組立圖ヲ添附シ端面圖ニハ車輛中心線ヨリ關係ヲ示スコト
- 一 最大寸法 長ハ前後緩衝器間ノ距離、幅ハ車體中心線ヨリ側部ニ於ケル最突出部迄ノ距離ノ二倍、高ハ軌條面ヨリ最高部迄ノ距離
- 一 車輪軸距 機關車及炭水車ヲ區別シ固定輪軸距、全輪軸距、機關車及炭水車ヲ合シタル全輪軸距
- 一 軌條面ヨリ緩衝器及聯結器ノ中心迄ノ高
- 一 兩側緩衝器中心間ノ距離
- (ホ) 汽罐ノ構造 罐胴、煙櫃及火室ノ構造寸法並各級ノ繼手及各種繫桿ノ構造配置ヲ示ス (圖面添附)
- 一 火床面積 平方米ヲ以テ記載スルコト
- 一 傳熱面積 總面積ヲ記載シ焔管ノ面積、火室ノ面積、過熱面積等ヲ區別シ平方米ヲ以テ記載スルコト
- 一 焔管ノ外径及長 長ハ管板間ニテ計リタルモノヲ記載スルコト
- 一 實用最高汽壓 一平方糎ニ付疋ヲ以テ記載スルコト
- (ヘ) 汽機ノ構造 汽筒ノ直徑及衝程ヲ記載シ汽筒及汽櫃ノ構造並摺動弁運動裝置ヲ圖面ニ依リ明示スルコト
- (ト) 臺櫃ノ構造 圖面ニ依リ明示スルコト
- (チ) 聯結桿及併行桿ノ構造 圖面ニ依リ明示スルコト

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

- (リ) トラックノ構造 圖面ニ依リ明
- (ヌ) 車輪車軸ノ構造 車輪車軸圖、作圖上必要ナル寸法ヲ詳記シタル輪鐵ノ現尺斷面圖及車輪トノ關係ヲ明示セル斷面圖添附
- 一 車輪ノ直徑 各輪ノ導輪、從輪及炭水車ノ
- 一 車輪一對ノ輪鐵內側距離 圖面ニ依リ明
- (ル) 擔彈機ノ構造及裝置 圖面ニ依リ明
- (ヲ) 緩衝器、聯結器ノ種類及構造 兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造ヲ圖面ニ依リ明示スルコト
- (ワ) 制動機ノ種類及裝置 手用、蒸氣、真空制動機等ノ
- (カ) 燃料櫃ノ容積 立方米ヲ以テ 及水槽容積 立方米ヲ以テ
- (ヨ) 牽引重量 一時間三十二分ノ速度ニテ十分ノ十勾配ヲ上ルトキ計算上牽引シ得ヘキ重ノ速度ニ依リ計算スルコト
- (タ) 特殊設計 圖面ヲ添附シ構造裝
- 二 客車及貨車 設計ノ異ル毎ニ設計
- (イ) 車種 客車、貨車ニ依リテハ有蓋、無蓋、貨物緩急車等ノ別ヲ記載スルコト
- (ロ) 輻數 客車ニ依リテハ有蓋、無蓋、貨物緩急車等ノ別ヲ記載スルコト

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

- (ハ) 自重 座席定員及起立定員ヲ
- (ニ) 定員 等級別ニ記載スルコト
- (ホ) 定員一人ニ對スル客室面積 等級ニ依リ區別シ平方
- (ヘ) 積載容積及荷重 郵便室、手荷物室等ヲ區別シ積載容積
- (ト) 主要寸法 平面、側面及端部ノ斷面ヲ示シ且主要ナル構造寸法ヲ記入シタル組立圖ヲ添附シ端部ノ斷面ハ車輪中心線ヨリ側部ニ於ケル
- 一 最大寸法 長ハ前後緩衝器間ノ距離、幅ハ車體中心線ヨリ側部ニ於ケル
- 一 車體內寸法 客車ニ在リテハ各客室、郵便室、手荷物室、車掌室ヲ貨車ニ在リテハ車掌室アルモノハ之ヲ區別シ長、幅及高ヲ記載スルコト
- 一 固定輪軸距及ボギー中心間ノ距離
- 一 軌條面ヨリ緩衝器及聯結機ノ中心迄ノ高 空車ノトキ
- 一 兩側緩衝器中心間ノ距離
- (チ) 臺框ノ構造 圖面ニ依リ明
- (リ) トラックノ構造 圖面ニ依リ明
- (ヌ) 車輪車軸ノ構造 車輪車軸圖、作圖上必要ナル寸法ヲ詳記シタル輪鐵ノ現尺斷面圖及車輪トノ關係ヲ明示セル斷面圖添附
- 一 車輪ノ直徑

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

- 一 車輪一對ノ輪鐵内側距離
- (ル) 擔彈機ノ構造及裝置 圖面ニ依リ明
示スルコト
- (ヲ) 緩衝器及聯結器ノ種類及構造 兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器、連環聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造ヲ圖面ニ依リ明
示スルコト
- (ワ) 制動機ノ種類及裝置 手用、壓搾空氣、車側制動機等
ノ別ヲ記載シ制動裝置圖添附
- (カ) 客車内點燈ノ種類及設備 電燈ニ在リテハ
電線接續圖添附
- (キ) 特殊設計 圖面ヲ添附シ構造裝
置ヲ説明スルコト
- 三 汽動車 機關車及客貨車ニ
準シ記載スルコト
- 四 電氣機關車及電車

- (イ) 第一號及第二號ニ掲クル事項
- (ロ) 電動機ノ構造 圖面 種類、筒數、出力、齒車ノ比 電動機及働輪ノ回轉數
ノ割合ヲ記載スルコト
- (ハ) 制御器ノ種類、筒數及裝置 圖面 種類及筒數
- (ニ) 聚電裝置ノ構造 圖面 種類及筒數
- (ホ) 車内電線接續 圖面ニ依リ明
示スルコト

シ其ノ理由及圖面ヲ具シ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ但シ左ニ掲クルモノハ其ノ理由ヲ具シ之ヲ
届出ツヘシ
一 認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル車輛ノ增加及改造
二 認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル客車及貨車ノ車種變更
三 客車内點燈ノ種類及設備ノ變更 電燈ニ在リテハ
電線接續圖添附
四 定員又ハ定員一人ニ對スル客室面積ノ變更
五 吊革又ハ網棚ノ設置、廢止又ハ變更及坐席、煖房其ノ他客車内設備ノ輕微ナル變更 必要
ニ應
シ圖面
添附

第二十二條 車輛ヲ製作、購入又ハ改造シタルトキハ第十號様式ニ準シ型式稱號ノ異ル毎ニ竣工
圖ヲ添附シ監督官廳ニ届出ツヘシ
第二十三條 運輸開始ノ認可申請書ニハ左ノ圖面及諸表ヲ添附スヘシ(昭和五年六月鐵道省令第
八號改正)

一 線路平面及縱斷面圖 第十一條ノ規定ニ準シ之ヲ作製シ線路實測行程ニ伸縮差アルト
キハ停車場、停留場及信號所ノ換算中心行程ヲ併記スルコト
二 電氣工事竣工圖表 第十一條ノ規定ニ準シ之ヲ作製シ線路實測行程ニ伸縮差アルト
キハ停車場、停留場及信號所ノ換算中心行程ヲ併記スルコト
三 地方鐵道法第十六條ニ規定スル工事竣工セサルトキハ運輸開始ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス但シ其
ノ工事ニ付所管行政廳ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第二十四條 運輸ヲ開始シタルトキハ即日電信、電話又ハ口頭ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ
第二十四條ノ二 軌道ヲ地方鐵道ニ變更ノ許可申請書ニハ其ノ理由並左ノ書類及圖面ヲ具シ地方
長官ヲ經由シ鐵道大臣及內務大臣ニ之ヲ提出スヘシ但シ內務大臣ニ提出スル申請書ニハ書類及
第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則 七〇七

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

圖面ヲ具備スルコトヲ要セス

- 一 工事施行ノ認可ヲ受ケサル區間ニ在リテハ第三條、第四條第三號、第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類及圖面
- 二 工事施行ノ認可ヲ受ケタル區間ニ在リテハ第三條、第十一條、第十二條、第十四條及第二十條ノ規定ニ依ル書類及圖面
- 2 軌道ノ特許又ハ工事施行ノ認可申請ニ際シ提出シタル書類又ハ圖面ニシテ前項ニ掲クル書類又ハ圖面ニ該當スルモノアルトキハ其ノ旨ヲ附記シ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得
- 第二十四條ノ三 專用鐵道ヲ地方鐵道ニ變更ノ許可申請書ニハ其ノ理由及運送營業上ノ收支概算書ヲ具シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ
- 2 前條第一項第二號、第二項及第七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十五條 假設工事ヲ施行セムトスルトキハ其ノ理由、工事設計書及圖面ヲ具シ使用期間ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 2 天災事變ノ際一時ノ用ニ供スル爲假設工事ヲ施行シタルトキハ其ノ使用期間ヲ定メ之ヲ届出ツヘシ
- 3 洪水氾濫地域ニ係ル線路及橋梁ニ關スル假設工事及流水斷面ヲ縮小スル橋梁ニ關スル假設工事ノ認可申請書及屆書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ
- 第二十六條 他ノ鐵道又ハ軌道ノ車輛ヲ運轉セムトスルトキハ該車輛ノ屬スル鐵道又ハ軌道及車輪一對ノ軌條面最大壓力ヲ記載シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 2 機關車ニ在リテハ前項ノ外型式稱號及番號ヲ附記スヘシ
- 第二十七條 株金全額拂込前ノ資本増加ノ認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ資本増加ヲ決議シタル株主總會ノ議事及決議ノ要領書 (株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ添本添附)

ヲ添附シ延長線路ノ工事施行ノ認可申請書又ハ改良工事ノ認可申請書ト同時ニ之ヲ提出スヘシ

第二十八條 後配株發行ノ認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ地方鐵道法第六條ノ三ノ規定ニ依リ株式申込證ニ記載スヘキ事項ヲ記載シタル書類及後配株發行ヲ決議シタル株主總會ノ議事及決議ノ要領書 責任社員ノ同意書ノ添本添附

ヲ添附シ延長線路ノ工事施行ノ認可申請書ト同時ニ之ヲ提出スヘシ (昭和四年十二月鐵道省令第三號本條改正)

2 後配株ノ期間ヲ伸長セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ後配株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 地方鐵道法第六條ノ三第三號ノ規定ニ依ル延長線ノ工事ノ大要ニ付テハ左ノ事項ヲ記載スヘシ (同上)

- 一 線路ノ延長及單線、複線等ノ別
- 二 軌間
- 三 動力
- 四 停車場及停留場ノ豫定位置
- 五 開業豫定期
- 六 建設費豫算額

第三十條 會社合併ノ認可申請書ニハ合併ノ事由及方法ヲ具シ合併契約書ノ添本ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第三十一條 工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

2 主任技術者ヲ置キタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添附シ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

3 主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ監督官廳ハ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條 鐵道ノ讓渡、貸借又ハ營業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ其ノ受託ノ許可申請書ハ連署ノ上左ノ書類ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ

一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書 株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ謄本添附

二 組合員又ハ社員ノ同意書ノ謄本

三 讓渡、貸借又ハ管理委託ニ關スル契約書ノ謄本

2 鐵道ノ讓渡許可申請書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十三條 車輛ノ讓渡、廢止又ハ貸渡ヲ爲シタルトキハ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ但シ二月以内ノ貸渡ハ此ノ限ニ在ラス(昭和四年十二月鐵道省令第三號改正)

第三十四條 旅客運賃ノ認可申請書ニハ料制ニ在リテハ對料運賃 第十二號樣式ニ依ル 區間制ニ在リテハ各區間ノ運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃ヲ記載シ各驛ノ實測換算中心料程表 第十三號樣式 營業料程表 第十四號樣式 ヲ添附スヘシ(昭和五年六月鐵道省令第八號改正)

第三十五條 荷物運賃ノ認可申請書ニハ手荷物、小荷物及大貨物ヲ區別シ料制ニ在リテハ對料運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃並荷物ノ品種及等級ヲ記載シ計算方法 計算法上生シタル厘以下ノ取捨、重量、容積ノ說明スルコトヲ附記スヘシ

2 大貨物ニ關シ別ニ營業料程ヲ制定セムトスルトキハ其ノ增加割合ヲ前項ノ申請書ニ記載シ計算

方法 割増ニ依リテ生シタルヲ附記スヘシ(同上)

第三十六條 旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ變更後ニ於ケル收支豫算書ヲ添附シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 前三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運賃ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ記載シ各驛間ノ旅客運賃表 第十五號樣式 及大貨物營業料程表 第十六號樣式 ヲ添附シ之ヲ届出ツヘシ(同上)

第三十八條 現ニ營業中ノ線路ニ於テ新設シタル停車場又ハ停留場ニ係ル旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ認可ヲ受ケタル方法ト同一方法ニ依リ制定シタルトキハ實測換算中心料程表、營業料程表、各驛間ノ旅客運賃表及大貨物營業料程表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ監督官廳ニ届出ツヘシ(同上)

2 前項ノ規定ハ停車場又ハ停留場ノ實測換算中心料程ニ異動ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ營業料程ニ變更ヲ生セサルトキハ營業料程表、各驛間ノ旅客運賃表及大貨物營業料程表ヲ添附ヲ要セス(同上)

第三十九條 運輸ニ關スル料金ノ認可申請書ニハ其ノ種類及金額ヲ記載スヘシ

2 運輸ニ關スル料金ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

3 前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル料金ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ記載シ之ヲ届出ツヘシ

第四十條 旅客列車及混合列車ノ運轉速度及度數ノ認可申請書ニハ發著時刻表 第十七號樣式 運行圖 第十八號樣式 及運轉速度表 第十九號樣式 ヲ添附スヘシ(昭和四年十二月鐵道省令第三號改正)

第四十一條 旅客列車及混合列車ノ運轉速度ヲ增加シ又ハ度數ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

ヲ具シ新舊對照運轉速度表、新舊對照運行圖表及變更發著時刻表ヲ添附シ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ(同上)

第四十二條 前二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運轉速度及度數ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ運轉ナク監督官廳ニ届出ツヘシ(同上)

第四十三條 旅客列車及混合列車ノ發著時刻ヲ變更シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ運行圖表及發著時刻表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ記載シ運轉ナク監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ(同上新設)

第四十四條 貨物列車ノ運轉速度、度數及發著時刻ヲ定メタルトキハ發著時刻表、運行圖表及運轉速度表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ監督官廳ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ(同上改正)

第四十五條 天災事變其ノ他已ム事ヲ得サル事由ニ因リ一時旅客列車及混合列車ノ運轉速度及度數ヲ變更シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ發著時刻表ヲ添附シ運轉ナク監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ(同上)

營業ノ休止又ハ廢止ノ許可申請書ハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

2 會社解散ノ決議認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ社員ノ同意書又ハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書 株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ添附シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第四十六條 第二十七條、第二十八條、第三十二條及前條ノ株主總會並後配株主總會ノ議事及決議ノ要領書ニハ左ノ事項(後配株主總會ニ在リテハ後配株主總會ノ議事及決議ノ要領書ニハ左ノ事項)ヲ附記スヘシ(同上)

二 株式ノ總數

株主ノ總數

三 出席株主ノ總數

四 出席株主ノ有スル株式ノ總數

第四十七條 列車ノ衝突、脱線及顛覆、機關車ノ汽缸破裂、十二時間以上列車運轉不能其ノ他ノ重大ナル事故ハ即時電信、電話又ハ口頭ヲ以テ報告スルノ外五日以内ニ第二十號様式ニ依リ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

2 前項以外ノ事故ハ一月分ヲ取纏メ翌月十五日限り第二十一號様式ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

第四十八條 他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ添本ヲ添附シ實施後一週間内ニ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

一 連帶驛名

二 旅客及荷物ノ取扱方法

三 賃金割賦方法

四 共用停車場、倉庫等ニ關スル使用料其ノ他ノ事項

五 線路及車輛ノ使用料並運轉料ニ關スル事項

六 運輸上ノ責任負擔方法

七 運輸開始ノ年月日

第四十九條 地方鐵道業者ハ每營業年度經過後二月内ニ營業報告書及統計報告書ヲ調製シ監督官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第五十條 地方鐵道業者ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備ヘ置クヘシ
第五十一條 地方鐵道會社ハ商法ニ依ル登記ヲ爲シタルトキ又ハ定款ヲ變更シタルトキハ監督官
廳ニ之ヲ届出ツヘシ

第五十二條 免許失効シタルトキハ遲滞ナク地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ返納スヘシ
第五十三條 地方鐵道法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル建設費ハ鐵道及其ノ附屬物件ヲ建設又ハ
取得スル爲必要ナル實費決算額トス(昭和四年十二月鐵道省令第三號本條新設)

2 一部買收ノ場合ニ於テハ買收及殘存區間ノ建設費ハ各區間ニ付之ヲ計算シ各區間ニ關聯スル建
設費ハ左ノ各號ニ依リ各區間ニ付之ヲ分割ス (昭和五年六月鐵道省令第八號改正)

一 線路測量費ハ各區間ノ料數ニ依ル百分率
二 車輛費、電車庫費、器械場費、發電所費及變電所費ハ各區間ノ最近營業年度末ヨリ遡リ三
年間、運輸開始後三年ヲ經過セサルモノニ在リテハ運輸開始ノ日ヨリ買收ノ日迄ニ於ケル車
輛走行料ニ依ル百分率

三 前二號以外ノモノニ付テハ各區間ニ於ケル建設費決算額(前二號ニ依リテ分割シタル金額
ヲ含ム)ノ割合ニ依ル百分率

第五十四條 地方鐵道法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル營業收入ハ客車收入、貨車收入其ノ他運
輸營業上ノ諸收入トシ營業費ハ鐵道及其ノ附屬物件ノ保存復舊ノ費用、諸稅其ノ他運輸營業上
ノ諸費用トス (昭和四年十二月鐵道省令第三號本條新設)

2 一部買收ノ場合ニ於テハ買收及殘存區間ノ營業收入及營業費ハ營業年度毎ニ各區間ニ付之ヲ計
算シ各區間ニ跨ル營業收入及營業費ハ左ノ各號ニ依リ營業年度毎ニ各區間ニ付之ヲ分割ス(昭
和五年六月鐵道省令第八號改正)

一 客車收入ハ買收及殘存區間ニ跨ル旅客ノ各區間ニ於ケル延人料數ニ依ル百分率
二 貨車收入ハ買收及殘存區間ニ跨ル貨物ノ各區間ニ於ケル延噸料數ニ依ル百分率

三 前二號ニ掲ケルモノ以外ノ收入ハ買收及殘存各區間ニ於ケル他ノ收入總額ニ依ル百分率
四 營業費ハ買收及殘存各區間ニ於ケル營業收入ニ依ル百分率

第五十五條 地方鐵道會計規程第十條乃至第十二條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依ル建設費、營業收
入及營業費ノ計算ニ付之ヲ準用ス (昭和四年十二月鐵道省令第三號新設)

第五十六條 地方鐵道法第三十五條ノ第二項及第三十六條ノ第二項ノ規定ニ依ル配當ノ認可
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當該期ノ貸借對照表及收支計算書ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ(同上)

一 概算交付金ノ處分案
二 債務アルトキハ其ノ金額、償還方法及期日並次ノ配當期迄ニ支拂フヘキ利子金額

附 則

1 本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス
2 私設鐵道法施行規則、輕便鐵道法施行規則、鐵道事故届出ニ關スル規程、鐵道臺帳規程及鐵道
統計規程ハ之ヲ廢止ス
3 舊令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本
令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附 則

1 本令ハ昭和四年十二月鐵道省令第三號
2 大正九年鐵道省令第二號ハ之ヲ廢止ス

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動 地方鐵道法施行規則 專用鐵道規程 七一六

附 則 (昭和五年六月三十日鐵道省令第八號)

- 1 本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 本令施行前監督官廳又ハ地方廳ニ於テ受付ケタル書類及圖面ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

◎專用鐵道規程 (大正八年八月十三日 閣令第一九號)

- 第一條 本規程ハ道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人力專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ之ヲ適用ス
 - 一 公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト直通スルモノ
 - 二 公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト連絡スルモノ但シ人力又ハ馬力ヲ動力トスルモノヲ除ク
 - 三 前各號ノ專用鐵道ト直通スルモノ
- 第二條 專用鐵道ヲ敷設セムトスル者ハ申請書ニ使用ノ目的ヲ記載シ鐵道ヲ敷設セムトスル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ
 - 一 線路實測圖
 - 二 工事方法書
 - 三 建設費豫算書
 - 四 他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡又ハ直通ニ關スル協定書ノ謄本
- 第三條 免許ニハ工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ附ス
- 2 前項ノ期限ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り其ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

- 第四條 工事ニ著手シタルトキハ一週間以内ニ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第五條 免許ヲ受ケタル者ハ運轉、信號及列車保安ニ關スル規定ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ
- 第六條 專用鐵道ノ運轉ノ管理ノ委託ヲ爲サムトスルトキハ申請書ニ運轉ノ管理ノ委託ニ關スル協定書ノ謄本ヲ添附シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 運輸ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第八條 專用鐵道ヲ讓渡セムトスルトキハ讓受人ト連署シ鐵道ヲ敷設スル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第九條 專用鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用ノ目的ニ屬セサル物品運送ノ用ニ供スルコトヲ得ス
- 第十條 監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ工事方法、運轉、信號又ハ列車保安方法ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第十一條 免許ヲ受ケスシテ專用鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 2 前項ノ規定ハ公共團體力專用鐵道ヲ敷設スル場合ニ之ヲ適用セス
- 第十二條 地方鐵道法第十一條、第十六條、第十七條、第十九條第一項第三號、同條第二項、第二十三條、第二十五條、第二十七條第一項、第三十七條、第四十條、地方鐵道法施行規則第三條、第十一條、第十二條、第十七條、第十八條、第二十條、第二十一條、第二十六條、第五十二條、地方鐵道建設規程第十九條、第二十一條、第三十條ノ規定ハ專用鐵道ニ之ヲ準用ス

第六類 軌道地方鐵道及自動車 專用鐵道規程

附則

- 1 本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 專用鐵道規則ハ之ヲ廢止ス
- 3 本令ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ニシテ舊規則ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 4 舊規則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

◎地方鐵道建設規程 (大正八年八月十三日) 改(昭和五年六月三十日)
 (閣令第一一號) 正(鐵道省令第一〇號)

第一章 總則

第一條 地方鐵道ノ建設ハ本規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ設計ヲ必要トスルモノニ在リテハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ本規程ニ依ラサルコトヲ得

第二條 監督官廳ハ鐵道ノ狀況ニ依リ本規程ニ依ラサル特別ノ設計ヲ命スルコトヲ得

第三條 列車ノ運轉ニ常用スル線路ヲ本線路ト謂ヒ其ノ他ノ線路ヲ側線ト謂フ
 旅客又ハ荷物ヲ取扱フ爲列車ヲ停止スル箇所ニシテ轉轍器ノ設備アルモノヲ停車場ト謂ヒ其ノ設備ナキモノヲ停留場ト謂フ

第二章 線路及建造物

第一節 軌間及軌條ノ高度
 第四條 軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ内側ヨリ内側迄ノ距離ニ依リ之ヲ測定ス

第五條 曲線ニ在リテハ左ノ區別ニ依リ軌間ニ相當ノ擴度ヲ附スヘシ但シ轉轍器ニ附帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 軌間一米〇六七及一米四三五ニシテ曲線ノ半徑六百米以下ノモノニ在リテハ二十五耗以内
 二 軌間七百六十二耗ニシテ曲線ノ半徑四百米以下ノモノニ在リテハ十六耗以内

第六條 直線ニ在リテハ兩軌條面ノ高ヲ均クスルコトヲ要ス但シ曲線ニ於ケル高度ヲ遞減スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

2 曲線ニ在リテハ轉轍器ニ附帶スル場合ヲ除クノ外外側軌條ニ相當ノ高度ヲ附シ曲線ニ接續スル直線又ハ緩和曲線ニ於テ之ヲ遞減スヘシ

第二節 建築定規

第七條 建築定規ハ第一號及第二號圖面ニ依ルヘシ但シ曲線ニ在リテハ軌間ノ擴度及外側軌條ノ高度ニ隨ヒ建築定規中心ノ偏倚傾斜ニ應シ相當之ヲ擴大スヘシ

第八條 燃料搭載所、給水所、轉車臺、計重臺、洗車所、電柱、信號柱等ニシテ停車場内ノ側線ニ係ルモノ並車庫ノ門路及内部ハ車輛定規外百五十耗迄建築定規内ニ入ルコトヲ得

2 電氣鐵道ノ第三軌條ハ建築定規内ニ入ルコトヲ得

第九條 轍叉ニ於テ軌條ト翼軌條又ハ護輪軌條トノ間隔ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ 三十八耗

二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ 三十三耗

2 前項以外ノ場合ニ於テハ軌條ト護輪軌條トノ間隔ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ 五十四耗

二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ 四十五耗

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

第十條 轉轍器取柄及轉轍標識等ノ軌條面上ニ突出スル各部分ハ車輛定規外側方ニ於テ七十六耗迄建築定規内ニ入ルコトヲ得但シ軌條面上左ノ高ヲ超ユルコトヲ得ス

一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ 千八百三十耗
二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ 千五百二十耗

第十一條 乘降場及貨物積卸場ノ擁壁面ノ突出點ト軌道中心トノ距離ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ 一米三七二
二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ 一米一一八

第十二條 竝行セル兩軌道中心間ノ距離ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ三米三五以上、軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ二米七四以上トス

第三節 曲線及勾配

第十三條 本線路ノ曲線半徑ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百六十米以上、軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ百米以上トス

2 本線路ニ於ケル轉轍器ニ附帶スル曲線半徑ハ特別ノ場合ヲ除クノ外軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百米以上、軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ四十米以上トス

第十四條 本線路ニ於ケル反方向ノ曲線間ニハ相當ノ長ヲ有スル直線ヲ挿入スヘシ

第十五條 本線路ノ勾配ハ千分ノ三十三ヨリ急ナルコトヲ得ス
2 停車場及停留場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ千分ノ五ヨリ急ナルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ千分ノ十二至ルコトヲ得

第四節 施行基面

第十六條 軌道中心ヨリ施工基面線端迄ノ距離ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ一米八三以上、軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ一米五二以上トス

第五節 軌道及橋梁

第十七條 枕木下面ヨリ施工基面迄ノ道床ノ厚ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百耗以上、軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ七十六耗以上トス

第十八條 軌道及橋梁ノ各部ハ動荷重ニ耐フル負擔力ヲ有スルコトヲ要ス

第十九條 交通頻繁ナル道路又ハ通船頻繁ナル河川ニ架設スル橋梁ハ車輛ノ幅及其ノ兩側各百五十耗以上軌道面下ヲ蓋フコトヲ要ス

第六節 待避所

第二十條 隧道、橋梁其ノ他列車ヲ避クルニ困難ナル場所ニハ九十米以内ノ距離ニ待避所ヲ設クルコトヲ要ス

第七節 踏切

第二十一條 踏切道ト線路トノ交角ハ三十度ヨリ小ナルコトヲ得ス

2 交通頻繁ナル踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標ヲ設クルコトヲ要ス

3 交通頻繁ニシテ展望不良ナル踏切道ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スヘシ

第八節 常置信號機

第二十二條 停車場外ニ於テ線路カ本線路ヨリ分岐スル箇所ニハ左ニ掲クル場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設ケ之ニ關聯スル轉轍器ト相互聯動セシムルコトヲ要ス

一 一保安區間内ニ在ル分岐點ノ轉轍器ニシテ之ニ通票鎖錠器ヲ裝置シタルトキ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

二 閉塞式ヲ施行スル單線ニ分ケル分岐點ノ轉轍器ニシテ之ニ轉轍標識ヲ設ケ轉轍器ヲ鎖錠シタルトキ

2 停車場又ハ信號所ニ於ケル本線路ノ對向轉轍器ニハ鎖錠其ノ他ノ安全裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ列車對向通過ノ際轉轍器ノ取柄ヲ支持スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 左ノ箇所ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ閉塞信號機ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 單線ニ於テ列車ノ行違ヲ爲ス停車場又ハ信號所

二 複線ニ於ケル閉塞區間ノ境界點ニ在ル停車場、停留場又ハ信號所

第二十四條 場內信號機防護區域外四百米以上ノ距離ヨリ之ヲ展望スルコト能ハサルトキハ其ノ前方ニ遠方信號機ヲ設クルコトヲ要ス

第九節 平面交叉

第二十五條 本線路ハ相當ノ保安設備アル停車場又ハ信號所外ニ於テ鐵道又ハ軌道ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ス但シ鐵道又ハ軌道カ人力又ハ馬力ヲ動力トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十節 諸標

第二十六條 本線路ニハ左ノ諸標ヲ設クルコトヲ要ス

一 每軒ノ距離ヲ示ス軒程標

二 千分ノ十七ヨリ急ナル勾配ノ始終點ニハ其ノ勾配ヲ示ス勾配標

第二十七條 本線路又ハ側線カ本線路ニ接續スル箇所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標ヲ設クルコトヲ要ス

第十一節 車輛ノ逸出防備

第二十八條 車輛カ本線路ニ逸出スル虞アル線路ニハ相當ノ防止設備ヲ爲スヘシ

第二十九條 線路ノ終端ニハ車止ヲ設クルコトヲ要ス

第十二節 線路ノ防備

第三十條 人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏入ル虞アル場所及保安上必要ナル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠ヲ設クルコトヲ要ス

第十三節 停車場其ノ他ノ設備

第三十一條 停車場及信號所ニハ電氣通信ノ設備ヲ爲スヘシ但シ驛員ヲ常置セサル停車場ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 旅客ノ乗降多キ停車場ニハ待合所其ノ他相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十三條 機關車ヲ收容スル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十四條 車輛ヲ修理スル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ但シ其ノ修理ヲ他ニ委託スルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 發電所及變電所ニハ相當ノ豫備機械ヲ備フルコトヲ要ス

第三章 車輛

第一節 車輛定規

第三十六條 車輛定規ハ車輛ヲ除クノ外第三號及第四號圖面ニ依ルヘシ

第三十七條 外方ニ開キタル車輛ノ扉ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得但シ建築定規ノ範圍内ニ於テ七十五耗以上ノ遊間ヲ存スルコトヲ要ス

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

第三十八條 排障器、制輪子、撒砂管其ノ他ノモノニシテ輪鐵ノ幅外ニ出テサル部分及聯結器ノ下端ハ軌條面上二十五耗ノ高迄下ルコトヲ得

第三十九條 彈機ノ作用ニ因リ上下動ヲ爲ササル部分ハ車輛定規ノ中心線ヨリ測リ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ左右各一米〇二、軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ左右各八百四十耗ノ幅内ニ於テ軌條面上五十耗ノ高迄下ルコトヲ得

第四十條 排雪器ハ其ノ使用ニ際シ轉轍器、護輪軌條等アル箇所ヲ除クノ外之ヲ軌條頭ニ接觸セシムルコトヲ得

第四十一條 電氣機關車及電車ノ聚電裝置ノ可動部分ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得

第四十二條 前六條ノ規定ハ輪鐵其ノ他ノ磨損又ハ彈機ノ變形アリタル場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第四十三條 車輛ノ固定輪軸距ハ線路ノ最小曲線半徑ニ應シテ之ヲ定ムヘシ但シ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ四米五七、軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ三米〇五ヨリ大ナルコトヲ得ス

第三節 車輪

第四十四條 車輪ノ直徑ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ
一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百十四耗以上百五十二耗以下
二 七百六十二耗以上
三 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ四百五十七耗以上

第四十五條 輪鐵ノ幅ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ
一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百十四耗以上百五十二耗以下
二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ百二十耗以上百二十七耗以下

第四十六條 車輪一對ノ輪鐵内側距離ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ
一 軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ九百九十耗以上九百九十六耗以下
二 軌間一米四三五ノモノニ在リテハ一米三五九以上一米三六五以下
三 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ六百九十五耗以上七百二耗以下

2 輪緣ナキ車輪一對ノ輪鐵内側距離ハ之ヲ左ノ寸法迄縮小スルコトヲ得
一 軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ九百七十八耗
二 軌間一米四三五ノモノニ在リテハ一米三四六
三 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ六百八十九耗

第四十七條 輪緣ノ高ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ
一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ二十五耗以上三十六耗以下
二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ二十二耗以上三十耗以下
2 輪緣ノ厚ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ
一 軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ十九耗以上
二 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ十六耗以上

第四十八條 車輪一對ノ中心線ヨリ輪緣外面迄ノ距離ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ
一 軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ五百十七耗以上五百二十七耗以下

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

第六類 軌道地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

- 二 軌間一米四三五ノモノニ在リテハ七百二耗以上七百十一耗以下
 - 三 軌間七百六十二耗ノモノニ在リテハ三百六十七耗以上三百七十五耗以下
- 第四十九條 前二條ノ規定ハ輪鐵ノ磨損シタル場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第四節 緩衝器及聯結器

- 第五十條 車輪ニハ彈性ノ緩衝器及聯結器ヲ備フルコトヲ要ス
- 2 緩衝器及連結器ノ中心ハ軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ軌條面上空車ノトキ九百十四耗ヲ超ユルコトヲ得ス滿載車ノトキ八百十二耗ヲ下ルコトヲ得ス
 - 3 兩側緩衝器中心間ノ距離ハ軌間一米〇六七ノモノニ在リテハ一米二一九トス
 - 4 機關車ニハ兩端ニ螺旋聯結器ヲ、其ノ他ノ車輛ニハ一端ニ螺旋聯結器他端ニ連環聯結器ヲ備フルコトヲ要ス

5 第二項乃至第四項ノ規定ハ中央緩衝聯結器ヲ備フル車輛ニ之ヲ適用セス

第五節 機關車ノ裝置

- 第五十一條 機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 一 汽罐ニハ獨立ニ其ノ用ヲ爲ス二箇以上ノ給水器ヲ備フルコト
 - 二 汽罐内部ノ水位ヲ獨立ニ認知シ得ル二箇以上ノ驗水器ヲ備ヘ其ノ一ハ機關手ノ位置ヨリ水位ヲ直ニ認メ得ルモノタルコト
 - 三 二箇以上ノ安全弁ヲ備フルコト

火室ノ頂蓋ニ可熔栓ヲ備フルコト

- 五 驗壓器ヲ備ヘ其ノ指針盤ニ實用最高汽壓ヲ表示スルコト
- 六 汽罐ノ火室ニ在ル繫桿ニハ其ノ頂上ニ在ルモノヲ除クノ外總テ其ノ毀損ヲ外部ヨリ發見シ得ヘキ設備ヲ爲スコト
- 七 汽笛ヲ備フルコト
- 八 前後ニ排障器ヲ備フルコト
- 九 煙櫃及灰箱ニハ火粉止ノ設備ヲ爲スコト
- 十 他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ働輪及炭水車ノ車輪ニ働クヘキ手用制動機ヲ備フルコト

第六節 客車及緩急車

- 第五十二條 客車内ノ面積ハ旅客定員一人ニ付平均〇・二八平方米ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立乗客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ在リテハ之ヲ〇・二三平方米迄縮小スルコトヲ得
- 第五十三條 客車内ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ
- 第五十四條 客車ノ側面ニ在ル扉ニハ二箇ノ閉鎖器ヲ備フルコトヲ要ス
- 第五十五條 緩急車ニハ他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコトヲ要ス
- 第七節 自動車、電氣機關車及電車
- 第五十六條 自動車ニハ機關車及客車ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第五十七條 電氣機關車及電車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 一 特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御器ヲ設クルコト

第六類 軌道 地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

第六類 軌道 地方鐵道及自動車 地方鐵道建設規程

- 二 自働遮斷器ヲ設クルコト
 - 三 架空線式ノ場合ニ於テハ避雷器ヲ設クルコト
 - 四 警鐘又ハ警笛ヲ備フルコト
 - 五 前後ニ排障器ヲ備フルコト
 - 六 他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコト
- 第五十八條 自動車及電車ニハ乗務員間ノ合圖器ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

- 1 本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 本令ニ依リ許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ舊規程ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 3 舊規程ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

(圖面略)

附 則

(昭和五年六月三十日 鐵道省令第一〇號)

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

自動車交通事業法

(昭和六年四月二日 法律第五二號)

第一章 自動車運輸事業

- 第一條 本法ニ於テ自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客又ハ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ
- 第二條 自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ニ依ルベシ
- 第三條 主務大臣ハ命令ヲ以テ自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スベキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得
- 第四條 自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ
- 2 主務大臣ハ前項ノ免許ヲ爲スニ當リ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ有効期間ヲ指定スルコトヲ得
- 第五條 主務大臣ハ自動車運輸事業者ガ免許ノ有効期間滿了後仍引續キ其ノ事業ヲ經營セシムルコトヲ申請シタルトキハ當該路線ニ依ル自動車運輸事業ノ不必要其ノ他特別ノ事由ナキ限り期間更新ノ免許ヲ爲スベシ
- 第六條 自動車運輸事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ運輸

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法

開始ノ認可ヲ申請スベシ

2 第十七條第一項ノ専用自動車道ヲ開設シテ自動車運輸事業ヲ經營スル場合ニ在リテハ工事方法ヲ定メ前項ノ認可申請前主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

3 天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前二項ノ期間内ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第七條 自動車運輸事業者事業計畫又ハ専用自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條 自動車運輸事業ノ自動車ハ命令ノ定ムル所ニ依リ登録ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 自動車運輸事業ノ運輸、設備及會計ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ自動車運輸事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 運賃其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ専用自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト
二 路線ヲ延長又ハ變更セシムルコト但シ専用自動車道ノ延長及變更ハ此ノ限ニ在ラズ

三 他ノ運送事業者ト連絡運輸ヲ爲サシムルコト
四 全部又ハ一部ノ路線ヲ共通ニスル數人ノ自動車運輸事業者アル場合ニ共同經營ヲ爲サシムルコト

五 旅客又ハ物品ノ運送ニ關スル損害ニ付保險ニ付セシムルコト
六 前各號ノ外事業ノ改善ヲ爲サシムルコト

2 前項第三號及第四號ノ場合ニ於テ其ノ實施方法又ハ各事業者ノ收得シ若ハ負擔スベキ金額ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

2 前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

3 前條第二項ノ規定ハ第一項ノ條件ニ於テ他ノ運送事業者ヨリ事業ノ讓渡又ハ共同經營、會社ノ合併等ヲ求メタルトキハ之ニ應ズベキコトヲ命ジタル場合ニ於ケル實施方法及收得又ハ負擔金額ニ之ヲ準用ス

第十二條 自動車運輸事業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第十三條 自動車運輸事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

2 會社ノ合併ニ因ル自動車運輸事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

3 自動車運輸事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

4 自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車運輸事業經營ノ免許ノ全部若ハ一部ヲ

- 取消シ又ハ事業ノ全部若ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得
 - 一 法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ
 - 二 法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ
 - 三 許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ
 - 四 事業ノ經營不確實又ハ資産状態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ
 - 五 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ
 - 六 道路、自動車道又ハ通路ノ狀況ガ自動車ノ運行ニ適セザルニ至リタルトキ
- 第十五條** 左ノ場合ニ於テハ自動車運輸事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ
- 一 運輸開始ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ
 - 二 運輸開始ノ認可ナキトキ
 - 三 事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ運輸開始ノ認可申請期間内(路線ノ全部又ハ一部ニ付専用自動車道ヲ開設スル場合ニ在リテハ工事施行ノ認可申請期間内)ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ
 - 四 専用自動車道ニ付工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ
 - 五 専用自動車道ニ付工事施行ノ認可ナキトキ
 - 六 事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

七 事業ヲ營ム會社解散シタルトキ
 第十六條 自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 自動車道及自動車道事業

第十七條 本法ニ於テ自動車道トハ専ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル道路(一般自動車道)及自動車運輸事業者ガ其ノ事業用自動車ノ専用ニ供スル通路(専用自動車道)ヲ謂フ

2 本法ニ於テ自動車道事業トハ一般自動車道ヲ開設シ有償又ハ無償ニテ之ヲ専ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル事業ヲ謂フ

第十八條 自動車道事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受タベシ

第十九條 自動車道事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

2 天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二十條 自動車道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ一般自動車道ノ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ

2 前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

第二十一條 自動車道事業者事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 自動車道ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

2 前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サントスルトキハ已ムヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ其ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

3 第一項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ニ因リテ生ジタル損害ハ立入又ハ使用ノ後遲滞ナク事業者ニ於テ之ヲ補償スベシ

4 前項ノ補償ニ付協議調ハザルトキハ地方長官之ヲ裁定ス

5 前項ノ規定ニ依ル裁定中補償金額ニ不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條 一般自動車道ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ供用ヲ開始スルコトヲ得ズ

第二十四條 一般自動車道ノ構造、維持、修繕若ハ使用又ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ自動車道事業者ニ對シ左ニ對シタル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト

二 一般自動車道又ハ其ノ附屬物件ノ改善ヲ爲サシムルコト

第二十六條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

2 前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第二十七條 自動車道事業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ニ屬スル一般自動車道ノ全部又ハ一部ノ供用ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第二十八條 自動車道事業者ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

2 會社ノ合併ニ因ル自動車道事業者ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

3 自動車道事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

4 自動車道事業者ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車道事業者經營ノ免許ノ全部又ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部又ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一 法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法

三 主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ヲ竣功セズ其ノ他許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ

四 事業ノ經營不確實又ハ資産状態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認めタルトキ

五 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ自動車道事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

二 工事施行ノ認可ナキトキ

三 事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ

四 一般自動車道ノ供用ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

五 事業ヲ營ム會社解散シタルトキ

第三十一條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ガ自動車道ニ接續シ若ハ接近シ又ハ之ヲ横斷シテ一般ノ道路、自動車道、橋梁、河川、運河、溝渠、鐵道、軌道、索道等ヲ造設セントスルトキハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

2 前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認めルトキハ主務大臣ハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ニ對シ設備ノ共用又ハ變更ヲ命ズルコトヲ得

3 前二項ノ場合ニ於テ其ノ實施方法及費用ノ負擔ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ

關係主務大臣之ヲ裁定ス自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ノ受ケタル損害ノ補償ニ付亦同ジ

4 第二十二條第五項ノ規定ハ前項ノ補償金額ニ之ヲ準用ス

第三十二條 一般自動車道以外ノ自動車ノ通行スル道路ヲ開設シテ使用料金を徴收スル場合ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 共通規定

第三十三條 同一ノ一般自動車道ニ依ル自動車道事業及自動車運輸事業ノ兼營ノ場合ニ於ケル免許、許可及認可ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 主務大臣又ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム、以下同ジ)ハ必要アリト認めルトキハ自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ヲシテ事業上ノ報告ヲ爲サシメ、書類ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ事業ノ狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

2 監本員ハ自動車運輸事業者若ハ自動車道事業者又ハ其ノ代表者若ハ其ノ他ノ從業者ニ説明ヲ求メ帳簿、書類及圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第三十五條 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第三十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ地方長官ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法

七三七

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法

第三十七條

國ニ於テ經營スル自動車運輸事業及自動車道事業ニ付テハ第一條乃至第五十四條乃至第五十七條ノ規定ヲ除ク、第十七條、第二十二條、第二十四條及第二國ニ於テ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營セントスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スベシ

第三十八條

國ニ於テ自動車運輸事業ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル自動車運輸事業者ガ其ノ區間ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキ又ハ著シク收益ヲ減少スルニ至リタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業者ノ受ケタル損失ヲ補償スルコトヲ得殘存路線ノミニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキ亦同ジ

第三十九條

自動車交通事業財團ハ左ニ掲グルモノニシテ同一自動車運輸事業者又ハ爲自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ全部又ハ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得

第四十條

自動車運輸事業及自動車道事業ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外鐵道抵當法ヲ準用ス但シ同法第一章及第三章中登錄トアルハ登記、第四十六條、第六十八條及第六十九條中監督官廳トアルハ登記所、第八十條乃至第八十二條、第八十八條及第九十二條中監督官廳トアルハ裁判所トス

第四十一條

同一自動車道事業者ニ屬シ且其ノ事業ニ關スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一

自動車道ノ敷地及其ノ上ニ存スル工作物並ニ之ニ屬スル器具機械

二

發著場、駐車場其ノ他自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地及其ノ上ニ存スル工作物並ニ之ニ屬スル器具機械

三

自動車庫、停留所、貨物庫、給油所、附屬工場、事務所、事務員駐在所其ノ他事業ノ爲必要ナル建物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械

四

通信又ハ信號ニ要スル工作物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械

五

前四號ニ掲グル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權及第三者ニ對抗シ得ベキ賃借權並ニ前四號ニ掲グル土地ノ爲ニ存スル地役權

六

自動車運輸事業ノ爲登錄ヲ受ケタル自動車及其ノ附屬品

七

事業經營ノ爲必要ナル貯藏物品及器具機械

第四十條

前條第一號乃至第三號ニ掲グル不動産ノ何レモガ存セザルトキハ自動車運輸事業ノ爲ニ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得ズ

第四十一條

自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ハ之ノミニ依リテ擔保セラルル債務ノ額ガ三萬圓以上ナラザルトキハ之ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六類

軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法

テハ獨立ノ一般自動車道ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 同一事業者ガ自動車運輸事業ト自動車道事業トヲ兼營スル場合ニ於テハ兩事業ニ關スルモノヲ合シテ一個ノ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得但シ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ何レカ一方ニ付自動車交通事業財團ノ設定アリタル後ハ此ノ限ニ在ラズ

2 前項ノ事業者ガ各事業ニ付各別ニ自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニハ一般自動車道ノ敷地其ノ他專ラ自動車道事業ニ關スルモノハ自動車運輸事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ屬スルコトナシ

第四十三條 自動車交通事業財團ノ設定ハ自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

2 自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十九條ニ規定スルモノハ當然自動車交通事業財團ニ屬ス但シ第三者ニ對抗シ得ベキ他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

3 自動車交通事業財團ノ設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦前項ニ同ジ
第四十四條 自動車交通事業財團ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權及抵當權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式会社ニ讓渡スハ此ノ限ニ在ラズ
2 自動車交通事業財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、假差

押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ讓渡シ又ハ貸付タルハ此ノ限ニ在ラズ
3 前項但書ノ規定ニ依リ自動車交通事業財團ニ屬スルモノヲ讓渡シタルトキハ抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス

第四十五條 自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法ノ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第四十六條 自動車交通事業財團ノ登記ニ付テハ其ノ財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

2 自動車交通事業財團ノ所有者タル會社ガ本店ヲ一登記所ノ管轄地ヨリ他ノ登記所ノ管轄地ニ移シタル場合ニ於ケル登記手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

3 左ノ場合ニ於テハ登記所ハ直ニ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登記シタルトキ

二 自動車交通事業財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

第四十七條 自動車交通事業財團ニ關シテハ工場抵當法第十條、第十二條、第十八條乃至第二十條、第二十一條乃至第四十四條、第四十七條及第四十八條ノ規定ヲ準用ス
2 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外自動車交通事業財團ノ登記ニ關シテハ不動産登記法ヲ準用ス

3 登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲グル事項ノ外左ノ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法

事項ヲ記載スベシ

一 自動車交通事業財團ノ設定セラルル事業ノ表示

二 自動車運輸事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル路線ノ表示

三 自動車道事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ之ニ屬スル一般自動車道ノ表示

四 免許ニ有効期間ノ指定アルトキハ其ノ期間

五 免許ニ條件ガ附セラレタルトキハ其ノ條件

第四十八條 第四十二條第一項ノ規定ニ依リテ自動車交通事業財團ヲ設定シタル場合

ニ於テ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ何レカニ付事業經營ノ免許ノ失效又ハ取消アリタルトキハ抵當權者ハ一事業ニ付自動車交通事業財團ノ設定セラレタル場合

ニ準ジ財團ノ全部ニ對シ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

第四十九條 自動車交通事業財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ニ付テハ執行シ得ベキ一定ノ債務名義ヲ要セズ

2 強制管理ノ開始ハ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ニ對スル主務大臣ノ監督ヲ妨グ

3 強制管理ノ管理人ノ任免ニ付テハ裁判所ハ主務大臣ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

4 強制管理終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

第五章 罰則

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 免許ヲ受ケズシテ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營シタルトキ

二 認可ヲ受ケズシテ一般自動車道ノ供用ヲ開始シタルトキ

第五十一條 免許ヲ受ケタル者ノ名義ヲ利用シテ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス名義ヲ利用セシメタル者亦同ジ

第五十二條 自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五十條ニ規定スル場合ヲ除クノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スヘキ事項ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 免許ノ許可又ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

三 本法ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

四 第八條ノ規定ニ依ル登録ヲ受ケザル自動車ヲ自動車運輸事業ノ用ニ供シタルトキ

五 正當ノ事由ナクシテ一般自動車道ノ使用ヲ拒ミタルトキ

六 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ届出又ハ報告ヲ爲スベキ事項ニ付虚偽ノ届出又ハ報告ヲ爲シタルトキ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法

七 監査員ノ監査ヲ妨ゲタルトキ

第五十三條 自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ガ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

2 自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

3 會社ノ代表者其ノ他ノ從業者會社ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ會社ニ適用ス

第五十四條 自動車道若ハ其ノ標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ自動車道ニ於ケル自動車ノ往來ノ危険ヲ生ゼシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

2 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條 人ノ現在スル自動車運輸事業ノ自動車ヲ顛覆シ又ハ破壊シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

2 前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷ニ致シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

3 第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

附 則

第五十六條 第五十四條ノ罪ヲ犯シ因テ自動車ノ顛覆又ハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同ジ

第五十七條 過失ニ因リ第五十四條第一項又ハ第五十五條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ業務ニ從事スル者犯シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

1 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和八年九月二十二日勅令第二五〇號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

2 本法施行前自動車運輸事業又ハ自動車道事業ニ該當スル事業ニ付地方長官ノ爲シタル事業經營ノ免許又ハ許可ハ之ヲ本法ニ依ル自動車運輸事業又ハ自動車道事業經營ノ免許ト看做ス

3 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ前項ノ自動車運輸事業ニ付新ニ免許ノ有效期間、運輸開始ノ認可申請期間又ハ事業ノ休止期間ヲ指定スルコトヲ得

4 登録税法第三條ノ六中「又ハ漁業財團登記簿」ヲ「漁業財團登記簿又ハ自動車交通事業財團登記簿」ニ改ム

5 印紙税法第四條第一項第一號中「軌道財團」ノ下ニ「、自動車交通事業財團」ヲ加フ

自動車交通事業法施行令 (昭和八年八月一日 勅令第二一九號)

第一條 自動車交通事業法中主務大臣トアルハ自動車運輸事業ニ關シテハ鐵道大臣、
自動車道事業ニ關シテハ内務大臣及鐵道大臣トス

第二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ鐵道大臣ハ内務大臣ニ協議スヘシ

- 一 自動車交通事業法第四條ノ規定ニ依リ免許ヲ爲サントスルトキ
- 二 公共團體ニ對シ自動車交通事業法第十條、第十一條第三項、第十三條第一項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲サントスルトキ
- 三 自動車交通事業法第三十七條第二項ノ規定ニ依リ爲サレタル自動車運輸事業經營ノ協議ニ應セントスルトキ

附 則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和八年十月一日)

◎自動車交通事業法施行規則 (昭和八年八月五日 鐵道内務省令)

第一章 自動車運輸事業

第一條 自動車運輸事業經營ノ免許申請書ニハ事業種別(旅客運送又ハ物品運送ノ別)ヲ記載シ

- 左ノ書類ヲ添付スベシ
 - 一 事業計畫書
 - 二 興業費概算書 (總額、内譯及出資方法ヲ明示スルコト)
 - 三 運輸收支概算書
 - 四 申請者公共團體ニシテ自動車運輸事業ノ經營ニ付議會ノ決議ヲ要スルトキハ其ノ決議要領書、既設會社ナルトキハ自動車運輸事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本並ニ最近ノ貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本、組合ナルトキハ組合契約書ノ謄本
 - 2 免許申請書ニハ申請者(本籍、住所及營業所ヲ附記スルコト)又ハ其ノ代理人記名捺印スベシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ添付スベシ
 - 3 前二項ノ規定ニ依リ免許申請書ヲ提出スルトキハ同時ニ其ノ副本ヲ内務大臣ニ提出スベシ
- 第二條 事業計畫書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 - 一 路線 (路線圖ヲ添付スルコト)
 - イ 起點終點ノ地名地番(通稱アルトキハ之ヲ附記スルコト)
 - ロ 延長

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

ハ 主ナル經過地
ニ 專用自動車道ヲ開設スルモノニ在リテハ其ノ區間

二 車輛

イ 輛數 常用車ト豫備車トニ分チ且旅客定員別(立席及座席別)又ハ物品積載定量別ニ記載スルコト

ロ 車輛ノ寸法及重量 長、幅及高ノ最大寸法並ニ車輛重量ヲ記載スルコト

ハ 車臺 車名、形式及年式ヲ記載シ且同一ノ車名、形式及年式ニ二以上ノ設計アルトキハ其ノ區別ヲ明示スルコト

特別設計ノモノヲ使用スルトキハ其ノ概要ヲ記載スルコト

ニ 車體 製造者ノ定ムル標準形ヲ使用スルトキハ其ノ形式ヲ記載シ其ノ他ノモノヲ使用スルトキハ左ノ事項ヲ明示スルコト

一 旅客自動車ニ在リテハ座席ノ配列、幅員、凭レ前方ノ餘地、通路ノ幅員、長及後車軸後方ノ車體張出(平面圖ニ依リ明示スルコト)並ニ箱型幌型等ノ別、客室高及車體重量

一 貨物自動車ニ在リテハ有蓋無蓋等ノ別及車體重量

免許申請ノ際「ハ」及「ニ」ニ掲グル事項ヲ記載スルコト能ハザルトキハ之ガ記載ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ免許迄ニ之ヲ追申セザルトキハ其ノ事項ニ付別ニ認可ヲ申請スベシ

三 運轉系統(系統複雜ナルトキハ系統圖ヲ添附スルコト)並ニ各系統ニ於ケル料程、配置車輛數、始發及終著ノ時刻、運行回數、最小運轉時分及運轉間隔ノ大要

四 運賃及運輸ニ關スル料金

イ 運賃(均一制ニ在リテハ均一運賃、區間制ニ在リテハ各區間ノ運賃及料程、料制ニ在リテハ對料運賃及各停留所間ノ料程、物品ノ種類ニ依リテ其ノ運賃ニ區別アルトキハ其ノ別等)

ロ 運輸ニ關スル料金(保管料金、集配料金等)

五 物品ノ集配ヲ爲ストキハ其ノ方法及區域ノ大要

六 一年ヲ通ジ繼續シテ運輸ヲ爲スモノニ非ザルトキハ運輸ヲ爲ス期間

七 主ナル事務所ノ設置地

2 路線延長ノ免許ヲ申請スル場合ニ於テ既免許路線ノ事業計畫中前項第二號乃至第四號及第六號ニ該當スル事項ニ變更ヲ生ズルトキハ其ノ關係ヲ明示シ該變更ニ關スル手續ヲ省略スルコトヲ得

3 自動車運輸事業基準規程ニ適合セザル事業計畫ヲ定メタルトキハ其ノ事由ヲ詳記スベシ

第三條 前條ノ路線圖ハ縮尺五萬分ノ一以上ノ平面圖トシ左ノ事項ヲ記載シ縮尺方位ヲ示スベシ

一 路線

二 停留所ノ位置、名稱及特ニ待避所ヲ設ケルトキハ其ノ位置

三 車庫ノ位置(構造ノ大要ヲ示ス圖面ヲ添附スルコト)

四 一般ノ道路(種類ヲ明示スルコト)、自動車道及一般通行ノ用ニ供スル通路ノ別並ニ其ノ種別毎ノ料程及有效幅員、往路及復路ノ別アルトキハ其ノ區間及方向

五 沿線ニ於ケル名所、舊蹟等

第四條 地方長官免許申請書ヲ受附ケタルトキハ一般ノ道路及一般通行ノ用ニ供スル通路ノ管理

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

者ニ對シ答申ノ期限ヲ指定シテ其ノ管理上ノ意見ヲ徵スベシ
第五條 地方長官ハ免許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査書ヲ添ヘ免許ノ許否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ進達スベシ

一 申請者ノ資産及信用程度

二 事業ノ成否及效用

三 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ノ適否（管理者ノ意見書ノ寫ヲ添附シ期限内ニ答申ナキトキハ其ノ旨ヲ記載スルコト）

四 自動車運輸事業、自動車道事業、鐵道、軌道、索道等（未開業ノモノヲ含ム）ニ及ボス影響

五 附近ニ於ケル自動車運輸事業、自動車道事業、鐵道、軌道、索道等ノ出願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者、申請書ノ受附年月日等

六 其ノ他必要ト認ムル事項

2 地方長官第一條第三項ノ規定ニ依リ内務大臣ニ提出スベキ免許申請書ノ副本ヲ受附ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ル書類ノ寫ヲ添ヘ内務大臣ニ之ヲ提出スベシ

第六條 事業計畫ガ自動車運輸事業基準規程ニ適合セザルトキハ免許ニ五年以内ノ有効期間ヲ指定ス

第七條 臨時ノ必要ニ因リ三月以内ノ期間ヲ限リ自動車運輸事業ヲ經營セントスル場合ニ於ケル免許申請書ニハ第二條第一項第一號乃至第四號ノ規定ニ準ジ作成シタル事業計畫書ノミヲ添附スベシ

第八條 事業計畫變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

2 專用自動車道ノ工事方法變更ノ認可ヲ受附ケタル場合ニ於テ事業計畫ノ變更ヲ伴フモノナルトキハ該認可ヲ以テ事業計畫變更ノ認可アリタルモノト看做ス

3 第四條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル路線變更ノ認可申請書ヲ受附ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 事業計畫ノ變更ニシテ左ニ掲グルモノハ其ノ事由及實施ノ年月日ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ届出ツベシ

一 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ノ工事等ニ因リ停留所ノ位置ヲ一時變更スルトキ

二 待避所ヲ新設シ、廢止シ又ハ位置ヲ變更スルトキ

三 往路及復路ノ別アル場合ニ於テ其ノ區間及方向ヲ變更スルトキ

四 物品集配ノ方法又ハ區域ヲ變更スルトキ

五 主タル事務所ノ設置地ヲ變更スルトキ

第十條 自動車運輸事業者ハ祭典、緣日、記念日等ノ場合ニ於テ片道運賃及往復運賃ニ限り認可ヲ受ケズシテ之ヲ五割以内割引スルコトヲ得但シ割引運賃ニ依ル乗車期間ガ一回二週間、一年ヲ通ジテ六十日ヲ超エザル場合ニ限ル

2 前項ノ規定ニ依ル運賃ノ割引ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ届出ツベシ

第十一條 專用自動車道ノ工事施行ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一 工事方法書

二 工事費豫算書（第一號様式）

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

七五二

三 免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ登記簿ノ謄本

第十二條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載シ實測圖ヲ添附スベシ

一 工事ヲ執行スル區間ノ起點終點ノ地名地番及延長

二 鋪裝及路床ノ構造並ニ路面ノ横斷勾配

三 橋梁、溝橋、隧道其ノ他ノ工作物ノ構造（主要ナルモノニ在リテハ耐力計算書ヲ添附スルコト）

四 排水設備

五 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ方法並ニ鐵道、軌道等トノ交叉方法（交叉ニ關スル協定ノ要領ヲ記載スルコト）

2 前項第二號乃至第五號ノ事項ニ付テハ構造寸法ヲ示ス設計圖ヲ添附スベシ

3 設計圖ハ縮尺ヲ一般圖ニ在リテハ二百分ノ一以上、詳細圖ニ在リテハ五十分ノ一以上（鋼橋ニ在リテハ十五分ノ一以上）トスベシ但シ簡易ナル工作物ニ在リテハ定規圖ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條 實測圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ二千五百分ノ一以上トシ左ノ事項ヲ記載シ縮尺方位ヲ示スベシ

イ 起點終點ノ地名地番並ニ經過市町村名及其ノ境界線

ロ 中心線ヨリ左右各二十米以上ニ至ル區域内ノ地形地物

ハ 二十米毎（地形ニ依リ短縮スルコトヲ得）ノ測點及百米毎ノ遞加距離ヲ示シタル中心線

ニ 曲線ノ起點終點、半徑及交角

ホ 總幅員線、敷地境界線及自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地ノ境界線

ヘ 橋梁、隧道其ノ他主要ナル工作物ノ位置及名稱

ト 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置及名稱並ニ鐵道、軌道等トノ交叉ノ位置及名稱

チ 停留所、待避所等ノ位置及名稱

市街地ニ在リテハ縮尺五百分ノ一以上ノ平面圖ニ「イ」乃至「チ」ニ掲グル事項ヲ記載シ別ニ之ヲ添附スベシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ横ヲ平面圖、縱ヲ横斷面圖ト同一トシ左ノ事項ヲ記載スベシ

イ 測點番號、測點間距離及遞加距離

ロ 測點毎ノ中心線ノ地面、施工基面及盛土ノ高、切土ノ深

ハ 勾配及其ノ延長

ニ 縱斷曲線ノ位置及延長

ホ 曲線ノ起點終點、半徑及方向

ヘ 橋梁、溝橋、隧道其ノ他ノ工作物ノ位置及名稱（橋梁及溝橋ニ在リテハ其ノ種類及材質、徑間ノ長及數、隧道ニ在リテハ其ノ長ヲ明示スルコト）

ト 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置及名稱並ニ鐵道、軌道等トノ交叉ノ位置及名稱

チ 停留所、待避所等ノ位置及名稱

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

七五三

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

三 横斷面圖

縮尺ハ二百分ノ一以上トシ二十米毎(地形ニ依リ伸縮スルコトヲ得)ニ専用自動車道ノ敷地境界線ヨリ左右各五米以上ニ至ル區間ノ横斷面ヲ示シ左ノ事項ヲ記載スベシ

- イ 測點番號
- ロ 施行基面ノ幅
- ハ 盛土切土ノ斜面ノ勾配
- ニ 屈曲部ニ於ケル路面ノ片勾配
- ホ 敷地ノ境界及自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地ノ境界

第十四條 専用自動車道ノ全部ニ付工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ記載シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 自動車交通事業法第六條第三項ノ期間伸長ノ申請書ニハ伸長ノ期間及事由ヲ記載スベシ

第十六條 専用自動車道ノ工事方法變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

第十七條 専用自動車道ノ工事方法ノ變更ニシテ左ニ掲グルモノハ其ノ事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附シ運轉ナク之ヲ届出ツベシ

- 一 縱斷勾配ヲ緩ナラシメ又ハ二十分ノ一迄急ナラシムルトキ
- 二 縱斷曲線ヲ變更スルトキ
- 三 施工基面高ノ變更ニシテ路端ノ高ヲ增加スルトキ(洪水氾濫區域ヲ除ク)又ハ水流水面ノ

最高水位上三十釐迄低下スルトキ

四 視距ヲ長カラシメ又ハ八十米迄短縮スルトキ

五 盛土切土ノ斜面ノ勾配ヲ緩ナラシムルトキ

六 路肩ノ幅員ヲ擴張スルトキ

七 曲線ノ半徑ヲ長カラシメ又ハ百米迄短縮スルトキ

八 屈曲部ノ兩端ニ於ケル緩和區間ヲ長カラシムルトキ

九 路面上ノ有效高ヲ大ナラシメ又ハ四米迄短縮スルトキ

十 橋梁又ハ溝橋ノ桁ノ下端ト最高水位トノ間隔ヲ大ナラシムルトキ

十一 既認可ノ設計ト同一設計ニ依リ橋梁、溝橋又ハ隧道ヲ新設スルトキ

第十八條 運輸開始ノ認可申請書ニハ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ登記簿ノ謄本(當該區間ニ専用自動車道ヲ開設スル場合ヲ除ク)ヲ添附スベシ

第十九條 自動車運輸事業讓渡ノ許可申請書ニハ當事者連署シ(讓受人ニ付テハ本籍、住所及營業所ヲ附記スルコト)左ノ書類ヲ添附スベシ

- 一 讓渡ノ範圍及事由ヲ記載シタル書面(路線圖ヲ添附スルコト)
- 二 讓渡契約書ノ謄本及讓渡價額説明書

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

- 三 讓渡ニ付公共團體ノ議會、株主總會、無限責任社員、總社員又ハ組合員ノ決議又ハ同意ヲ要スルトキハ其ノ決議書又ハ同意書ノ謄本
 - 四 讓受ニ付第一條第一項第四號ニ準ズル書類
 - 五 自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定アルトキハ抵當權者ノ同意書ノ謄本
 - 2 自動車運輸事業ノ一部ヲ讓渡スル場合ニ於テハ讓渡及殘存部分ニ付第二條第一項ノ規定ニ準ジ作成シタル各別ノ事業計畫書ヲ提出シ事業計畫變更ノ手續ヲ省略スルコトヲ得
 - 3 第二條第二項ノ規定ハ讓渡人ガ讓受クル路線ト既免許路線トヲ通ジテ事業計畫ヲ定ムル場合ニ之ヲ準用ス
 - 4 公共團體ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル許可申請書ヲ提出スルトキハ同時ニ其ノ副本ヲ內務大臣ニ提出スベシ
- 第二十條 會社ノ合併ニ因ル自動車運輸事業承繼ノ許可申請書ニハ當事者連署シ左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 合併契約書ノ謄本
 - 二 合併ニ關スル株主總會ノ議事及決議ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員ノ同意書ノ謄本
 - 三 事業ヲ承繼スル會社ニ付第一條第一項第四號ニ準ズル書類
- 2 前條第三項ノ規定ハ合併後存續スル會社ガ既免許路線ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十一條 自動車運輸事業者死亡シタルニ因リ其事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ届出ツベシ
- 第二十二條 自動車運輸事業休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル路線、事業種別、期間及事由ヲ記載スベシ

- 2 許可ヲ受ケタル期間中ニ事業ヲ再開シタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ツベシ
- 第二十三條 自動車運輸事業廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル路線、事業種別及事由ヲ記載シ第十九條第一項第三號ニ準ズル書類ヲ添附スベシ
- 2 第十九條第二項ノ規定ハ事業ノ一部廢止ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十四條 自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ株主總會ノ議事及決議ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ
- 第二十五條 他ノ運送事業者(鐵道省ヲ除ク)ト連絡運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ遲滞ナク之ヲ届出ツベシ自動車運輸事業者ノ經營スル他ノ運送機關ト通ジ運送ヲ爲ストキ亦同ジ
- 一 相手方ノ名稱及運送機關
 - 二 連絡運輸ノ區域及取扱ノ範圍
 - 三 運賃ノ割賦方法
 - 四 連絡運輸開始ノ年月日
- 第二十六條 自動車運輸事業ノ共同經營ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ關係事業者連署ノ上遲滞ナク之ヲ届出ツベシ
- 一 共同經營ヲ爲ス區間
 - 二 共同經營ノ範圍及方法
 - 三 收入ノ割賦及支出ノ分擔方法
- 第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

- 四 共同經營ヲ爲ス期間
- 五 共同經營開始ノ年月日
- 六 其ノ他參考トナルベキ事項

第二十七條 自動車運輸事業經營ノ免許失效シタルトキハ遲滞ナク免許狀ヲ返納スベシ

第二十八條 自動車運輸事業者ハ每營業年度ノ經過後二月以内ニ營業報告書及統計報告書ヲ調製シ鐵道大臣及地方長官ニ之ヲ提出スベシ

第二十九條 自動車運輸事業者ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク之ヲ届出ヅベシ

- 一 免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人又ハ組合員ナル場合ニ於テ發起人又ハ組合員ガ加入シ又ハ脱退シタルトキ
- 二 自動車運輸事業ヲ承繼シタルトキ
- 三 認可ヲ受ケタル路線、運賃又ハ運轉系統ノ變更ヲ實施シタルトキ
- 四 路線ノ起點終點ノ地名地番又ハ經過市町村名ニ變更アリタルトキ
- 五 停留所ノ名稱ヲ變更シタルトキ

第二十章 自動車道事業

第三十條 自動車道事業經營ノ免許申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

- 一 事業計畫書
- 二 事業費概算書 (第二號様式)
- 三 收支概算書
- 四 一般自動車道豫測圖

五 申請者公共團體ナルトキハ自動車道事業ノ經營ニ關スル議會ノ決議要領書、既設會社ナルトキハ自動車道事業ヲ經營スルモノヲ除クノ外定款及登記簿ノ謄本並ニ最近ノ貸借對照表、會社ヲ設立セントスルモノナルトキハ定款ノ謄本、組合ナルトキハ組合契約書ヲ謄本

2 免許申請書ニハ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スベシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ其代理權ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第三十一條 事業計畫書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 一般自動車道ノ起點終點ノ地名及經過市町村名
- 二 一般自動車道ノ延長及一般ノ有效幅員
- 三 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡關係
- 四 一般自動車道ノ使用料金及使用料方法
- 五 事業費ノ總額及出資方法
- 六 主タル事務所ノ設置地

第三十二條 一般自動車道豫測圖ハ縮尺五萬分ノ一以上ノ平面圖トシ一般自動車道ノ起點終點、中心線、一軒毎ノ遞加距離、經過市町村名及地形地物ヲ記載シ縮尺方位ヲ示スベシ

第三十三條 使用料金ハ乗用自動車、貨物自動車其ノ他ノ自動車ニ區別シ均一制ニ在リテハ均一使用料金、區間制ニ在リテハ各區間ノ使用料金、料制ニ在リテハ對料使用料金ニ付之ヲ記載スベシ

2 自動車ノ重量、構造裝置等ニ依リ使用料金ニ差等ヲ設クルモノニ在リテハ其料金を記載スベシ

3 乘車員數制又ハ積載重量制ヲ併用スルモノニ在リテハ一人又ハ單位重量ニ對スル使用料金を記載スベシ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第三十四條

地方長官ハ免許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査書ヲ添ヘ免許ノ許否ニ關スル意見ヲ附シテ之ヲ進達スベシ

一 申請者ノ資産及信用程度

二 事業ノ成否及效用

三 附近ニ於ケル一般ノ道路又ハ自動車道ノ現況及其ノ交通状態並ニ一般ノ道路ノ新設改築計畫

四 自動車道事業、自動車運輸事業、鐵道、軌道、索道等（未開業ノモノヲ含ム）ニ及ボス影響

五 附近ニ於ケル自動車道事業、自動車運輸事業、鐵道、軌道、索道等ノ出願アルトキハ其名

稱、區間、申請者、申請書ノ受附年月日等

第三十五條

免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人又ハ組合員ナル場合ニ於テハ發起人又ハ組合員ガ加入シ又ハ脱退セントスルトキハ認可ヲ受クベシ

第三十六條

事業計畫變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

2 主タル事務所ノ設置地ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ヅベシ

3 工事施行ノ認可ヲ受ケタル後事業計畫ヲ變更セントスル場合ニ於テ其ノ變更セントスル事項ガ

工事方法ノ變更ヲ伴フモノナルトキハ工事方法變更ノ認可ヲ以テ事業計畫變更ノ認可アリタル

モノト看做ス

第三十七條 工事施行ノ認可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一 實測圖

二 工事方法書

三 工事費豫算書（第三號様式）

四 免許ヲ受ケタルモノ會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ登記簿ノ謄本

第三十八條

實測圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ二千五百分ノ一以上トシ左ノ事項ヲ記載シ縮尺方位ヲ示スベシ

イ 起點終點ノ地名番竝ニ經過市町村名及其ノ境界線

ロ 中心線ヨリ左右各二十米以上ニ至ル區域内ノ地形地物

ハ 二十米毎（地形ニ依リ短縮スルトコトヲ得）ノ測點及百米毎ノ遞加距離ヲ示シタル中心線

ニ 曲線ノ起點終點、半徑及交角

ホ 總幅員線、敷地境界線及自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地ノ境界線

ヘ 橋梁、隧道、其ノ他ノ主要ナル工作物ノ位置及名稱

ト 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置及名稱竝

ニ 鐵道軌道等トノ交叉ノ位置及名稱

チ 駐車場、給油所、使用料金徵收所、事務員駐在所等ノ位置

リ 通信、信號、標識及保安ノ設備ノ位置

市街地ニ在リテハ縮尺五百分ノ一以上ノ平面圖ニ「イ」乃至「リ」ニ掲グル事項ヲ記載シ別ニ之

ヲ添附スベシ

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

二 縱斷面圖

- 縮尺ハ横ヲ平面圖、縦ヲ橫斷面圖ト同一トシ左ノ事項ヲ記載スベシ
- イ 測點番號、測點間距離及遞加距離
- ロ 測點毎ノ中心線ノ地面、施工基面及盛土ノ高、切土ノ深
- ハ 勾配及其ノ延長
- ニ 縱斷曲線ノ位置及延長
- ホ 曲線ノ起點終點、半徑及方向
- ヘ 橋梁、溝橋、隧道其ノ他ノ工作物ノ位置及名稱（橋梁及溝橋ニ在リテハ其ノ種類及材質、徑間ノ長及敷、隧道ニ在リテハ其ノ長ヲ明示スルコト）
- ト 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ位置及名稱
- ニ 鐵道、軌道等トノ交叉ノ位置及名稱
- 三 橫斷面圖
 - 縮尺ハ二百分ノ一以上トシ二十米毎（地形ニ依リ伸縮スルコトヲ得）ニ一般自動車道ノ敷地境界線ヨリ左右各五米以上ニ至ル區間ノ橫斷面ヲ示シ左ノ事項ヲ記載スベシ
 - イ 測點番號
 - ロ 施工基面ノ幅
 - ハ 盛土切土ノ斜面ノ勾配
 - ニ 屈曲部ニ於ケル路面ノ片勾配
 - ホ 敷地ノ境界及自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地ノ境界

第三十九條

工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 工事ヲ執行スル區間ノ起點終點ノ地名並ニ中心線ノ位置及延長
- 二 荷重
- 三 縱斷勾配
- 四 施工基面高
- 五 視距
- 六 盛土切土ノ斜面ノ勾配
- 七 有效幅員及路肩ノ幅員
- 八 舗裝及路床ノ構造並ニ路面ノ橫斷勾配
- 九 曲線ノ半徑
- 十 屈曲部ノ兩端ニ於ケル緩和區間ノ延長
- 十一 工作物ノ構造（橋梁、隧道其ノ他ノ主要ナル工作物ニ在リテハ耐力計算書及地質調査圖書ヲ添附スルコト）
- 十二 排水設備
- 十三 一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路トノ連絡若ハ交叉ノ方法並ニ鐵道、軌道等トノ交叉方法（交叉ニ關スル協定ノ要領ヲ記載スルコト）
- 十四 駐車場ノ位置、面積及構造
- 十五 通信、信號、標識、保安又ハ照明ノ設備
- 十六 給油所、使用料金徴收所、事務員駐在所等ノ位置

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

2 前項第六號ノ事項ニ付テハ橫斷定規圖ヲ、第八號乃至第十五號ノ事項ニ付テハ構造寸法ヲ示ス設計圖ヲ添附スベシ

3 橫斷定規圖ハ縮尺ヲ五十分ノ一以上トシ路面ノ橫斷勾配、盛土切土ノ斜面ノ勾配（高又ハ地質ニ應ズル斜面ノ勾配ヲ記載スルコト）並ニ排水設備ノ位置及斷面ヲ記載スベシ

4 設計圖ハ縮尺ヲ一般圖ニ在リテハ二百分ノ一以上、詳細圖ニ在リテハ五十分ノ一以上（鋼橋ニ在リテハ十五分ノ一以上）トスベシ但シ簡易ナル工作物ニ在リテハ定規圖ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四十條 一般自動車道ノ全部ニ付工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ記載シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第四十一條 自動車交通事業法第十九條第二項及第二十條第二項ノ期間伸長ノ申請書ニハ伸長ノ期間及事由ヲ記載スベシ

第四十二條 工事方法變更ノ認可申請書ニハ變更セントスル事項及事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附スベシ

第四十三條 工事方法ノ變更ニシテ左ニ掲グルモノハ其ノ事由ヲ記載シ新舊ヲ對照シタル書類及圖面ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ届出ヅベシ

一 縱斷勾配ヲ緩ナラシメ又ハ二十分ノ一迄急ナラシムルトキ
二 縱斷曲線ヲ變更スルトキ
三 施工基面高ノ變更ニシテ路端ノ高ヲ增加スルトキ（洪水氾濫區域ヲ除ク）又ハ水流水面ノ最高水位上三十糎迄低下スルトキ

四 視距ヲ長カラシメ又ハ百三十米迄短縮スルトキ
五 盛土切土ノ斜面ノ勾配ヲ緩ナラシムルトキ
六 路肩ノ幅員ヲ擴張スルトキ
七 曲線ノ半徑ヲ長カラシメ又ハ三百米迄短縮スルトキ
八 屈曲部ノ兩端ニ於ケル緩和區間ヲ長カラシムルトキ
九 路面上ノ有效高ヲ大ナラシメ又ハ四米迄短縮スルトキ
十 橋梁又ハ溝橋ノ桁ノ下端ト最高水位トノ間隔ヲ大ナラシムルトキ
十一 既認可ノ設計ト同一設計ニ依リ橋梁、溝橋又ハ隧道ヲ新設スルトキ
十二 通信、信號、標識、保安又ハ照明ノ設備ノ改良又ハ些少ナル變更ヲ爲ストキ
十三 給油所、使用料金徵收所、事務員駐在所等ヲ新設シ又ハ其ノ位置ヲ變更スルトキ

第四十四條 自動車道事業讓渡ノ許可申請書ニハ當事者連署シ左ノ書類ヲ添附スベシ
一 讓渡契約書ノ謄本
二 讓渡ニ關スル公共團體ノ議會ノ決議要領書、讓渡ニ付株主總會、無限責任社員、總社員又ハ組合員ノ決議又ハ同意ヲ要スルトキハ其ノ決議書又ハ同意書ノ謄本
三 讓受ニ付第三十條第一項第五號ニ準ズル書類
四 自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定アルトキハ抵當權者ノ同意書ノ謄本

第四十五條 會社ノ合併ニ因ル自動車道事業承繼ノ許可申請書ニハ當事者連署シ左ノ書類ヲ添附スベシ
一 合併契約書ノ謄本

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則 七六五

第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法施行規則

二 合併ニ關スル株主總會ノ議事及決議ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員ノ同意書ノ謄本
 三 事業ヲ承繼スル會社ニ付第三十條第一項第五號ニ準ズル書類
 第四十六條 自動車道事業者死亡シタルニ因リ其ノ事業ヲ承繼シタル相續人ハ戶籍謄本ヲ添附シ
 遲滞ナク之ヲ届出ヅベシ
 第四十七條 一般自動車道ノ供用休止ノ許可申請書ニハ休止セントスル區間、期間及事由ヲ記載
 スベシ
 2 許可ヲ受ケタル期間中ニ供用ヲ再開シタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ヅベシ

第四十八條 一般自動車道ノ供用廢止ノ許可申請書ニハ廢止セントスル區間及事由ヲ記載シ第四
 十四條第二號ニ準ズル書類ヲ添附スベシ

第四十九條 自動車道事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ノ認可申請書ニハ解散ノ事
 由ヲ記載シ株主總會ノ議事及決議ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附ス
 ベシ

第三章 雜 則

第五十條 自動車交通事業法及本令ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書其ノ他ノ書類ハ自動車運輸事
 業ニ在リテハ路線ノ所在地、自動車道事業ニ在リテハ一般自動車道ノ所在地ヲ管轄スル地方長
 官ヲ經由スベシ但シ二府縣以上ニ跨ルモノニ在リテハ事件ガ二府縣以上ニ關スル場合ニ限リ其
 起點ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ
 2 前項但書ノ場合ニ於テ申請書ヲ受附ケタル地方長官ハ關係地方長官ニ商議スベシ
 第五十一條 本令中地方長官トアルハ自動車運輸事業ニ關スル限り東京府ニ在リテハ警視總監ト

ス但シ當該路線ノ全部又ハ一部ニ專用自動車道ヲ含ムモノニ在リテハ警視總監及東京府知事ト
 ス

附 則

1 本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和八年十月一日)
 2 本令施行前ニ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依
 リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

◎自動車交通事業法第三十五條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件

(昭和八年八月五日
 鐵道內務省令)

第一條 自動車交通事業法第四條、第五條、第十條、第十三條第一項第二項及第十四條ノ規定ニ
 依ル免許、許可其ノ他ノ處分ハ左ニ掲グル自動車運輸事業ニ關スルモノヲ除キ之ヲ地方長官ニ
 委任ス
 一 路線ノ全部又ハ一部ガ東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ノ道路元標ヨ
 リ二十軒ノ範圍内ニ在ルモノ
 二 路線ノ全部又ハ一部ガ自動車道ニ依ルモノ
 三 當該路線ヨリ五軒(起點又ハ終點ヨリ八十軒)ノ範圍内ニ鐵道、軌道、索道、自動車事業
 又ハ他ノ自動車運輸事業ノ路線(未開業及出願中ノモノヲ含ム)在ルモノ
 第六類 軌道地方鐵道及自動車 自動車交通事業法第三十五條ノ
 規定ニ依ル職權委任ニ關スル件 七六七